



**2018年上期の業種別部会長シンポジウム**

**SIMPÓSIO DOS PRESIDENTES DOS  
DEPARTAMENTOS SETORIAIS**

**CÂMARA DE COMÉRCIO E INDÚSTRIA JAPONESA DO BRASIL**

**HomePage: [www.camaradojapao.org.br](http://www.camaradojapao.org.br) / E-mail: [secretaria@camaradojapao.org.br](mailto:secretaria@camaradojapao.org.br)**

**前半司会**

**小池 淳介 総務委員長**

**APRESENTADOR**

**Presidente da Comissão  
de Coordenação Geral**

**Junsuke Koike**

挨拶

松永 愛一郎 会頭

**Palavras do Presidente da Câmara:**

**Aiichiro Matsunaga**

**金融 部会**

**安田 篤 部会長**

**Departamento Financeiro**

**Presidente: Atsushi Yasuda**

# 2017年の回顧と2018年の展望

## 「今求められる新たな視点は」

2018年3月1日(木)

---

1. ブラジル経済動向 P2-14
2. 銀行業界動向 P15-18
3. 保険業界動向 P19-23

# 1. ブラジル経済動向

<p>汚職捜査の進展</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ペトロbras社を巡る警察・検察による捜査(“ラヴァ・ジャット作戦”)は、第47ステージまで進展。</li> <li>• 5月にテメル大統領によるJBSからの収賄疑惑が浮上。10月26日に検察の起訴要求を議会が否認。</li> <li>• 2018年1月、ルーラ元大統領へ2審で有罪判決。</li> </ul>
<p>テメル政権による改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 公営インフラの民営化を推進。 8月にはエレトロbras、コンゴニャス空港を含む57の民営化(1兆5千億円規模)を発表。</li> <li>• 改正労働法を7月に議会承認、11月に施行。 改正労働法は約100項目を変更。生産性などに基づいた賃下げ交渉を可能にする等、制度を柔軟にした。</li> <li>• 年金改革法案は12月の採択を2月へ延期するも、2月中に採択を再度見送りし、15の改革を優先して取り組むことを表明。</li> </ul>
<p>主要格付機関ソブリン格下げ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2017年5月 Moody'sは、テメル大統領の収賄疑惑を受け、政治的混乱に伴う財政再建の遅れの懸念から、 格付をBa2「Negative」へ見通しを引き下げ</li> <li>• 2018年1月 S&amp;Pは、12月の年金改革法案の2月への延期を受け、財政改革の遅れの懸念から、 格付をBB-へを引き下げ</li> </ul>



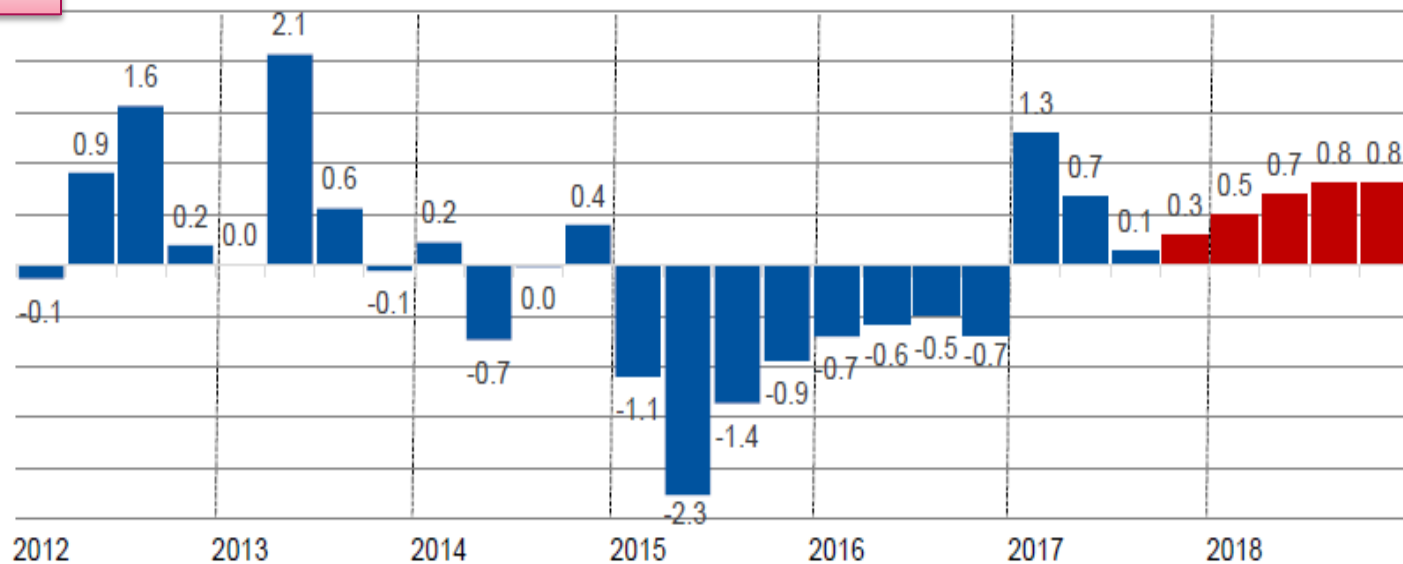
# 主要マクロ経済指標の推移と予測

金融部会

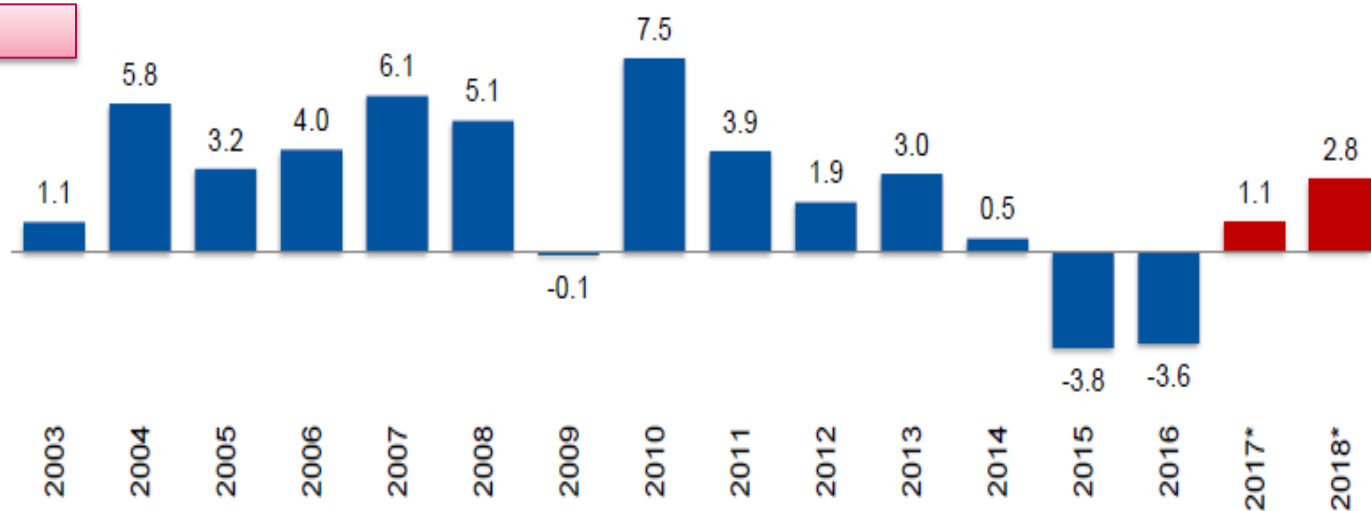
		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年 見込み	2018年 予想	備考
GDP成長率(%)		1.9	3.0	0.5	▲3.8	▲3.6	1.1	2.7	
名目GDP	(BRL/10億)	4,806	5,316	5,779	6,000	6,267	6,599	7,132	
	(USD/10億)	2,459	2,464	2,456	1,802	1,799	2,068	2,181	
貿易収支(USD/10億)		19.4	2.6	▲6.3	19.7	47.7	64.0	53.2	
小売売上動向指数(%)		8.4	4.3	2.2	▲4.3	▲6.2	2.0	3.0	
基礎的財政収支(BRL/10億)		105	91	▲33	▲111	▲156	▲110	▲154	
株価【BOVESPA】(ポイント)		60,952	51,507	50,007	43,350	60,227	76,402	N/A	2017年確定値
政策金利【Selicレート】(%)		7.25	10.00	11.75	14.25	13.75	7.00	6.75	2017年確定値
インフレ率【IPCA】(%)		5.8	5.9	6.4	10.7	6.3	2.9	3.9	2017年確定値
為替レート(リアル/ドル)		2.05	2.34	2.66	3.90	3.26	3.31	3.20	2017年確定値

出所: 各種資料に基づき、ブラデスコ銀行が作成

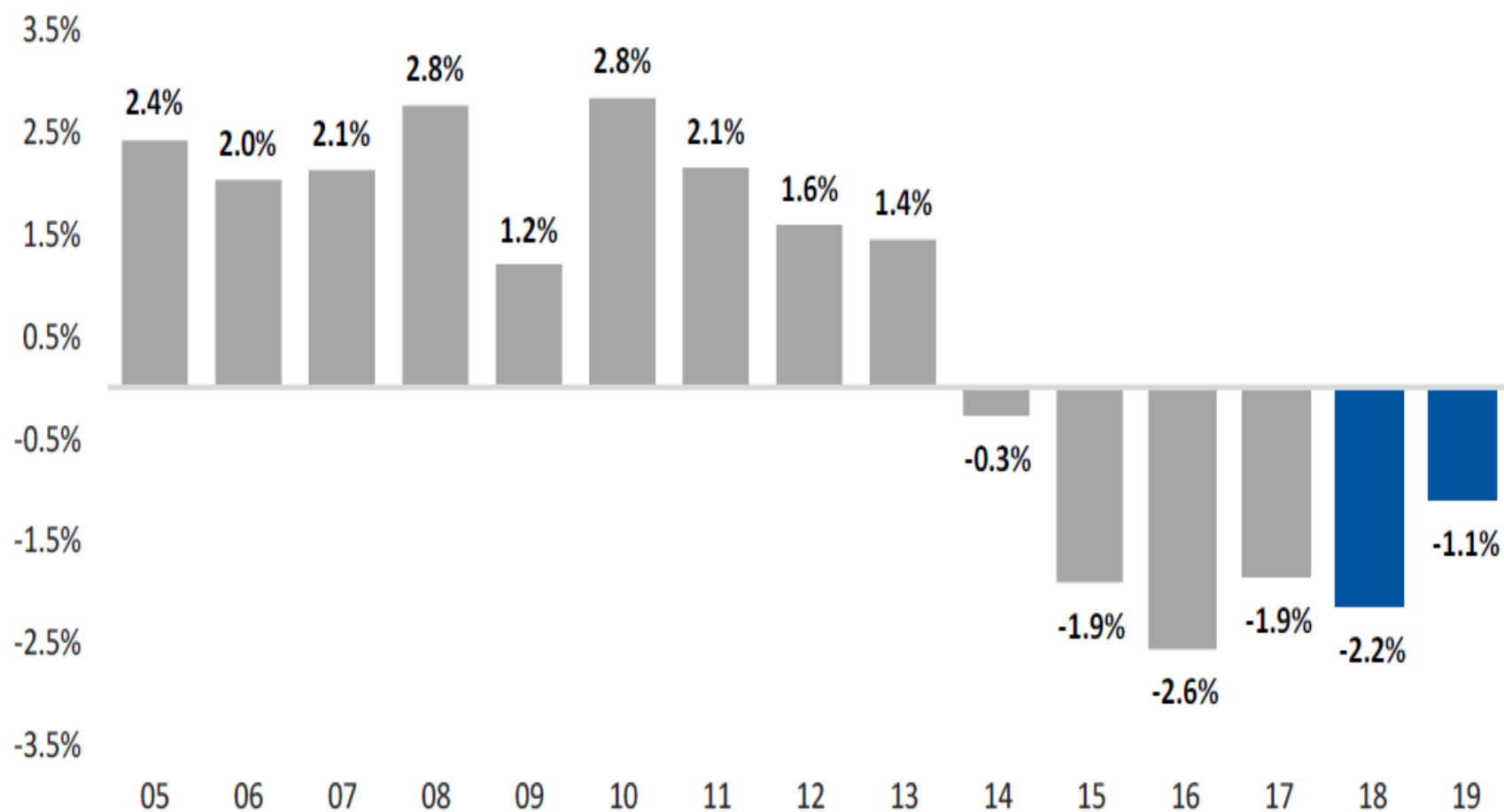
四半期ベース



年ベース

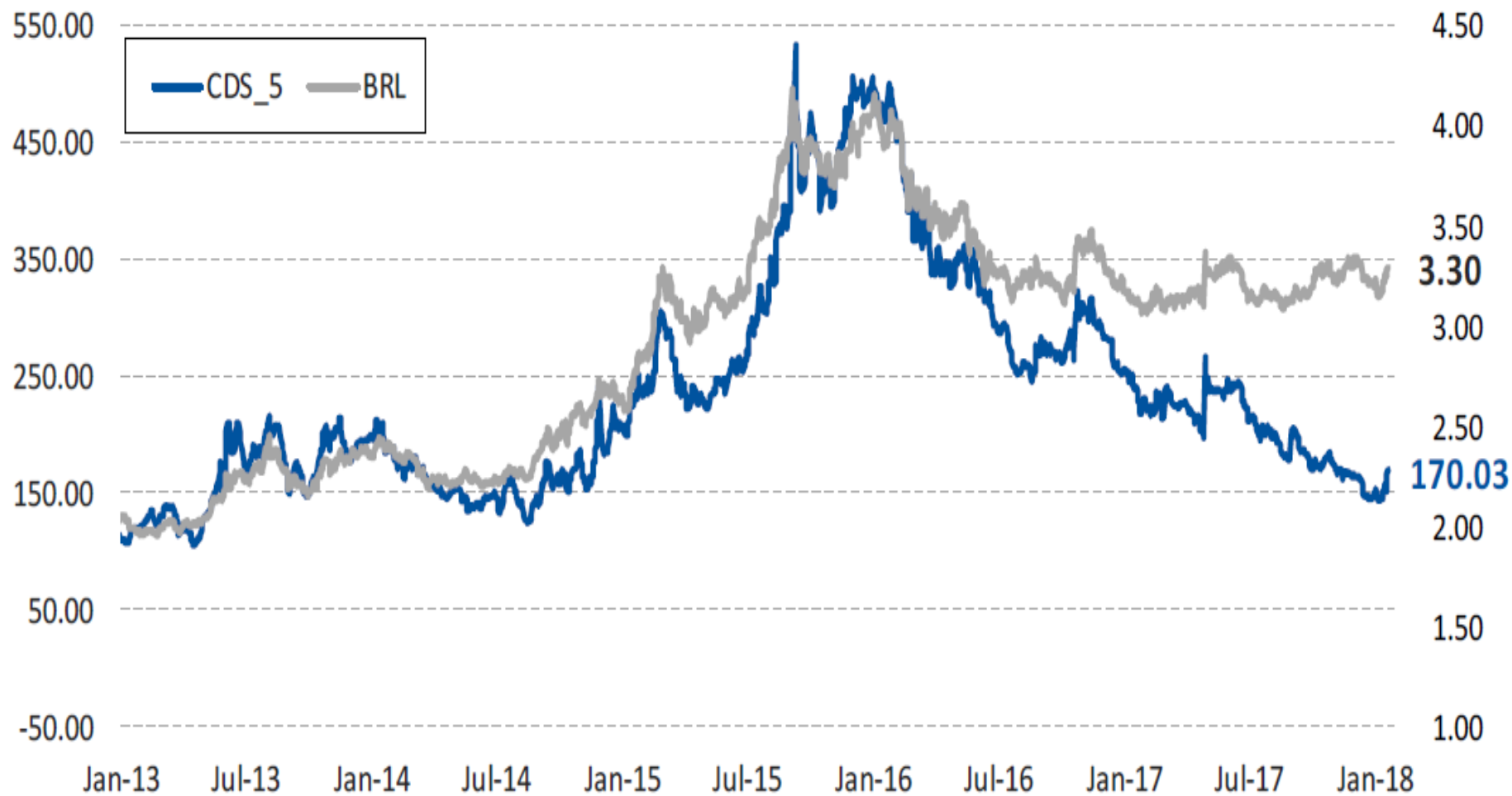


出所: 各種資料に基づき、ブラデスコ銀行が作成



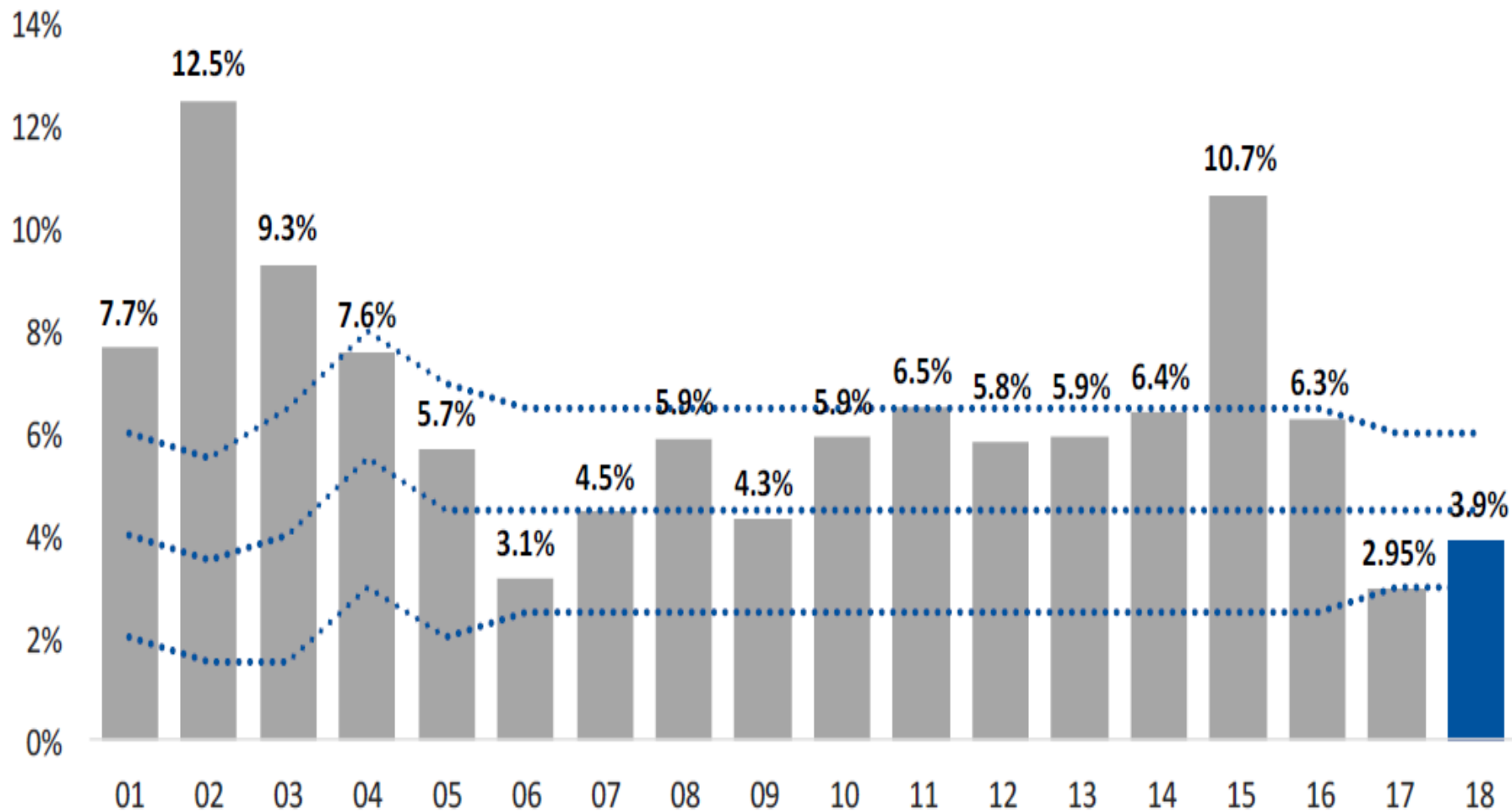
(単位: bps)

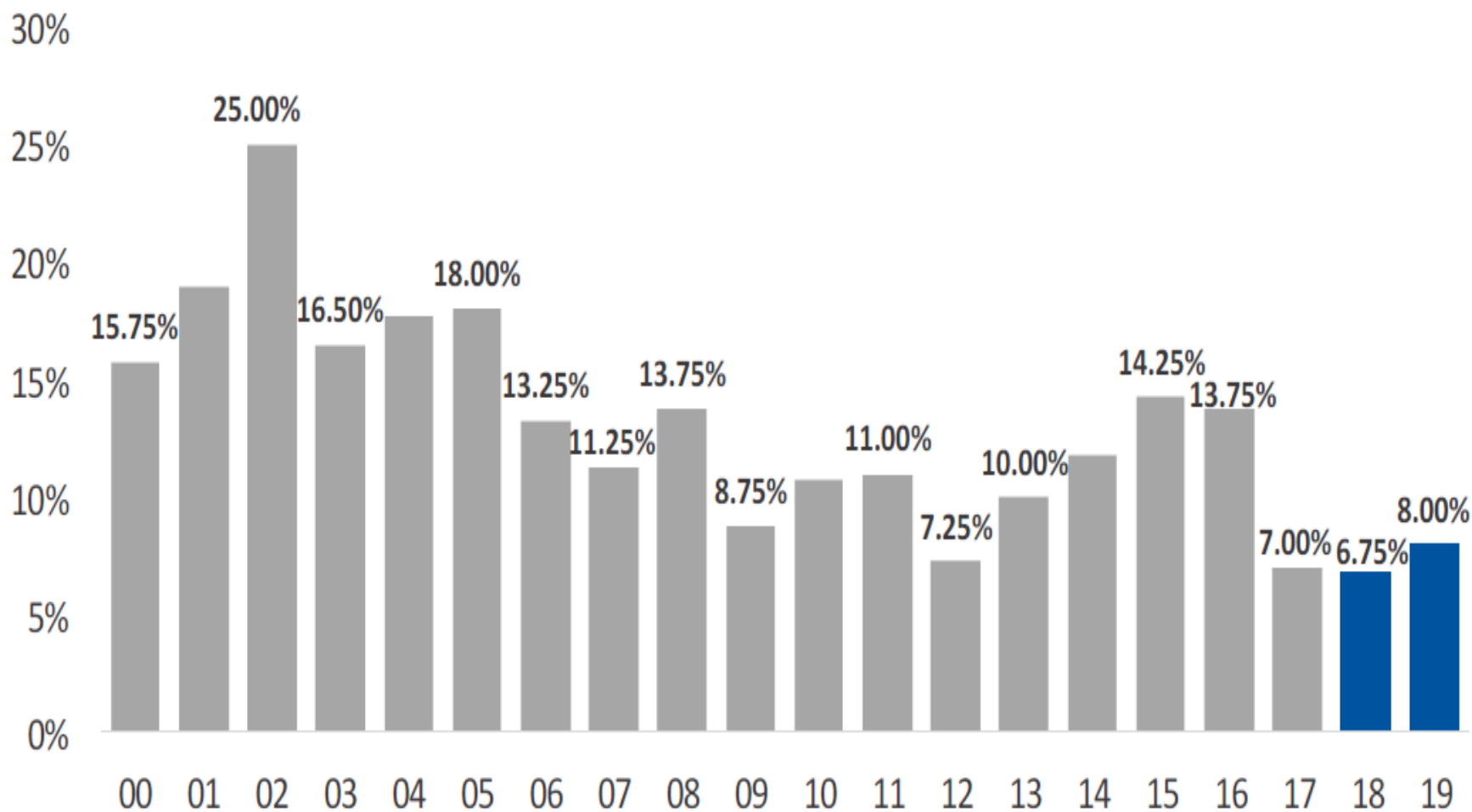
(単位: BRL/USD)



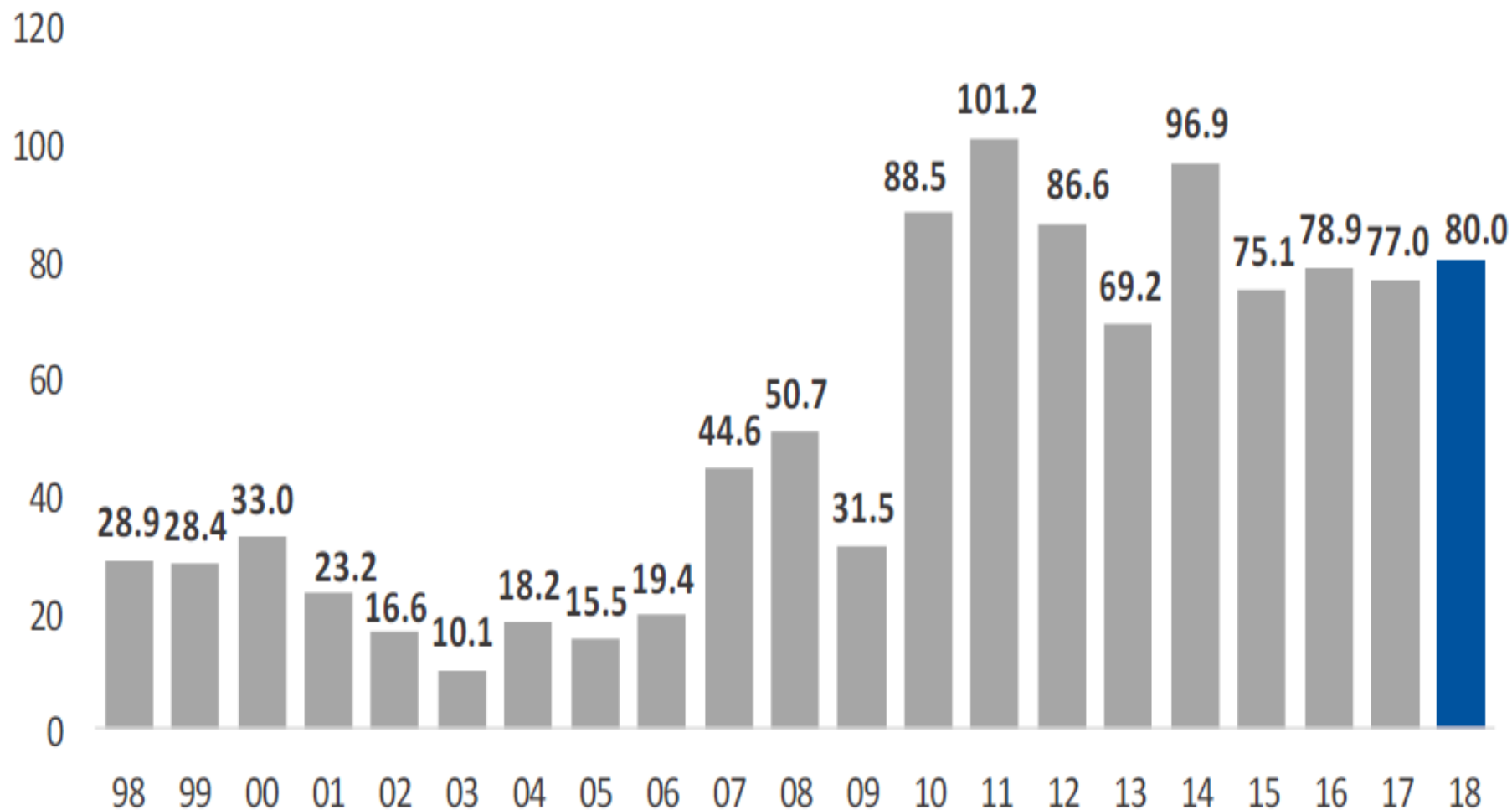
出所: 各種資料に基づき、ブラデスコ銀行が作成





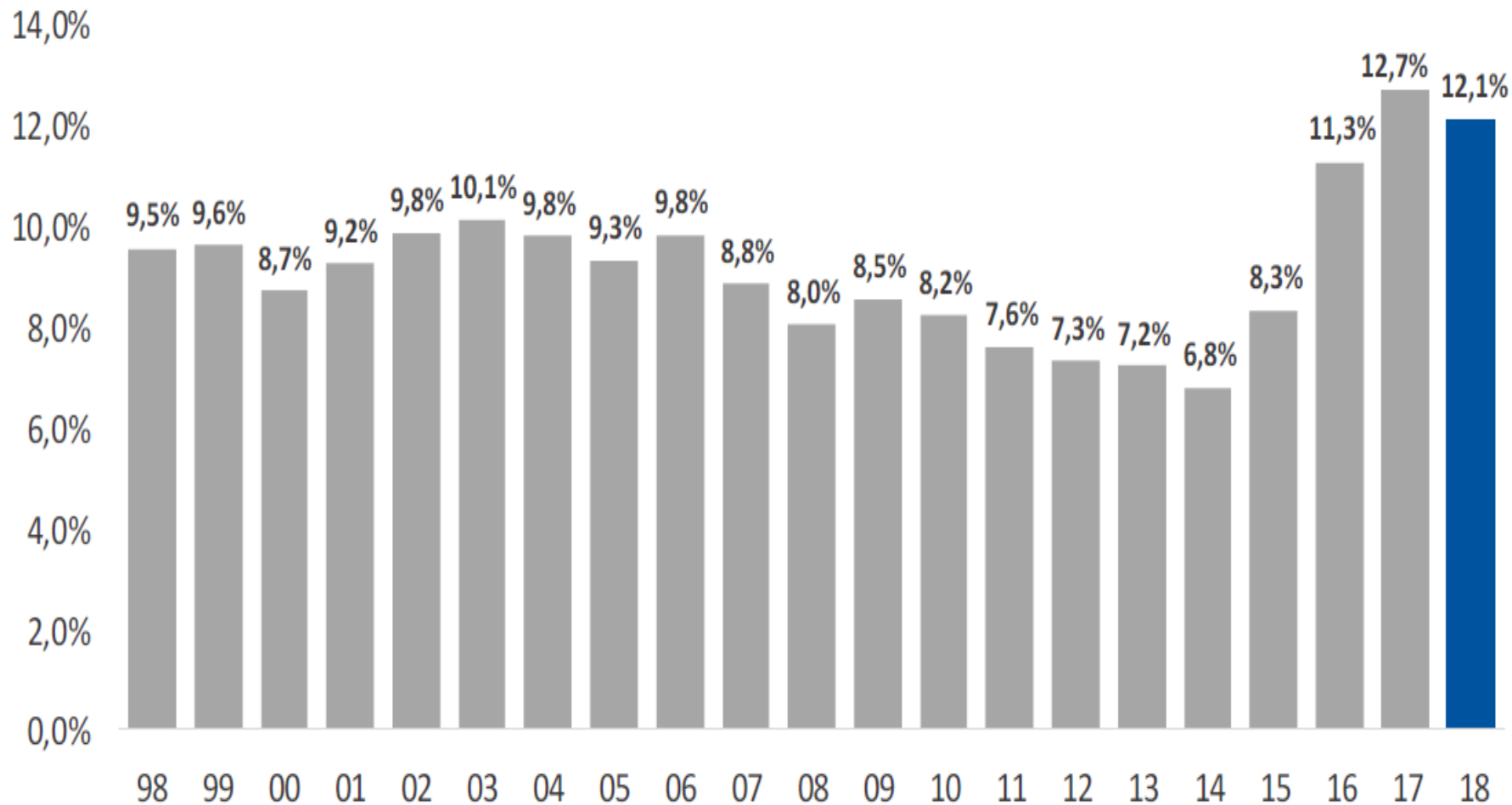


(10億ドル)





(USD Bio)



指標	2017年		2018年		2019年	
	金融部会 予測値 2017年8月 シンポジウム 予測値	実績	Focus 予測値 2018/2/9	金融部会 予測値 レンジ	Focus 予測値 2018/2/9	金融部会 予測値 レンジ
GDP成長率 (前年比%)	0.00 ～ 0.40	1.10 (推定値)	2.70	2.00 ～ 3.00	3.00	2.50 ～ 3.00
インフレ率 (IPCA%)	3.00 ～ 3.90	2.95	3.84	3.90 ～ 4.40	4.25	4.20 ～ 6.00
年末為替レート (リアル/ドル)	3.20 ～ 3.40	3.26	3.30	3.20 ～ 3.50	3.39	3.15 ～ 3.80
年末政策 目標金利 (%)	7.50 ～ 8.00	7.00	6.75	6.75 ～ 7.25	8.00	8.00 ～ 9.00

大統領選を始めとする政局展開が不透明である中、本格的なブラジル経済回復の契機となるものは何か？

- 低インフレ環境の長期化、及び低金利
- 個人消費(家計消費)の本格回復
- 貿易、特に中国向け輸出の伸びの本格化
- 年金改革法案の可決

今後、ブラジル経済に影響を与える外的な要因があるとすれば何か？

- グローバルな金利正常化の流れ
- EUの動向(イタリア総選挙(3月4日)等政治イベント有り)
- 地政学リスクの顕在化
- 中国経済の動向
- 対ブラジルの直接投資の質

(日系企業或いは日系金融機関として)ブラジルをこれまでと違った新たな見方で捉えたとしたら、どんな視点か？

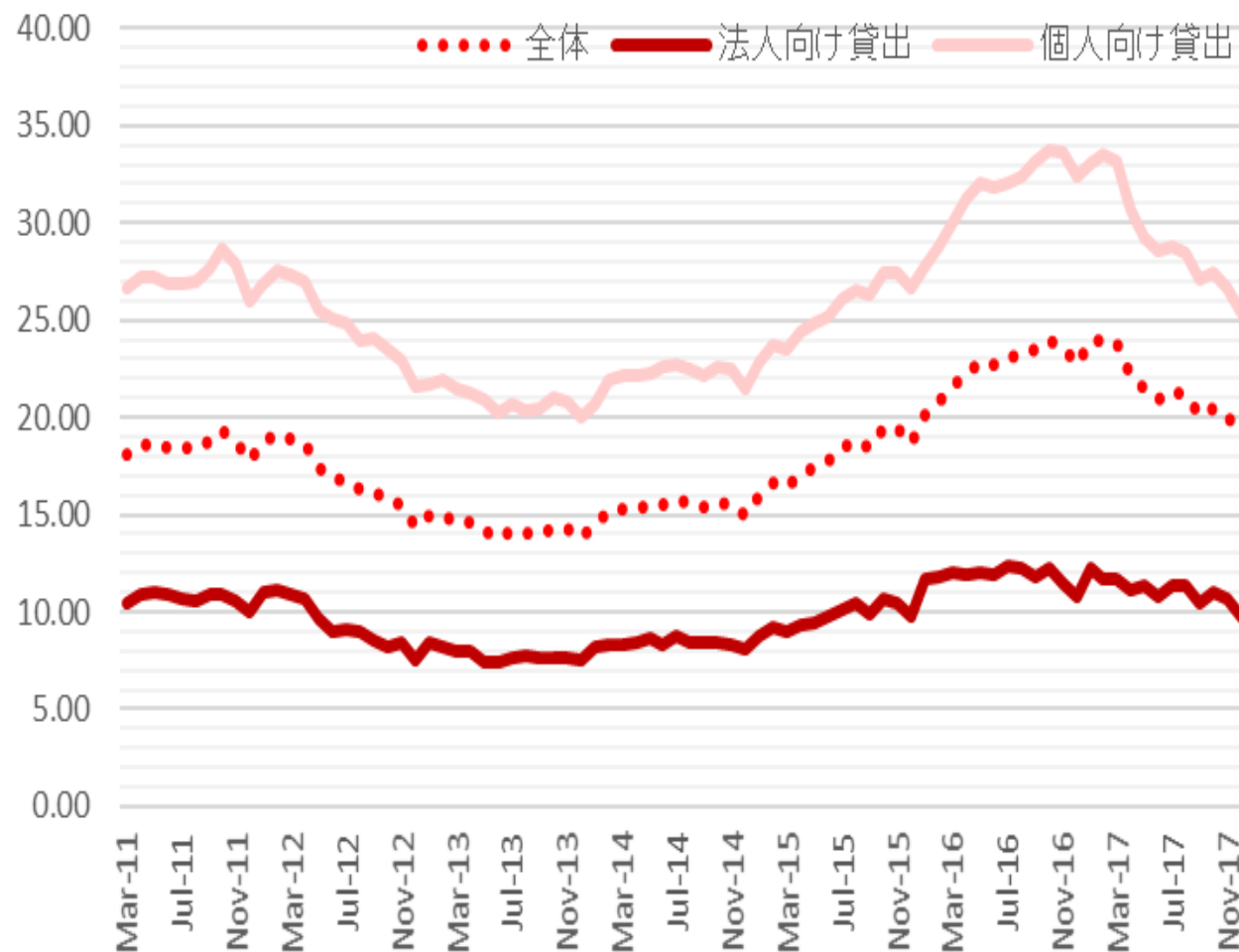
- マーケットフレンドリーな環境への改革
- 格付けと資金フローの相関低下
- ものからサービスへの転換

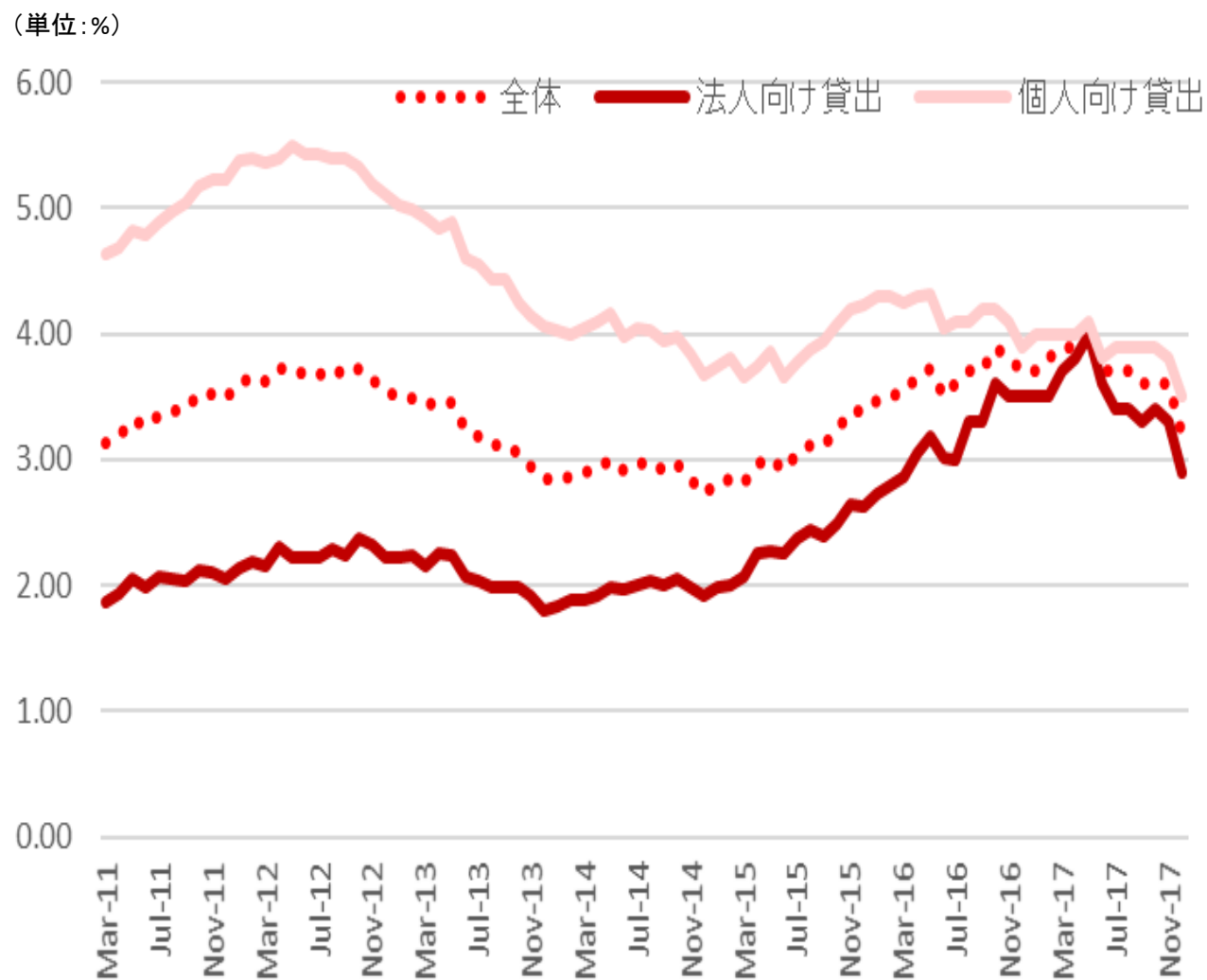
## 2. 銀行業界動向

(10億リアル)	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
個人向け貸出	627	776	920	1,074	1,246	1,412	1,512	1,561	1,649
(同増加率)	N. A.	23.8%	18.6%	16.7%	16.0%	13.3%	7.1%	3.2%	5.6%
法人向け貸出	794	937	1,114	1,294	1,466	1,605	1,707	1,546	1,437
(同増加率)	N. A.	18.0%	18.9%	16.2%	13.3%	9.5%	6.4%	-9.4%	-7.1%
農業	N. A.	N. A.	N. A.	20	22	24	25	24	22
(同増加率)	N. A.	N. A.	N. A.	N. A.	10.0%	9.1%	4.2%	-4.0%	-7.3%
鉱工業	N. A.	N. A.	N. A.	619	705	782	833	747	670
(同増加率)	N. A.	N. A.	N. A.	N. A.	13.9%	10.9%	6.5%	-10.3%	-10.3%
サービス業等	N. A.	N. A.	N. A.	655	739	799	849	775	745
(同増加率)	N. A.	N. A.	N. A.	N. A.	12.8%	8.1%	6.3%	-8.7%	-3.9%
合計	1,421	1,713	2,034	2,368	2,712	3,017	3,219	3,107	3,086
(同増加率)	N. A.	20.5%	18.7%	16.4%	14.5%	11.2%	6.7%	-3.5%	-0.7%

出所: 各種資料に基づき、ブラデスコ銀行が作成

(単位: % P.A.)

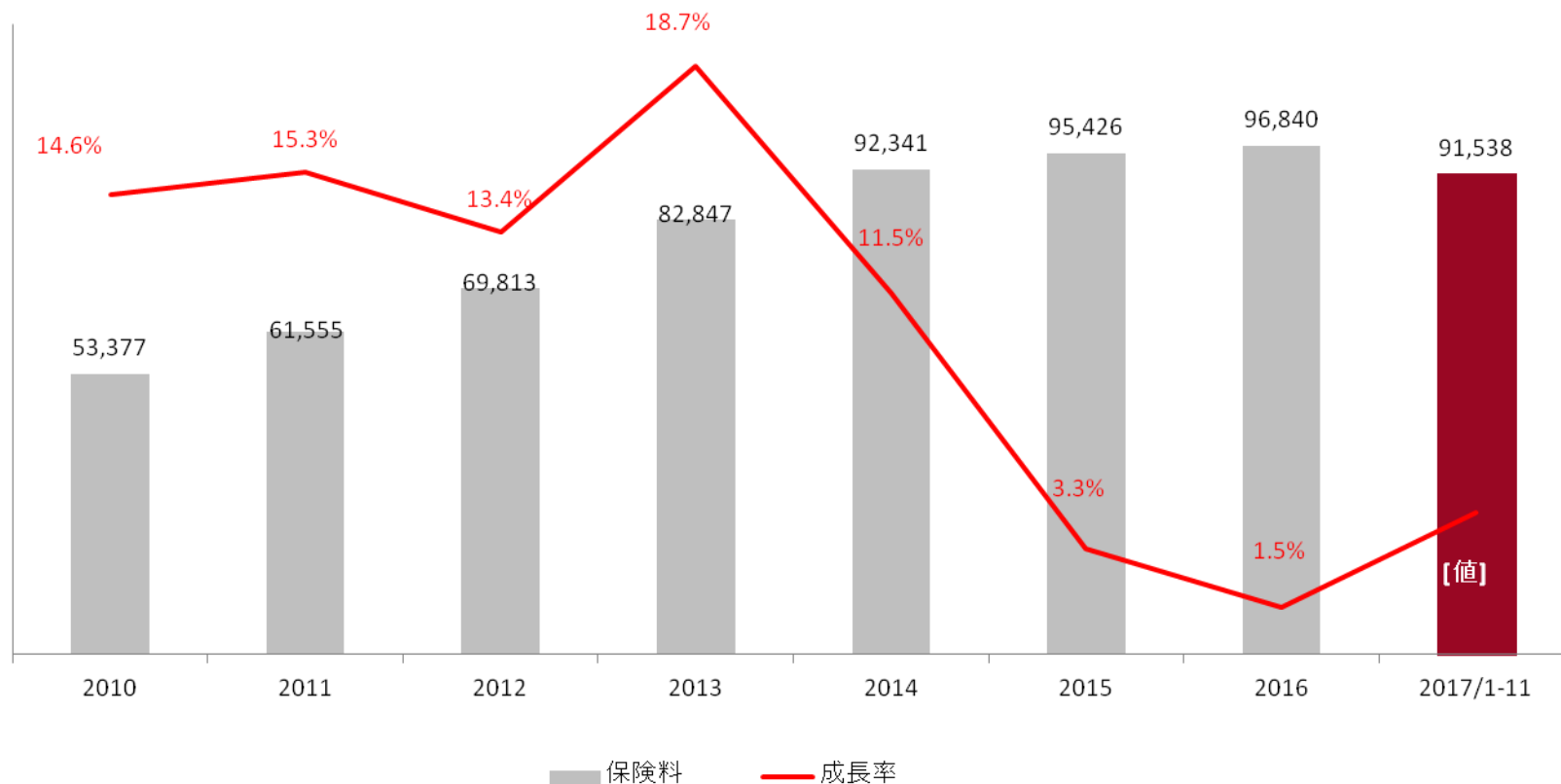




### 3. 保険業界動向

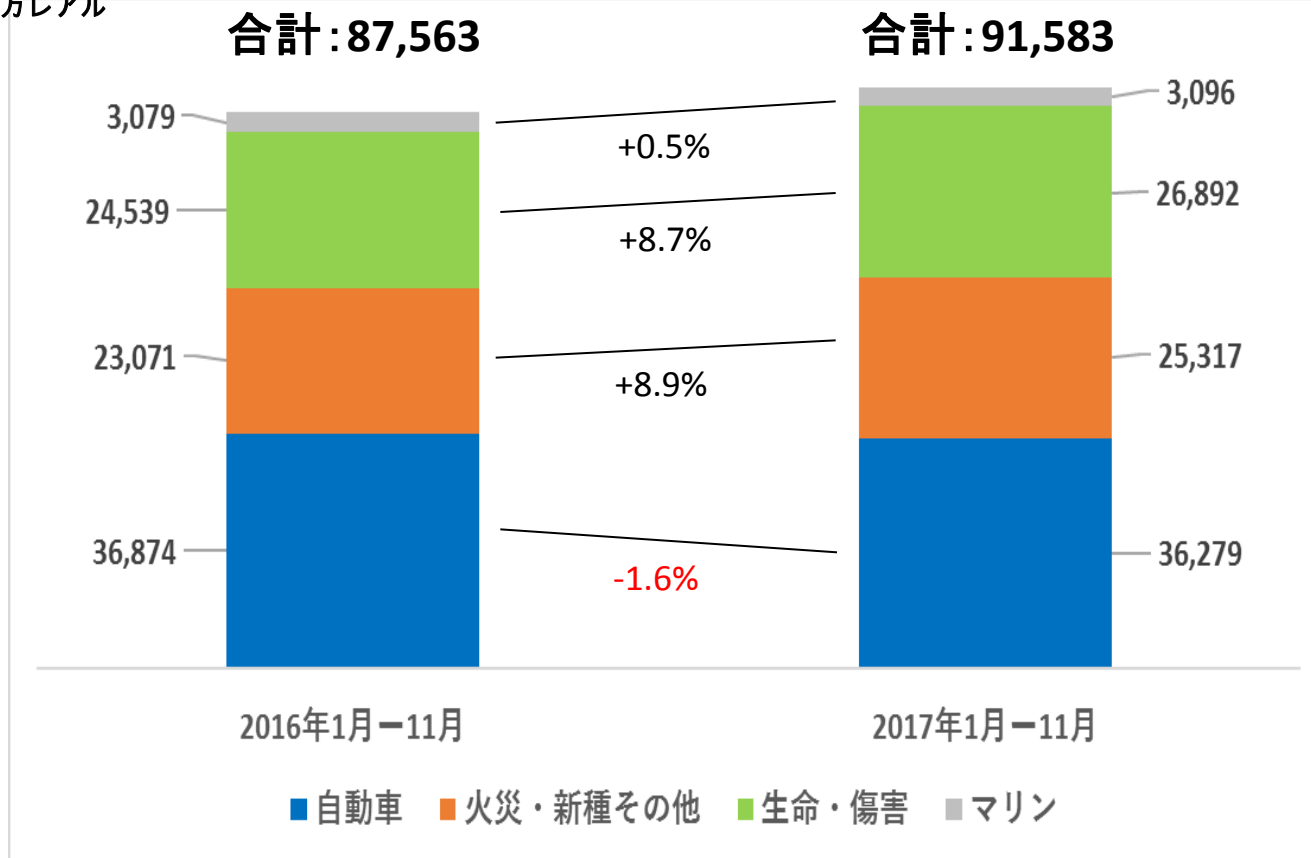


単位：百万リアル



ブラジル経済の低迷により鈍化していた成長率が底を打ち、増加トレンドへシフト。

単位：百万リアル



自動車は昨年に引き続き減少傾向であるが、その他種目は増加傾向。

※グロス損害率

保険種目	2016年1－11月	2017年1－11月	前年比
自動車	62.3%	60.7%	-1.7pt
火災・新種その他	38.9%	36.0%	-2.9pt
生命・傷害	32.2%	30.1%	-2.1pt
マリン	56.8%	58.2%	1.4pt
合計	47.5%	44.8%	-2.7pt

- ・保険料収入約4.5%増加に対し、損害保険金は約1.5%減少しており、損害率全体では2.7pt改善。
- ・運送及び外航保険等のマリン種目は損害率悪化傾向を維持しており、特に貨物の盗難事故は依然として多発している。

出所：SUSEP

区分	2017年成長率（見込）	2018年成長率（予測）
損害保険（自動車・火災新種・マリン）	2.3%	6.7%
生命保険・傷害保険	9.0%	6.4%
合計	4.2%	6.6%

- ・ 2017年の成長率は、生命保険分野の成長率が高く、トータルとしては約4%台の予定。
- ・ 2018年の見通しでは、両種目共に6%台の成長率が見込まれており、前年を上回る予測。

出所：SISCORP

**貿易 部会**

**今井 重利 部会長**

**Departamento de Comércio Exterior**

**Presidente: Shigetoshi Imai**

# 2017年の回顧と 2018年の展望

2018年3月1日  
ブラジル日本商工会議所  
貿易部会

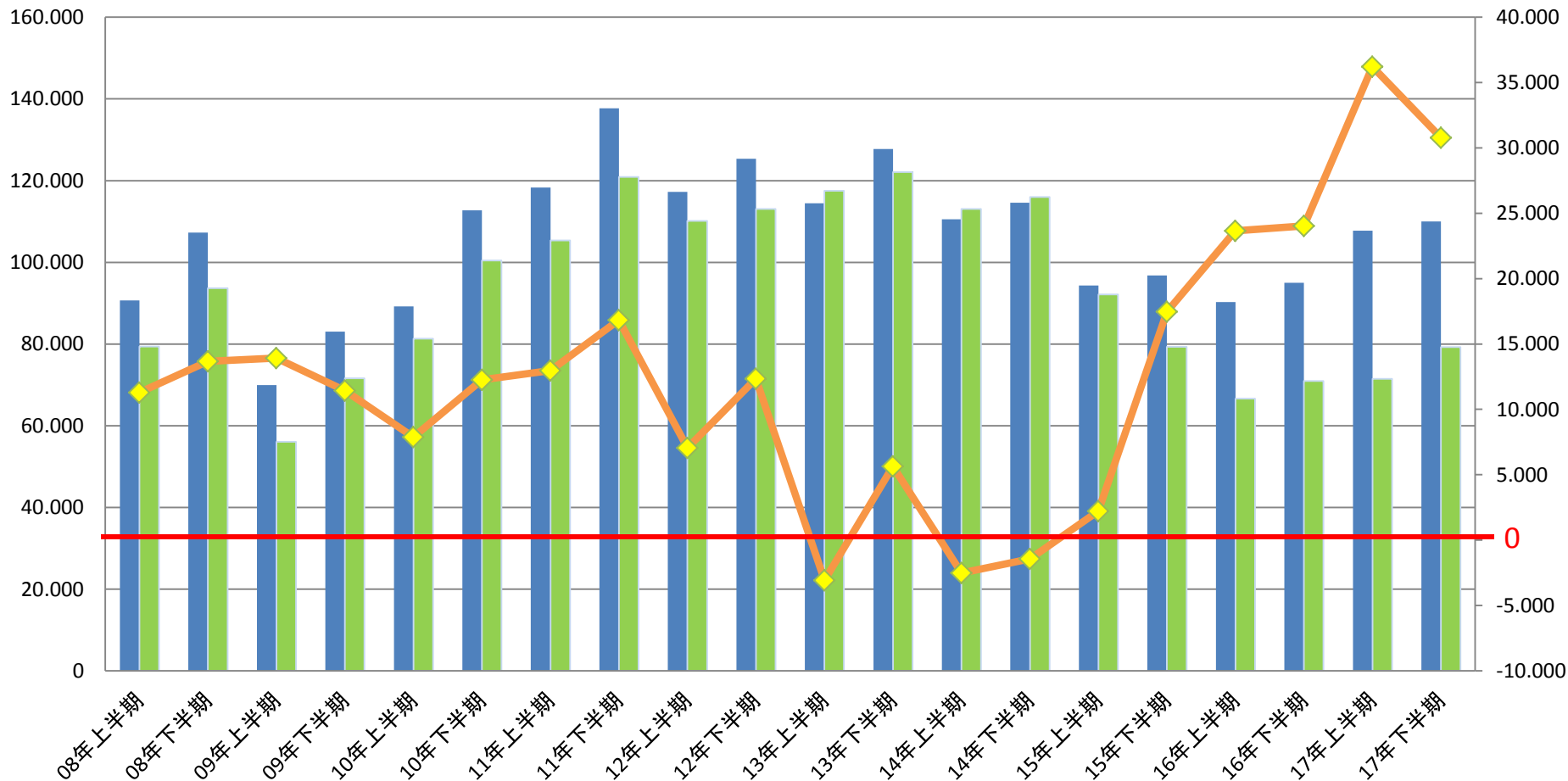
# 1. 総括

## 半期ごとの輸出入額の推移

<輸出入額>

<貿易収支>

■ 輸出額      ■ 輸入額      ◆ 貿易収支



(単位:百万ドル)

為替レート 2016年 R\$3.49/US\$  
(期中平均) 2017年 R\$3.18/US\$

## 2. 輸出 ～主要商品別～

金額: 単位百万ドル

数量: 単位千トン(\*乗用車のみ単位は「千台」)

	2016年			2017年			増減率	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率
<b>一次産品</b>	<b>79,159</b>	<b>42.7%</b>	<b>535,392</b>	<b>101,063</b>	<b>46.4%</b>	<b>578,814</b>	<b>27.7%</b>	<b>8.1%</b>
大豆	19,331	10.4%	51,582	25,718	11.8%	68,155	33.0%	32.1%
鉄鉱石	13,289	7.2%	373,963	19,199	8.8%	383,537	44.5%	2.6%
原油	10,074	5.4%	41,624	16,625	7.6%	51,965	65.0%	24.8%
鶏肉	5,946	3.2%	3,959	6,428	3.0%	3,944	8.1%	-0.4%
<b>半製品</b>	<b>27,963</b>	<b>15.1%</b>	<b>53,794</b>	<b>31,434</b>	<b>14.4%</b>	<b>55,449</b>	<b>12.4%</b>	<b>3.1%</b>
粗糖	8,282	2.8%	23,661	9,042	3.5%	23,331	9.2%	-1.4%
化学木材パルプ	5,569	2.7%	13,520	6,345	3.0%	13,842	13.9%	2.4%
鉄鋼半製品	2,691	1.6%	8,446	4,175	1.3%	9,758	55.1%	15.5%
合金	2,103	1.3%	495	2,465	1.2%	509	17.2%	2.7%
<b>工業製品</b>	<b>73,921</b>	<b>39.9%</b>	<b>50,497</b>	<b>80,253</b>	<b>37.9%</b>	<b>52,141</b>	<b>8.6%</b>	<b>3.3%</b>
乗用車	4,671	1.7%	* 412	6,670	2.4%	* 724	42.8%	75.7%
航空機	4,135	1.7%	2,418	4,390	2.1%	2,445	6.1%	1.1%
貨物車	4,291	1.4%	4	3,517	1.3%	3	-18.0%	-21.2%
その他	<b>4,193</b>	<b>2.3%</b>	<b>5,635</b>	<b>4,988</b>	<b>1.2%</b>	<b>5,511</b>	<b>19.0%</b>	<b>-2.2%</b>
<b>輸出総額</b>	<b>185,235</b>	<b>100%</b>	<b>645,318</b>	<b>217,739</b>	<b>100%</b>	<b>691,915</b>	<b>17.5%</b>	<b>7.2%</b>

<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)、ANFAVEA

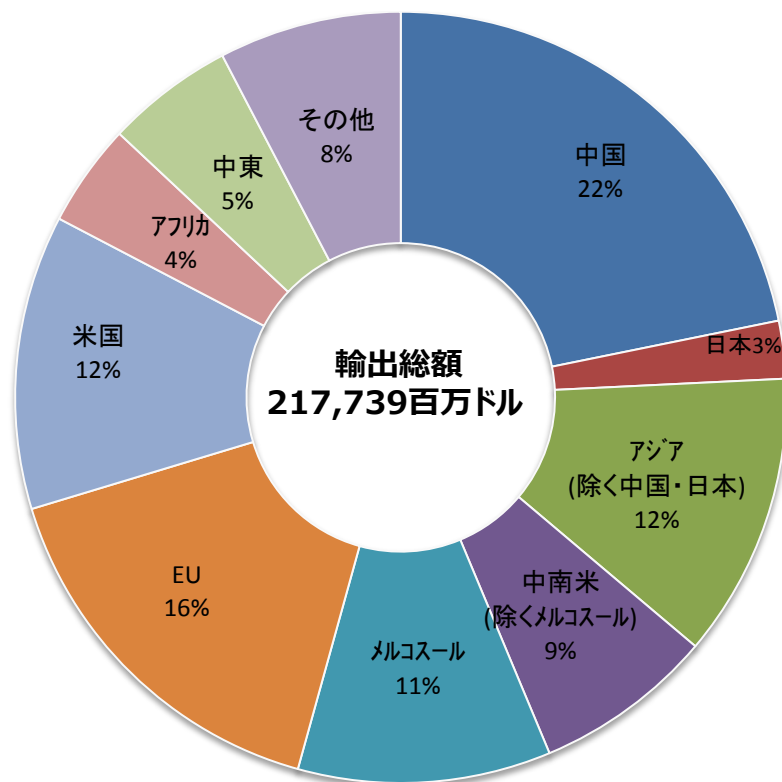


# 2. 輸出 ～主要国/地域別～

(単位:百万ドル)

国名	2016年	2017年		増減率
		金額	構成比	
中国	35,134	47,488	21.8%	35.2%
米国	23,156	26,873	12.3%	16.0%
アルゼンチン	13,418	17,619	8.1%	31.3%
オランダ	10,323	9,252	4.2%	-10.4%
日本	4,604	5,263	2.4%	14.3%
チリ	4,081	5,031	2.3%	23.3%
ドイツ	4,861	4,911	2.3%	1.0%
インド	3,161	4,657	2.1%	47.3%
メキシコ	3,813	4,514	2.1%	18.4%
スペイン	2,604	3,814	1.8%	46.4%
その他	80,080	88,316	40.6%	10.3%
輸出総額	185,235	217,739	100.0%	17.5%

地域別構成比率(2017年)



# 3. 輸入 ～主要商品別～

金額: 単位百万ドル

数量: 単位千トン

	2016年			2017年			増減率	
	金額	金額 構成比	数量	金額	金額 構成比	数量	金額 増減率	数量 増減率
<b>一次産品</b>	<b>14,276</b>	<b>10.7%</b>	<b>61,315</b>	<b>16,126</b>	<b>10.4%</b>	<b>57,848</b>	<b>13.0%</b>	<b>-5.7%</b>
原油	2,899	2.0%	8,867	2,967	2.1%	7,411	2.3%	-16.4%
天然ガス	1,278	0.8%	8,113	1,230	0.9%	6,389	-3.8%	-21.2%
小麦	1,335	0.8%	6,866	1,149	1.0%	6,022	-13.9%	-12.3%
魚(生・冷蔵・冷凍)	905	0.7%	293	1,081	0.7%	335	19.4%	14.3%
<b>半製品</b>	<b>3,457</b>	<b>4.4%</b>	<b>10,754</b>	<b>6,636</b>	<b>2.5%</b>	<b>11,581</b>	<b>91.9%</b>	<b>7.7%</b>
銅板	810	0.8%	168	1,144	0.6%	185	41.3%	10.1%
合成ゴム	444	0.4%	250	556	0.3%	257	25.4%	2.9%
<b>工業製品</b>	<b>117,636</b>	<b>84.9%</b>	<b>66,345</b>	<b>127,988</b>	<b>85.5%</b>	<b>78,521</b>	<b>8.8%</b>	<b>18.4%</b>
送受信機	5,593	4.8%	108	7,269	4.1%	146	30.0%	34.6%
医薬品	5,794	4.1%	36	6,116	4.2%	34	5.5%	-5.7%
燃料油	2,912	3.7%	6,812	5,648	2.1%	11,114	93.9%	63.1%
自動車部品	4,852	3.6%	612	5,450	3.5%	627	12.3%	2.4%
<b>輸入総額</b>	<b>137,552</b>	<b>100%</b>	<b>138,414</b>	<b>150,749</b>	<b>100%</b>	<b>147,949</b>	<b>9.6%</b>	<b>6.9%</b>

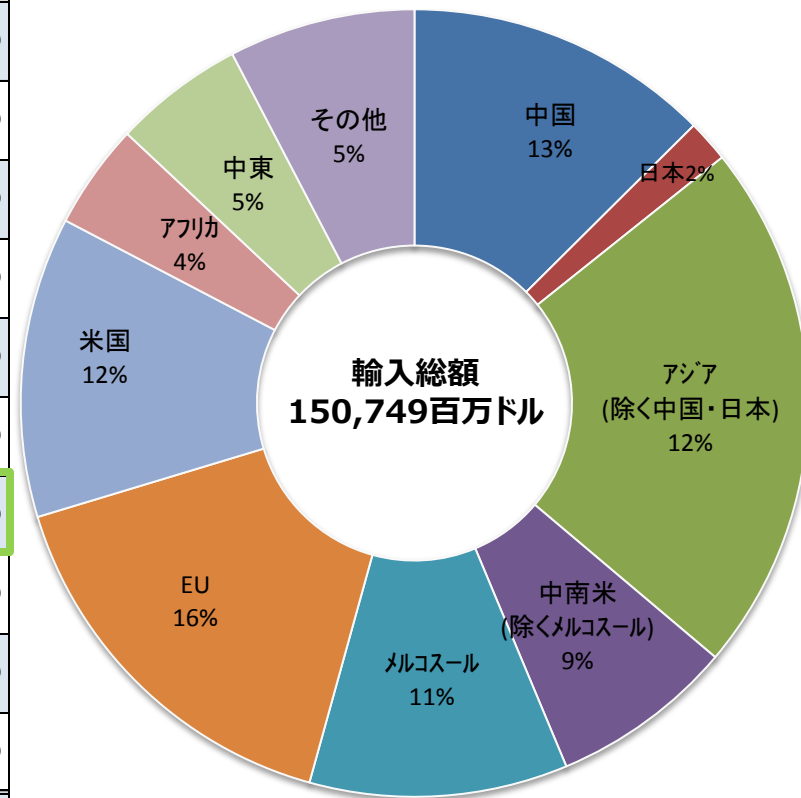
<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)

# 3. 輸入 ～主要国/地域別～

(単位:百万ドル)

国名	2016年	2017年		増減率
		金額	構成比	
中国	23,364	27,321	18.1%	16.9%
米国	23,803	24,847	16.5%	4.4%
アルゼンチン	9,084	9,435	6.3%	3.9%
ドイツ	9,131	9,227	6.1%	1.1%
韓国	5,449	5,240	3.5%	-3.8%
メキシコ	3,528	4,238	2.8%	20.1%
イタリア	3,703	3,958	2.6%	6.9%
日本	3,566	3,763	2.5%	5.5%
フランス	3,679	3,723	2.5%	1.2%
チリ	2,882	3,453	2.3%	19.8%
その他	49,364	55,544	36.8%	12.5%
輸入総額	137,552	150,749	100%	9.6%

地域別構成比率 (2017年)



# 4. 対日貿易

## 輸出

(単位:百万ドル)

商品名	2016年	2017年		伸び率
		金額	構成比	
鉄鉱石	1,073	1,400	26.6%	30.4%
鶏肉	720	907	17.2%	26.0%
とうもろこし	455	452	8.6%	-0.6%
コーヒー豆	413	323	6.1%	-21.7%
合金	240	302	5.7%	26.2%
アルミニウム	246	287	5.5%	16.5%
航空機	219	190	3.6%	-13.0%
大豆	172	175	3.3%	2.1%
化学木材パルプ	113	129	2.5%	14.5%
窒素化合物	66	109	2.1%	66.2%
その他	888	988	18.8%	11.2%
合計	4,604	5,263	100%	14.3%

## 輸入

(単位:百万ドル)

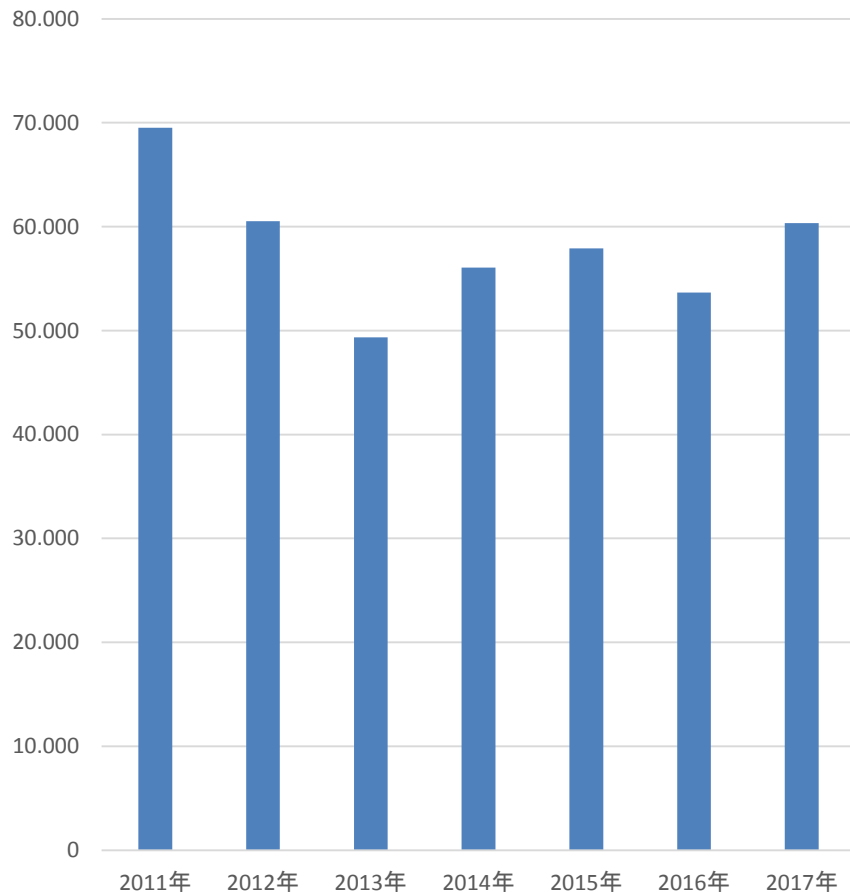
商品名	2016年	2017年		伸び率
		金額	構成比	
その他工業製品	606	626	16.6%	3.3%
自動車・トラクター部品	454	536	14.2%	17.9%
乗用車	130	176	4.7%	35.0%
測定機器等	157	165	4.4%	5.0%
ベアリング・歯車及びそれら部品	142	155	4.1%	9.2%
自動車エンジン部品	152	139	3.7%	-8.5%
複素環式化合物	104	112	3.0%	7.7%
半導体	69	110	2.9%	59.9%
窒素化合物	90	81	2.2%	-9.3%
手動用または機械用器具	42	78	2.1%	83.2%
その他	1,620	1,586	42.1%	-2.2%
合計	3,566	3,763	100.0%	5.5%

<出所> 開発商工省貿易局(SECEX)

# 5. 対内直接投資 ～推移・国別～

## 対内直接投資推移

(単位:百万ドル)



## 国別対内直接投資

順位	国	2016年	2017年		伸び率
		金額	金額	構成比	
1	米国	6,544	11,078	18.4%	69.3%
2	オランダ	10,540	10,894	18.1%	3.4%
3	英領ヴァージン諸島	1,637	9,069	15.0%	453.9%
4	ルクセンブルク	7,395	4,305	7.1%	-41.8%
5	ドイツ	1,826	3,221	5.3%	76.4%
6	フランス	2,778	3,168	5.2%	14.0%
7	スペイン	3,554	2,309	3.8%	-35.0%
8	チリ	846	1,620	2.7%	91.5%
9	メキシコ	807	1,527	2.5%	89.4%
10	イタリア	2,835	1,521	2.5%	-46.3%
17	日本	1,412	537	0.9%	-61.9%
	その他	13,579	11,094	18.4%	-18.3%
	合計	53,754	60,345	100%	12.3%

<出所>ブラジル中央銀行

# 5. 対内直接投資～主要業種別～

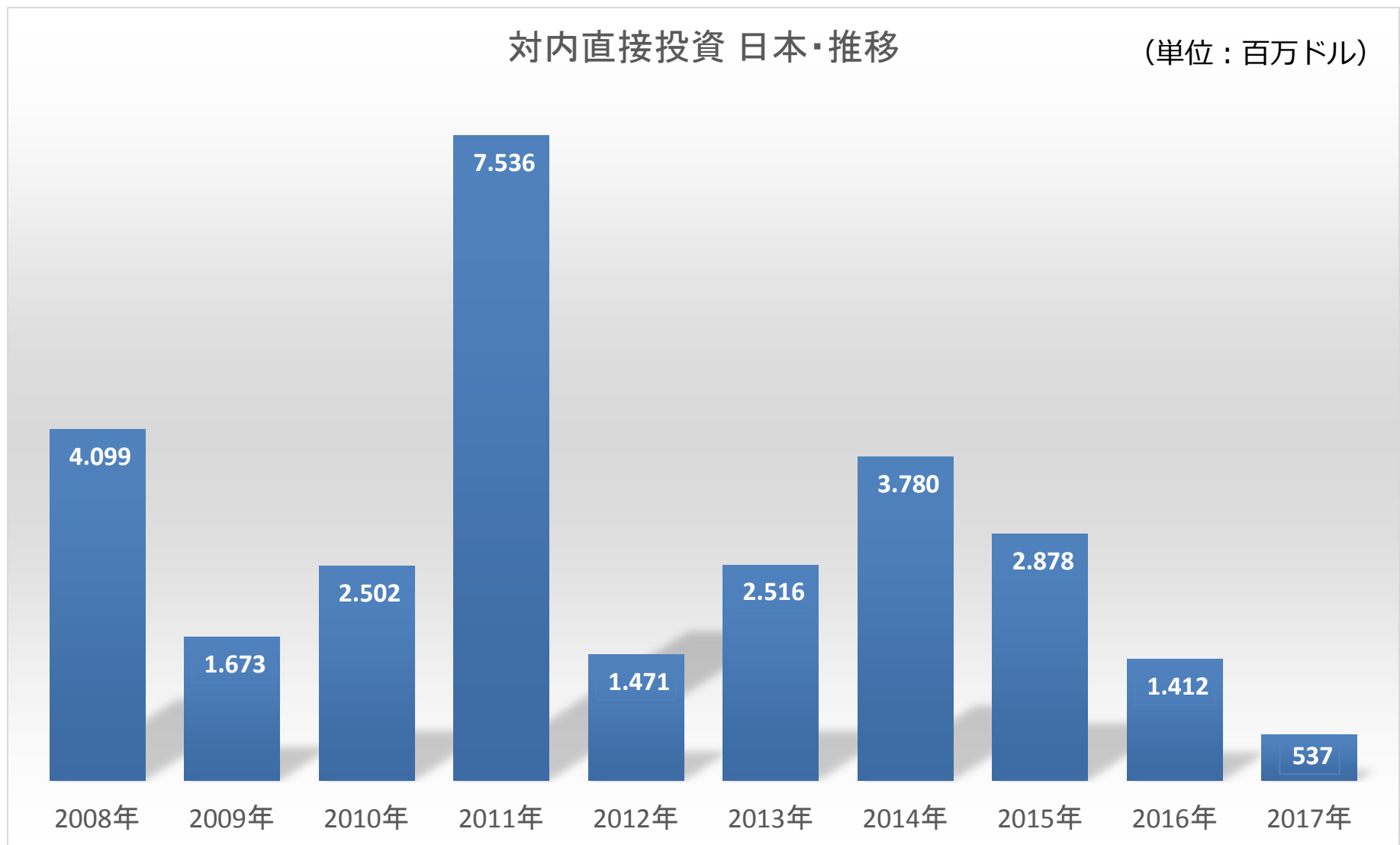
(単位:百万ドル)

	2016年		2017年		伸び率
	金額	構成比	金額	構成比	
一次産品（農業・畜産・鉱業・その他）	8,696	16.2%	5,862	9.7%	-32.6%
石油・天然ガス採掘	4,257	7.9%	3,738	6.2%	-12.2%
金属鉱物採掘業	2,463	4.6%	961	1.6%	-61.0%
工業（その他も含む）	20 203	37.6%	18,634	30.9%	-7.8%
自動車・トレーラー・車体	6,571	12.2%	3,952	6.5%	-39.9%
化学製品	1,437	2.7%	3,214	5.3%	123.7%
基礎冶金業（注）	2,165	4.0%	3,141	5.2%	45.1%
食品	1,275	2.4%	2,620	4.3%	105.5%
機械装置	1,558	2.9%	790	1.3%	-49.3%
サービス業（その他も含む）	24,635	45.8%	35,657	59.1%	44.7%
電気・ガス	2,962	5.5%	12,588	20.9%	325.0%
商業（自動車除く）	5,712	10.6%	5,503	9.1%	-3.6%
運送業	768	1.4%	4,219	7.0%	449.2%
倉庫・運送補助業	1,546	2.9%	2,472	4.1%	60.0%
金融・同補助サービス	2,041	3.8%	1,606	2.7%	-21.3%
不動産業	1,938	3.6%	1,472	2.4%	-24.1%
合計	53,754	100.0%	60,345	100.0%	12.3%

(注) 製鉄業を含む

<出所>ブラジル中央銀行

# 5. 対内直接投資 ～日本・推移～



## 6. 前回まとめ

『回復途上のブラジル経済—いま打つべき戦略は』

- ・足元固めを含めた体制をきちんと維持
- ・中長期視点より投資・参入を検討
- ・成長分野や景気の変動を受けにくいビジネス分野に対して投資
- ・長期融資制度・調達を再検討
- ・ブラジルならではの個別案件を提案
- ・ブラジル国内での高機能や付加価値製品の市場開拓
- ・信頼できる現地パートナーの開拓と関係構築
- ・ブラジルの高い将来性をアピール
- ・貿易・投資促進上の課題を当局へ提言



# 7. まとめ 『いま求められる新たな視点は』

ブラジル国内景気回復  
輸出入相手国の堅調な経済成長

インフラ民営化加速

労働法改訂  
年金改革法案

大統領選挙

2018年度も確実に輸出入は増加し、対内投資も拡大！  
日本企業も更なる貿易拡大及び投資を復活させる必要あり！

- 成長分野／日本の強みを生かせる分野を具体的に見極め
  - － IOT/AI・衛星・医療技術・食品分析・サービス分野など
- 今がチャンス／2019年では遅い、というブラジル売込を見える形で行う
  - － ブラジルの本格経済回復は2019年であり、その時点での進出は時期を逸し、機会喪失と発信
- 日系社会との連携・協働の強化
  - － ブラジルならではの日系社会人脈の活用
- 中南米横展開推進
  - － 日本・ブラジル間ビジネスだけでなく、中南米での面展開のアピール
- 投資しやすい環境づくり推進
  - － 税制・労働制度改革や景気回復施策をブラジル当局へ働きかけ加速

**機械金属 部会**

**池辺 和博 部会長**

**Departamento de Metalmeccânica**

**Presidente: Kazuhiro Ikebe**

# 「2017年の回顧と2018年の展望」

～いま求められる新たな視点は？～

2018年3月1日  
**機械金属部会**  
池辺

1. マクロ指標関連

2. セグメント別状況

業種・分野別分類

- (1) 鉄鋼
- (2) 電力
- (3) 建設機械・業務用空調
- (4) 切削工具・ベアリング・ドライブシャフト
- (5) トラクター・非汎用圧縮機

3. 副題-いま求められる新たな視点は？-

## ブラジル鉱工業生産 対前年の推移

出所: IBGE(ブラジル地理統計院)

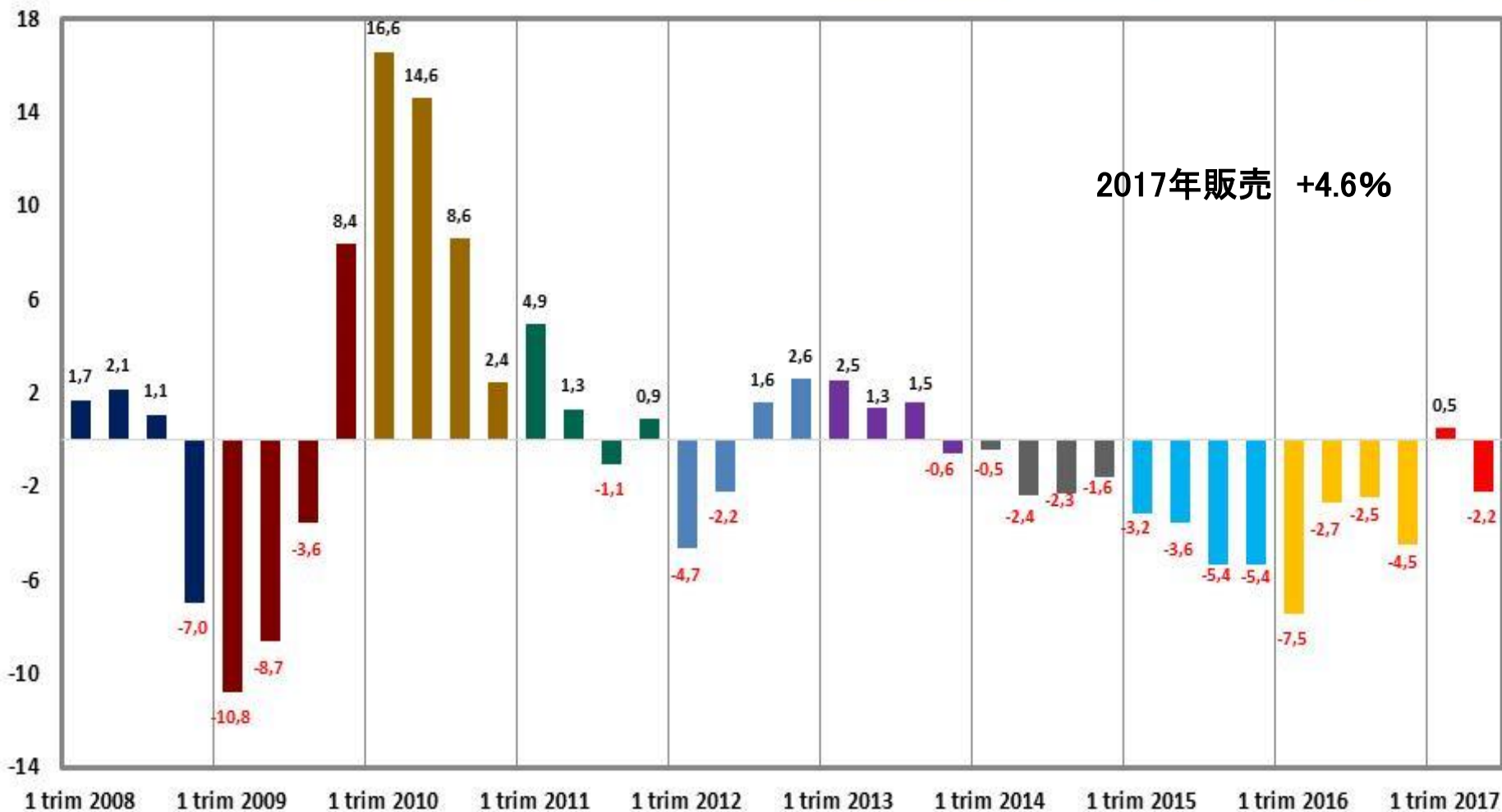


Investing.com



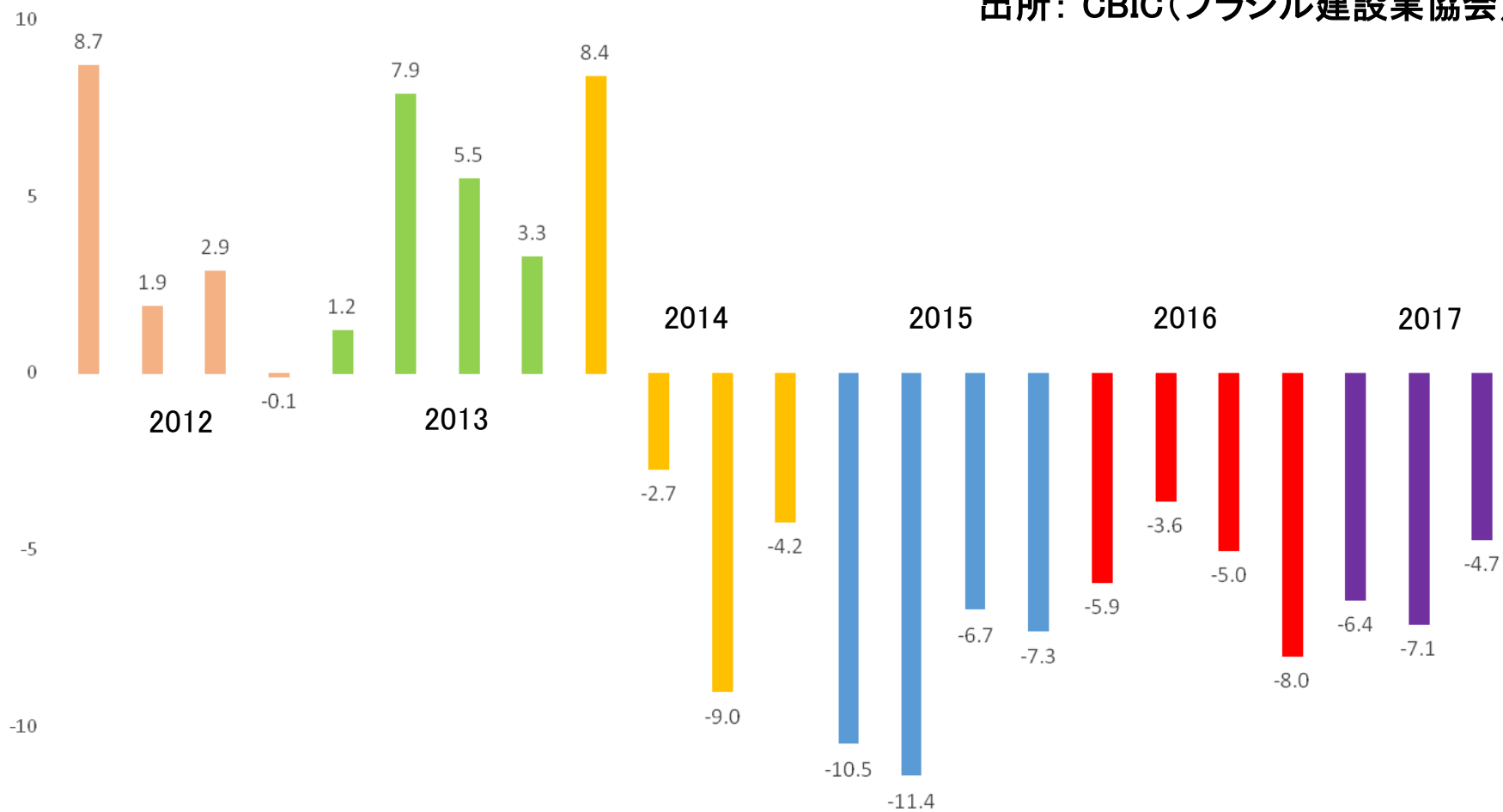
## ダンボール生産 対前年同期比の推移

出所: IBGE(ブラジル地理統計院)



## 建設実績 対前年同期比推移

出所：CBIC(ブラジル建設業協会)



1. マクロ指標関連

2. セグメント別状況

業種・分野別分類

- (1) 鉄鋼
- (2) 電力
- (3) 建設機械・業務用空調
- (4) 切削工具・ベアリング・ドライブシャフト
- (5) トラクター・非汎用圧縮機

3. 副題-いま求められる新たな視点は？-



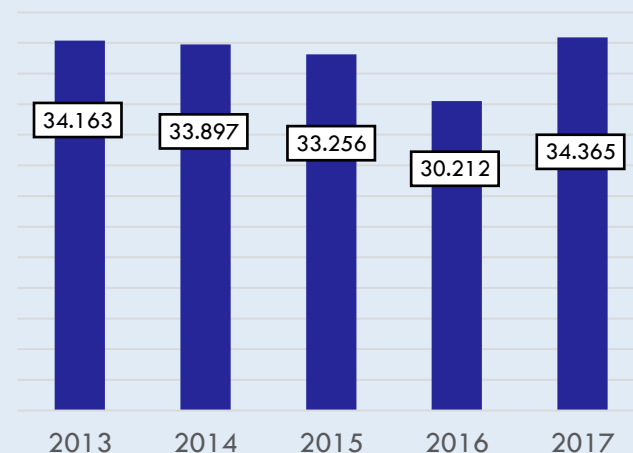
## 伯鉄鋼生産関連情報（伯鉄鋼協会）

2017年実績

数量:千トン、前年同期比

	生産		国内販売		輸出	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
粗鋼	34,365	10%	16,902	2%	15,352	14%
圧延鋼板	13,687	12%	9,942	6%	3,405	10%
形鋼	8,730	1%	6,635	▲3%	1,863	9%
スラブ	8,624	9%	140	▲22%	10,084	17%
他	1,218	▲13%	185	40%		
			輸入		2,329	24%

## 粗鋼生産量推移（Kトン）



- ・生産：6年振りに前年比増加 ← 新会社GSP分(2016/6月稼動)増と国内需要の回復
- ・国内販売：自動車・家電生産の回復で鋼板類は6%増も、建設・機械等の需要回復遅く、条鋼類は依然3%減で、全体では2%の増
- ・輸出：GSP、生産のほぼ全量を輸出(半製品17%増)で、全体14%増
- ・輸入：自動車生産の回復(鋼板類輸入72%増)、全体で24%増

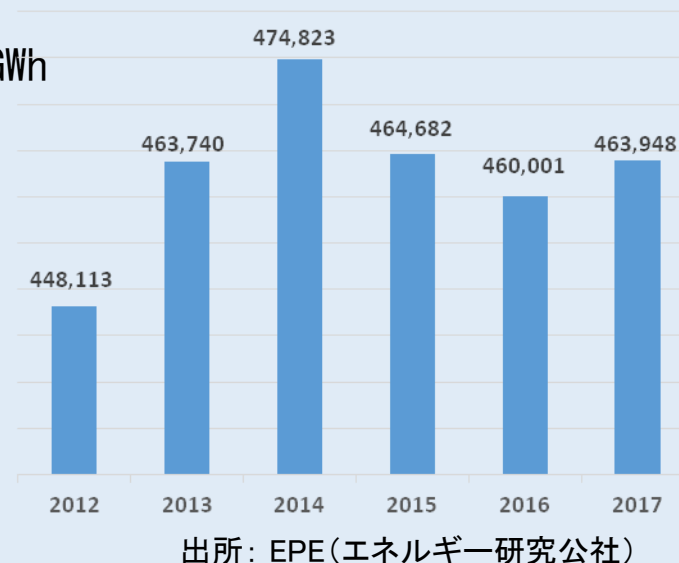
## 〈2018年展望〉

- ・鉄鋼協会の国内販売見通し約4%増、生産量も増えるも2013年のピークへの回復は2028年
- ・国内販売は自動車生産の回復に、機械・建設需要が穏やかな伸びを予想
- ・輸出は米国・EUでのAD訴訟対象となっており、鋼板類は伸び悩む可能性大
- ・Usiminas Ipiranga製鉄所第1高炉4月再稼動、製鉄会社の設備、保守への投資回復期待

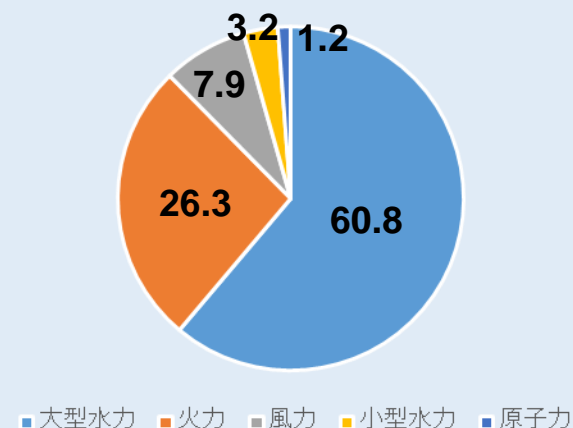
## 電力

- ・ 経済活動の回復に伴い、2017年の電力消費は463,948GWhと3年振りに前年比0.8%増大。  
特に工業部門は1.3%の増で、一般家庭0.8%、商業部門0.3%等全部門で増大
- ・ 2017年12月に2つのエネルギーオークション(A-4/A-6)が実施され、89件、3,160MW分が落札された(2016年は29件、158MW)  
ガス、風力、太陽光が前回比較で大きく増加
- ・ EPEでは、今後年間500MW規模のバイオマス発電を予想  
2018年以降大型発電案件は期待薄で、分散型発電所の建設が見込まれる  
→ これら向け機材・設備需要に期待と備え

### ブラジル電力消費量(GWh)



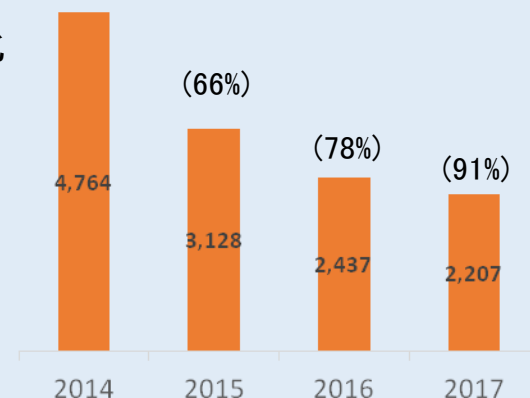
### ブラジル電力発電構成(%、2017年)



## 建機

- ・ 2017年も建設需要の低迷を受け、油圧ショベル販売は前年比91%と3年連続の需要減
- ・ 道路・土木工事用機械(ブルドーザ・バックホー等)全般、2017年第3四半期に底を打った感あり、対前年比2%減、過剰在庫も一掃輸出が前年比54%と2016年に続き、50%以上の伸びとなっており、生産は前年比36%増

### 油圧ショベル販売台数推移



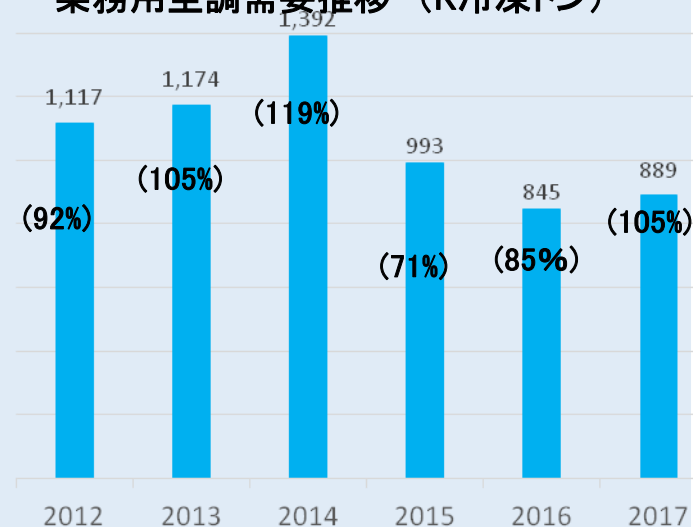
## 業務用空調

- ・ 工業・商業の回復と空調の需要期も重なるり、2017年7~12月は対前年比112%、年間でも105%となって3年ぶり前年比増

### 〈2018年展望〉

- ・ 建設業界の回復は2019年以降と予測も2018年、油圧ショベルは前年割れを逃れ横ばい、道路・土木工事機械全般では、8%程の増加を予想
- ・ 業務用空調の2018年は、商工業の回復を受けて、5~10%の伸びを予想

### 業務用空調需要推移 (K冷凍トン)



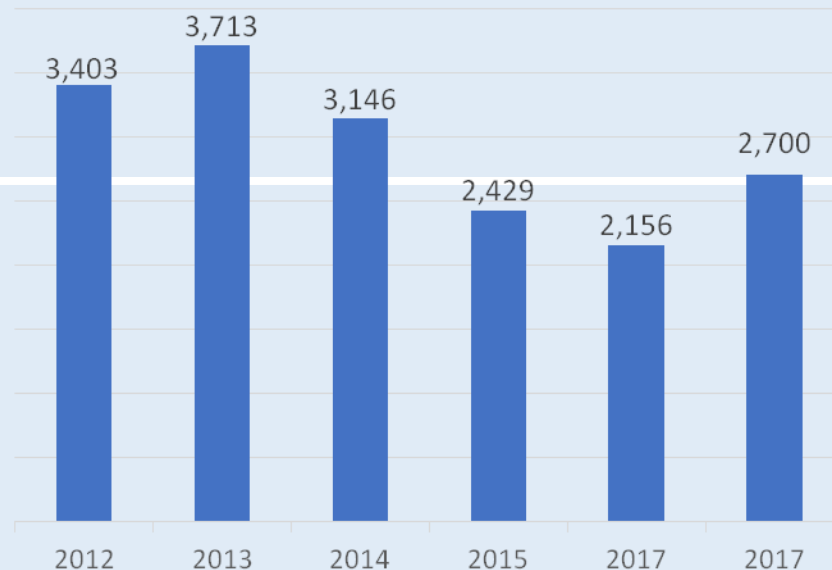
出所: ABRABA(ブラジル冷凍空調協会)

## 主要顧客先は自動車業界

- 自動車生産回復基調（輸出47%増）  
2017年対前年比 25%増(270万台)  
2018年予測 生産13%増、販売12%増

## 自動車生産台数推移（K台）

出所：Anfavea(自動車生産者協会)



## 切削工具/金属加工油剤

- 自動車生産の回復を受け、会員各社の実績前年比二桁の伸び
- 農業機械、金型分野等比較的堅調に推移
- 2018年も自動車生産の回復に伴い、更に二桁の増加を予想

## ベアリング/ドライブシャフト

- 自動車生産の回復に加え、遅れていた二輪の生産も下期より増加に転じた
- 一般産業機械向けでは、農業機械の販売は増加したものの在庫調整で生産は前年比減  
→ 前年比微増
- 2018年、自動車生産は回復、二輪の生産も7-9%増を見込む
- 一般産業機械も景気の回復と共に需要増を期待
- 自動車補修市場の消費者向けアフターマーケットも堅調持続を予想

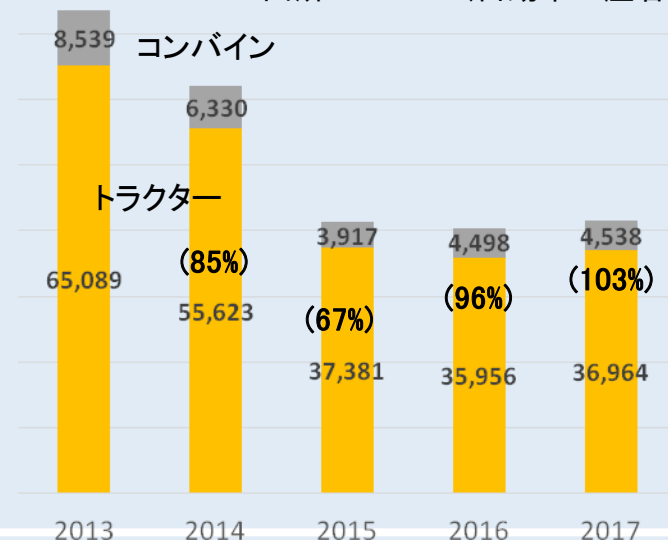
## トラクター

- ・ 2017年需要は前年比103%と4年振りに前年比増を回復  
農作物の収穫が良好で、政府の農業向け低利融資の  
17/18年収穫期プログラムも実行され、回復基調

### 〈2018年展望〉

- ・ 農作物の収穫も概ね良好が続き、全体的に回復傾向  
継続を予想

農機販売状況（台） 出所：Anfavea(自動車生産者協会)



## 非汎用圧縮機

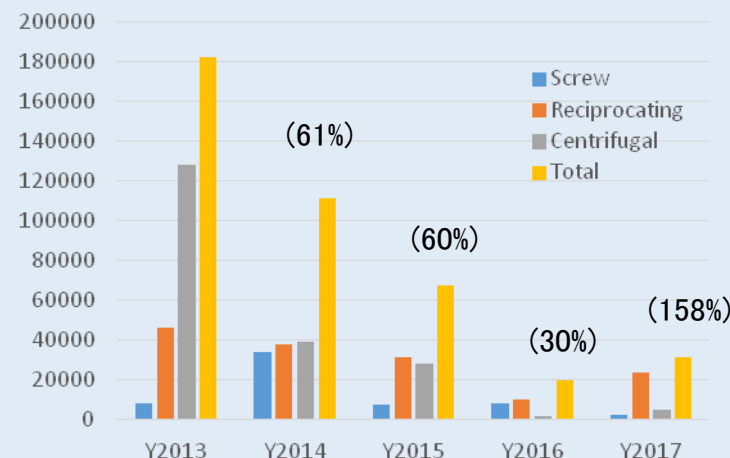
- ・ 主要用途：資源開発、石油精製、石油化学  
全体輸入額は4年振りに前年比増となるも、メンテ  
ナンス費用の増加 Screwは依然大幅ダウン

### 〈2018年展望〉

- ・ 原油価格の上昇により上流(石油生産)は活発化し、  
引合いが実案件かしていくこと期待  
下流(石油化学)は当面投資縮小傾向であり、回復は  
4-5年先となると想定

コンプレッサ輸入額（KUSD）

出所：Integrated Foreign Trade System(SISCOMEX)



## 1. マクロ指標関連

## 2. セグメント別状況

### 業種・分野別分類

- (1) 鉄鋼
- (2) 電力
- (3) 建設機械・業務用空調
- (4) 切削工具・ベアリング・ドライブシャフト
- (5) トラクター・非汎用圧縮機

## 3. 副題-いま求められる新たな視点は?-

#### -いま求められる新たな視点は？-

- 特別な新たな視点はなく、従来通りの地道な活動
- 新規需要・顧客の創出
  - 土木建築における鋼構造の利点(短工期、良施工性、人件費圧縮等)をPR → 鋼材需要の創出
  - 製造業への設備の自動化・統合設備の利点啓蒙  
→ ブラジル製造業の競争力向上に貢献
- 量の拡大から質の拡大
- 変化に柔軟に対応出来る組織作り
- 将来の成長に向けての投資機会の模索

**自動車 部会**

**下村 セルソ 部会長**

**Departamento Automotivo**

**Presidente: Celso Simomura**



# ブラジル日本商工会議所 業種別部会長シンポジウム

## 「自動車部会」レポート

2018年3月1日

### < 2017年の回顧と2018年の展望 >

いま求められる新たな視点は

- 四輪業界動向
  1. 2017年 振り返り
  2. 2018年 展望
  3. 長期展望
  4. 日系ブランド課題への対応
  5. 総括
  
- 二輪業界動向

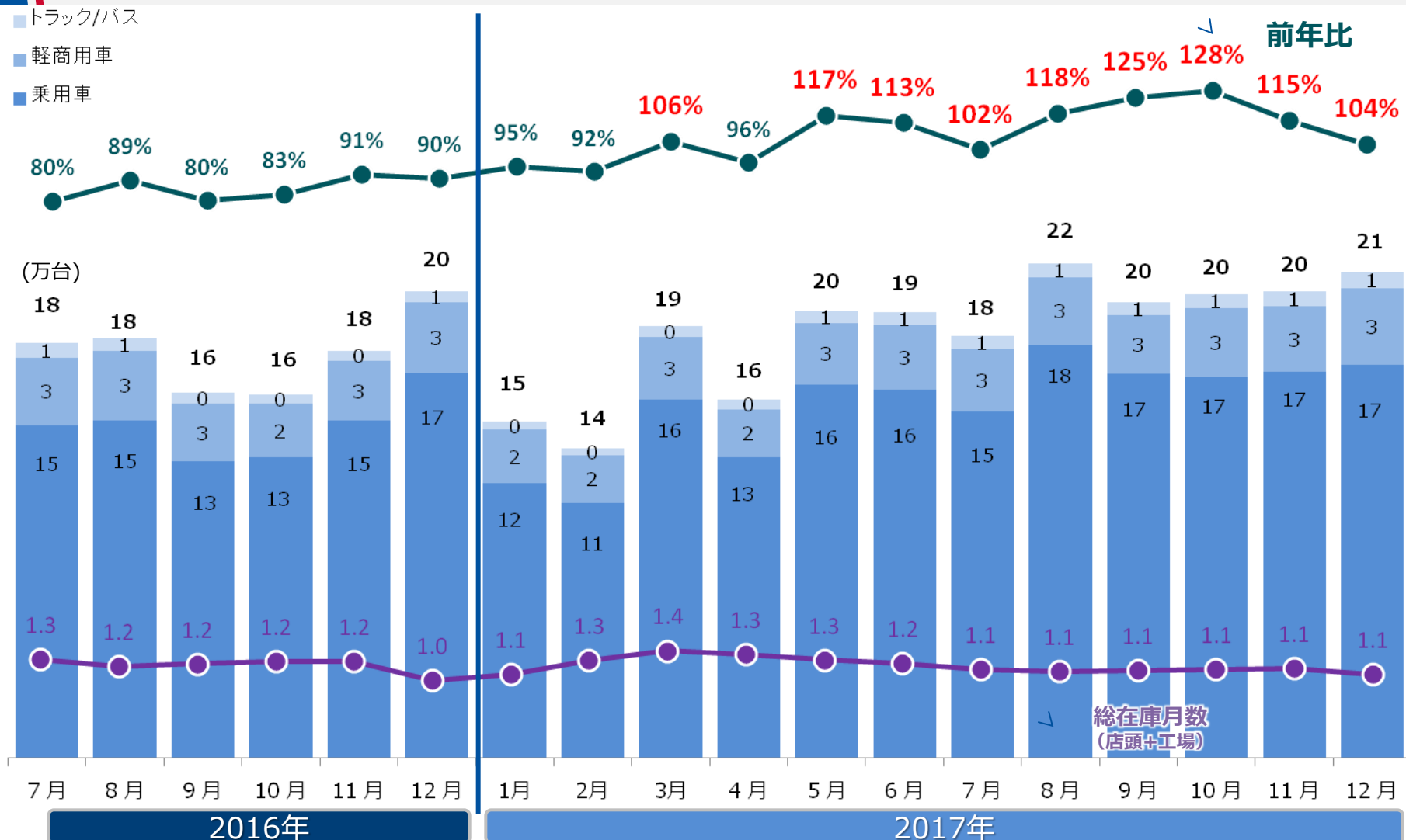
# 四輪業界動向

1. 2017年 振り返り
2. 2018年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括



## 1. 2017年 振り返り – 月別販売台数 推移

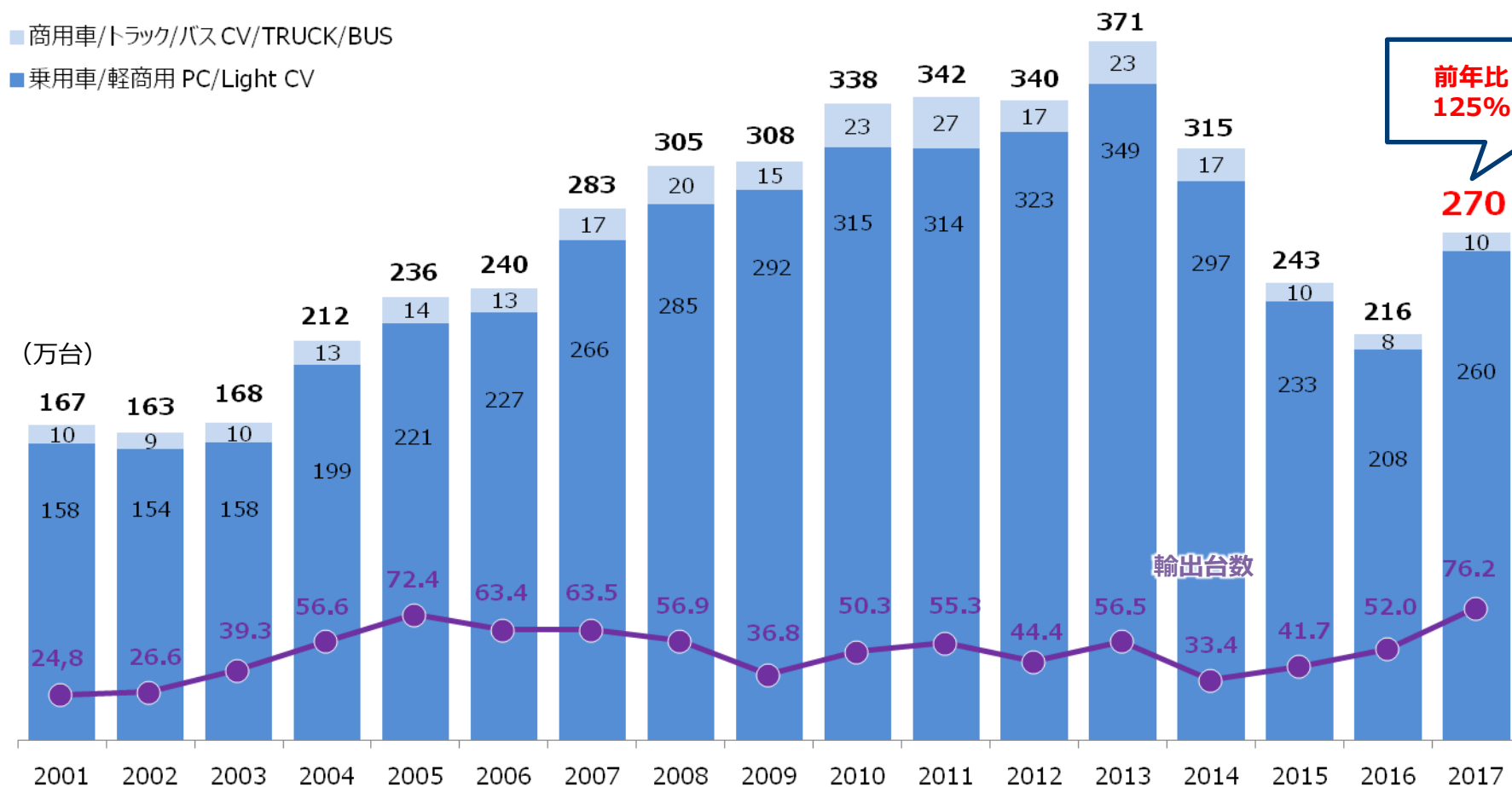
出典：ANFAVEA 大型バス、トラックを含む四輪合計



➤ 年前半は前年比95～105%で推移するも、5月以降は8ヶ月連続で前年超え

## 1. 2017年 振り返り – 生産・輸出台数 推移

出所：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

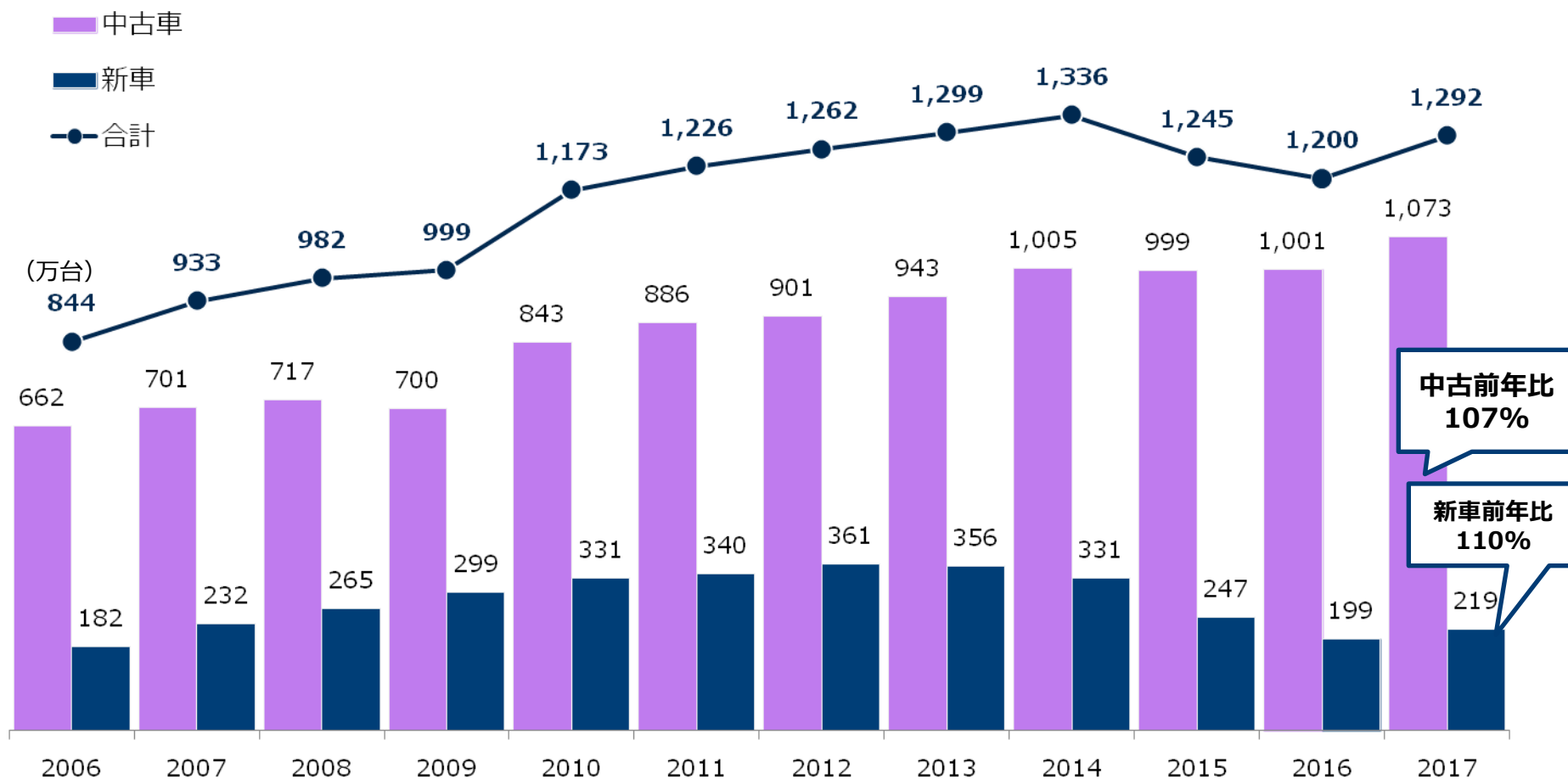


- 2017年総生産台数は約270万台（前年同期比：125%）、国内販売と同様に回復基調が鮮明。
- 各社輸出シフトにより過去最高の輸出台数を記録（76.2万台/前年比:146%）

## 1. 2017年 振り返り – 自動車業界(中古・新車)










出典：FENABRAVE/ ANFAVEA

※乗用車/軽商用車のみ












- 新車市場に回復が見られる中、中古車市場も前年を超え。近年、新・中合計では120～130万台レベルの市場規模。

## 1. 2017年 振り返り – ブランド別シェア










'13	台数	シェア
1 	757	21.3%
2 	666	18.7%
3 	650	18.3%
4 	333	9.4%
5 	232	6.5%
6 	213	6.0%
7 	176	4.9%
8 	139	3.9%
9 	78	2.2%
10 <b>Jeep</b>		%



'16	台数	シェア
1 	346	17.4%
2 	305	15.3%
3 	228	11.5%
4 	198	9.9%
5 	180	9.1%
6 	180	9.1%
7 	150	7.5%
8 	123	6.2%
9 	61	3.1%
10 <b>Jeep</b>	59	3.0%



単位：千台、トラック・バス除き

'17	台数	シェア
1 	394	18.0%
2 	291	13.3%
3 	287	13.1%
4 	215	9.8%
5 	201	9.2%
6 	190	8.7%
7 	167	7.6%
8 	131	6.0%
9 <b>Jeep</b>	88	3.9%
10 	79	3.6%

- スモール市場の拡大等により、Fiatを除くBIG4 (GM,FIAT,VW) のシェアが上昇。
- 日系ブランドも堅調を維持。

# 1. 2017年 振り返り

## ■ 上期に得られた好材料

- 混乱する政治の中でも、経済指標は好転（GDP プラス成長・過去最低水準の金利・インフレ率の低下・安定した為替相場）
- ブラジル国内市場 5年ぶりの前年超え
- 輸出台数 前年比大幅増
- 生産台数大幅増 工場稼働率の上昇
- 労働法改正案 下院・上院にて可決

## ■ 懸念項目

- テメル大統領の罷免騒動・政府高官を含めた贈収賄スキャンダルで政治面は不安定

- **販売・生産台数は、前年を大きく上回る実績、本格的な回復基調**
- 生産調整や輸出増など、各社の事業体質強化により、市場回復に向けた準備が整いつつある
- 政情不安は払拭されておらず、その動向と市場に与える影響について注視する必要あり



# 四輪業界動向

1. 2017年 振り返り
2. 2018年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

## 2. 2017年展望 – 自動車業界

出典：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

## ◆ ブラジル市場・輸出・生産の2017年予測

単位：万台

		2017年 最終結果	2018年 年初予測	
			ANFAVEA (1月発表)	自動車部会
国内 市場	トラック・バス 含む総合計	224 前年比：+9%	250 前年比：+12%	250 前年比：+12%
	トラック・バス 除く合計	218 前年比：+9%	242 前年比：+11%	242 前年比：+11%
輸出台数		76 前年比：+47%	80 前年比：+5%	-
生産台数		270 前年比：+25%	306 前年比：+13%	306 前年比：+13%

- ANFAVEAは2018年国内市場を 前年+12%増の約250万台程度 と予測
- 生産台数も 前年+13%増の約306万台程度と予測
- 自動車部会としての予測は、ANFAVEAと同水準

# 四輪業界動向

1. 2017年 振り返り
2. 2018年 展望
3. **長期展望**
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

### 3. 長期展望 – ブラジル自動車市場予測

前々回見直し（'17年2月）

現状の販売状況、および長期経済指標などを総合的に見た場合  
ブラジル自動車市場は底打ち状態にあり、  
回復に転ずるのは2017年後半～2018年と予想

前回見直し（'17年8月）

ブラジル自動車市場に回復傾向が見られ始め、  
長期的には緩やかな成長基調と予想されるが、  
安定的回復に向けては、引き続き政治状況とその経済への影響を注視する必要あり

**今回見直し（'18年3月）**

**ブラジル自動車市場は5年振りに前年を上回り、回復期に入った。  
長期的には300万台/年レベルへの成長も期待されるが、そのスピードは緩やかで、  
政治状況とその経済・自動車市場への影響を引き続き注視する必要あり。**

2/20現在未発行。  
2月末～3月  
発行見込み

# 3. 長期展望 – Rota 2030

Auto Policy  
(’13～’17, 5年間)

- ①現地生産
- ②燃費向上(CAFÉ)
- ③燃費ラベル
- ④技術費
- ⑤研究開発投資 等

基準に未達の場合は  
IPI+30%等の  
罰則あり

2017年過達  
<+1%>  
HONDA  
NISSAN  
TOYOTA  
AUDI  
MB  
PEUGEOT  
RENAULT  
VW  
<+2%>  
FORD  
GM

- ・IPI罰則等の過剰な  
自国保護政策に対し  
WTOから改善の  
指摘あり
- ・長期スパン化
- ・新分野の強化

Rota 2030  
(’18～’30, 約15年間)

同左①～④  
燃費向上・研究開発投資は  
強化される方向



・セーフティ  
・コネクティビティ  
・サプライチェーン強化 等

基準に未達の場合の罰則は  
軽減される方向、  
+15%程度（後々ゼロへ）

- 環境・安全・コネクティビティ等への投資を促進するトレンド
- WTOの指摘もあり、自国保護の流れは弱まる傾向

# 四輪業界動向

1. 2017年 振り返り
2. 2018年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括

## 4. 日系ブランド 課題への対応

日系ブランドの課題

課題	対応の方向性
<p>【昨年から継続】</p> <p>①ブラジルの厳しいビジネス環境に対する事業体質の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地生産の拡大と輸出の強化</li> </ul>
<p>【新たな視点】</p> <p>②メルコスールと各国間のEPA・FTA拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- メルコ-欧州：実質交渉中</li> <li>- メルコ-韓国：事前協議終了</li> <li>- メルコ-中国：協議スタートか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の洗い出しと対策立案を早期に実施</li> <li>・メルコ-日本EPA交渉を推進</li> <li>・「ブラジルコスト」の低減、競争力強化</li> </ul>
<p>【新たな視点】</p> <p>③変化する顧客ニーズへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境（電動化・エタノール等）、安全、コネクティビティ、Industrial4.0等への対応強化</li> <li>・新しいモビリティ社会への対応</li> </ul>

# 四輪業界動向

1. 2017年 振り返り
2. 2018年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランド課題への対応
5. 総括



## 5. 総括 – まとめ

### 2017年実績 / 2018年展望

- 2018年も経済指標・自動車市場 / 生産は回復基調が続く見通し。
- 但し、大統領選挙等の政情不安が経済に与える懸念は払拭されておらず、市場回復のスピードには注視が必要。
- EPA・FTAの動向は、自動車業界に多大な影響を与える恐れあり

### 状況を踏まえた対応

- 引き続き長期的視点に立ち、環境変化に負けない事業体質強化を推進  
→ 為替対応を踏まえた部品現調化や生産性向上などにより、コスト低減、および輸出促進を図る
- 現調化や輸出のさらなる加速には、ブラジルの国際的コスト競争力向上が鍵
- Rota2030含め、将来の成長を実現する枠組み作りが官民連携の下で必要
- 完成車メーカー・サプライヤー各社は、EPA・FTAの動向を注視し、早期の対策立案が必要
- 変化する新しい顧客ニーズへの対応をスタート

## 5. 総括（政府への提言）

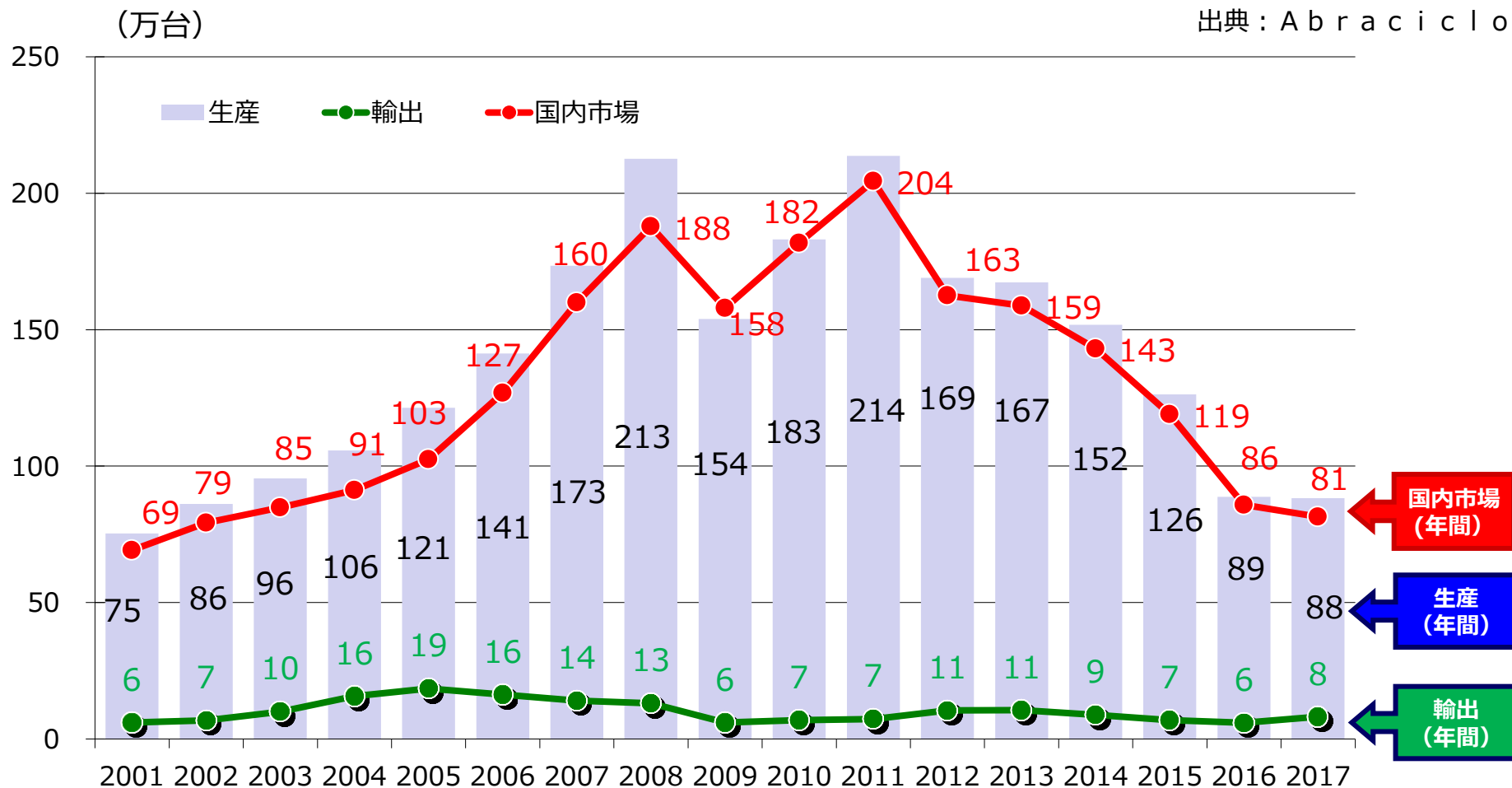
### 政府および自動車業界の取り組みと課題

- 1) 新技術導入を促進する適切な自動車政策
  - 新技術を搭載した商品のブラジルのお客様への提供、ブラジルへの新技術集積
  
- 2) 自由貿易政策／輸出促進政策
  - ブラジル製車両の輸出拡大に向け、短期の経済情勢や貿易収支動向に影響を受けない一貫した政策の継続
  
- 3) コスト削減に繋がる抜本的な取り組み
  - 道路・港湾等のインフラ整備による物流の効率化や、複雑な内国税の簡素化等
  
- 4) 新自動車政策Rota 2030
  - 内外差別や過度な国産化要求がされないこと
  - 新技術の導入を推進する政策であること
  - 燃費基準等については国際基準に調和した内容であること

# 二輪業界動向

## 二輪車 生産・販売 推移

出典：Abraciclo



## 2017年実績

卸 81万台(前年比95%)

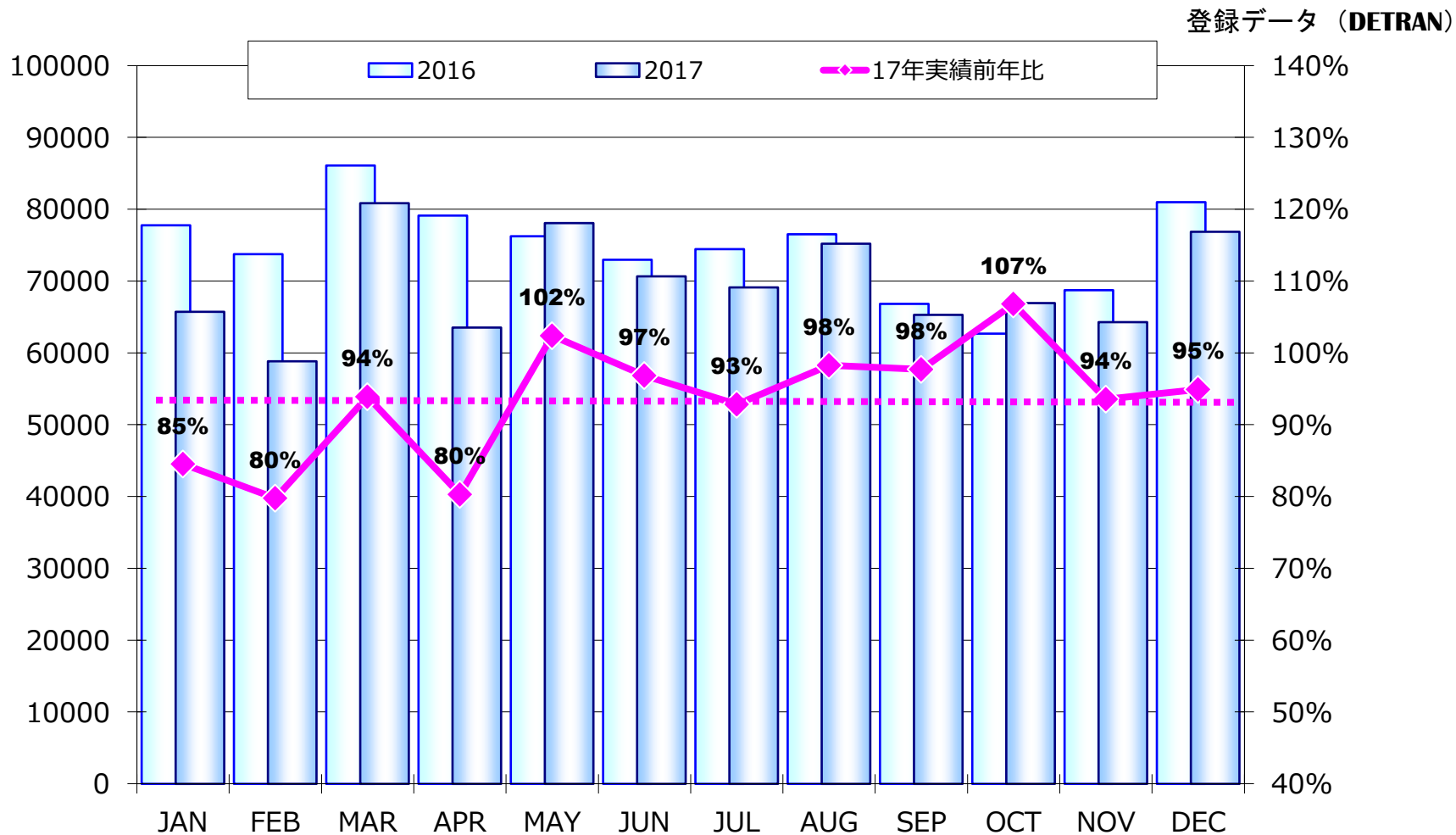
生産 88万台(前年比99%)

輸出 8万台(前年比139%)

雇用創出が緩やかに回復する一方、小売り、卸は前年割れが続

輸出が増加した事により、全生産台数は前年と同レベル

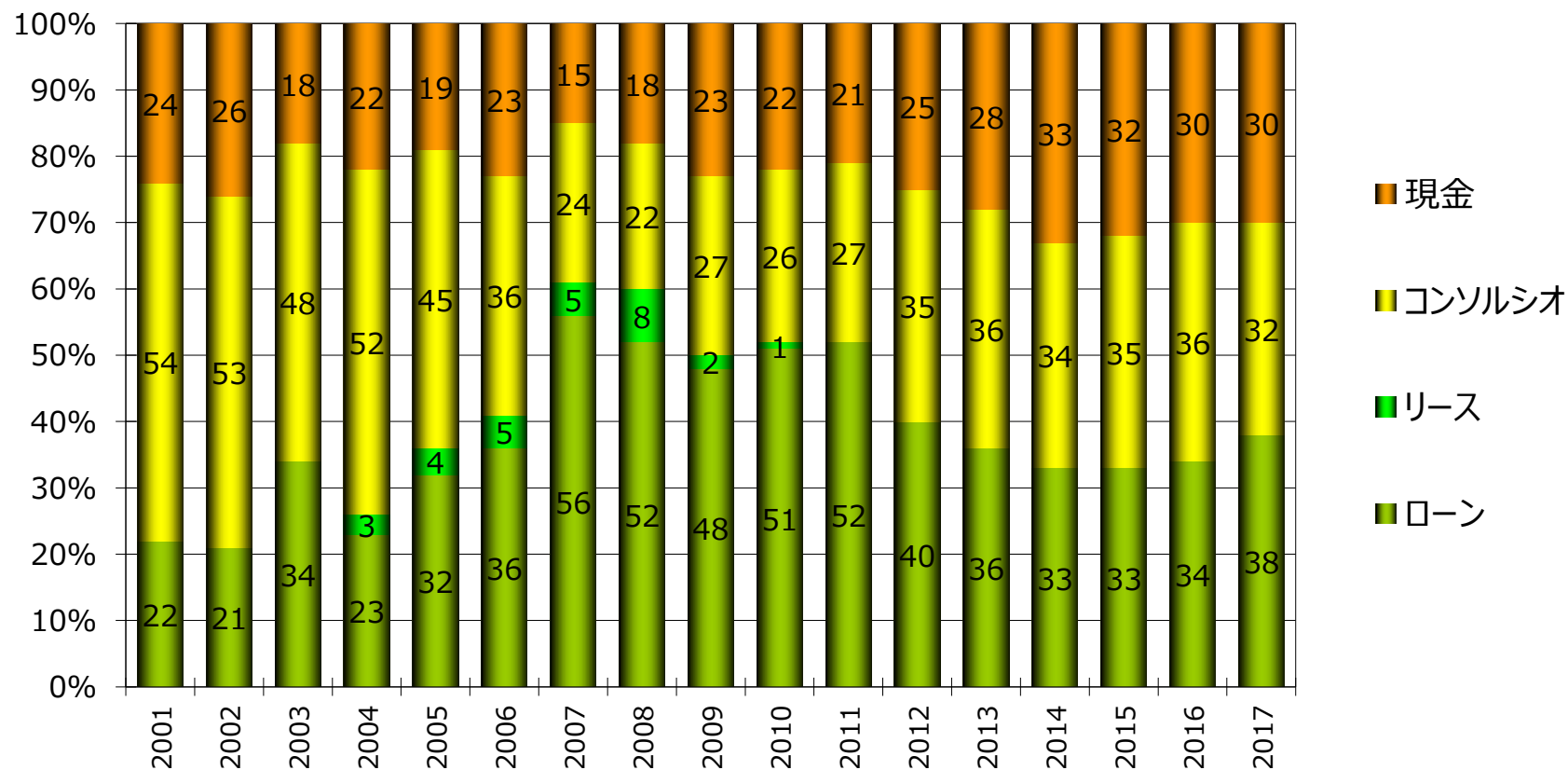
## 二輪車 月別販売推移 (2016年vs2017年)



消費者信頼指数が回復しているものの、依然高い失業率を背景に、**17年累計は前年比93%**。

## 二輪車 支払形態別 販売比率

※出典：ANEF（自動車メーカー系金融会社協会）



厳しい環境が続いていたローン比率が回復傾向となる。

2018年は、クレジット緩和、金利低下等により緩やかな回復が期待される。

Obrigado!

**コンサルタント 部会**

**林 裕孝 部会長代理**

**Departamento de Consultoria e Assessoria**

**Sub de Presidente: Yoshitaka Hayashi**



**「2017年の回顧と2018年の展望」**

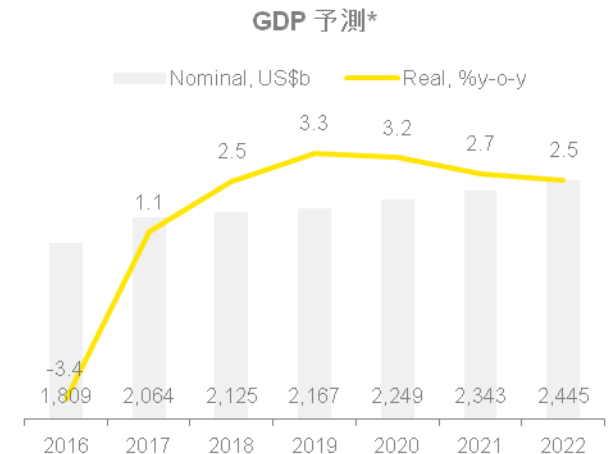
**『いま求められる新たな視点は』**

**コンサルタント部会**

# ブラジル政治、経済環境

- ▶ ブラジルの2018年GDP予想は2.8%と予測され2017年の1.1%を上回ることが期待されている
- ▶ 経済活動回復に伴う失業率の低下、製造業部門生産回復、一般消費者向けクレジット部門拡大、クレジットの延滞率低下などの要因
- ▶ インフレはブラジル中央銀行が目標としている4.1%を上回る可能性は低く、金利も抑制傾向が期待される
- ▶ ブラジルは直接投資の受入は引き続き高いことが期待されているが、大統領選挙がブラジル市場、投資家に不安を高める要素となる可能際がある
- ▶ ブラジルの主な直接投資国<sup>2</sup>— 1位 米国22%、2位 オランダ15%、3位 ルクセンブルク7%、4位 フランス6% ...11位 日本2.2%

Indicator*	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
金利 (%)	14,2	10,1	6,8	7,7	8,0	8,0	7,8
インフレ, %y-o-y	8,8	3,5	4,1	4,2	4,0	4,0	4,0
輸出, US\$b	184,5	215,1	218,6	227,5	238,7	251,7	265,6
輸入, US\$b	139,4	151,4	162,3	171,7	183,4	195,6	208,3
直接投資, US\$b	65,4	60,2	60,1	62,6	69,2	76,2	83,7



# ブラジル政治、経済環境

## 最近の動向

- ▶ 2018年統領選挙においては有力候補がなく、出馬候補が乱立見込み。選挙結果如何によって将来の不確実性が大きく左右される
- ▶ 政権が不安定であることを理由として、年金改革、税制改革の実行が遅れ、政府財政の改善が選挙後となった
- ▶ 2017年7月に労働法改正が執行が決定された。労働者と企業での交渉可能とする規定が多く盛り込まれた。

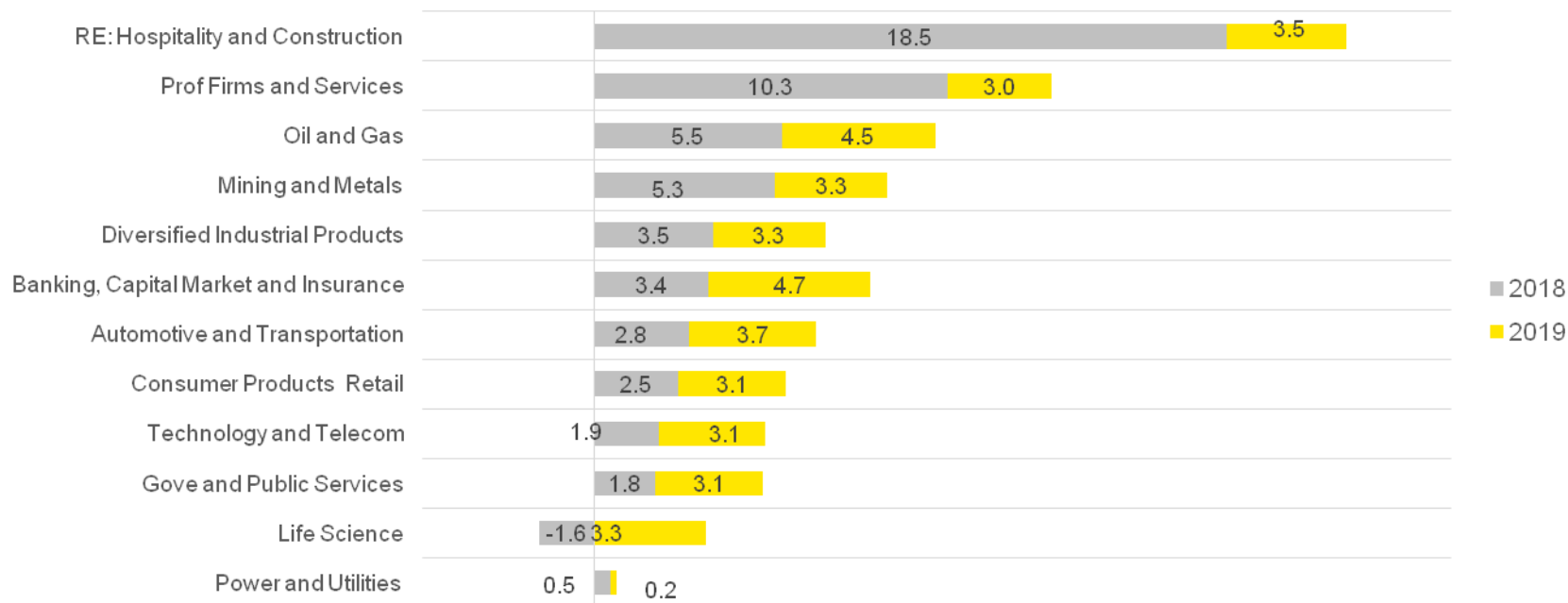


## ブラジルリスクシナリオ

- ▶ 政権不安定なため、直接投資減少する可能性あり
- ▶ 対内公的債務残高はGDP比73.9%（2017年9月現在）
- ▶ ブラジルコストは複雑な税制や労務、インフラの不整備、ブロクラシーの問題などの課題はまだある。
- ▶ 中国経済の経済成長率の鈍化

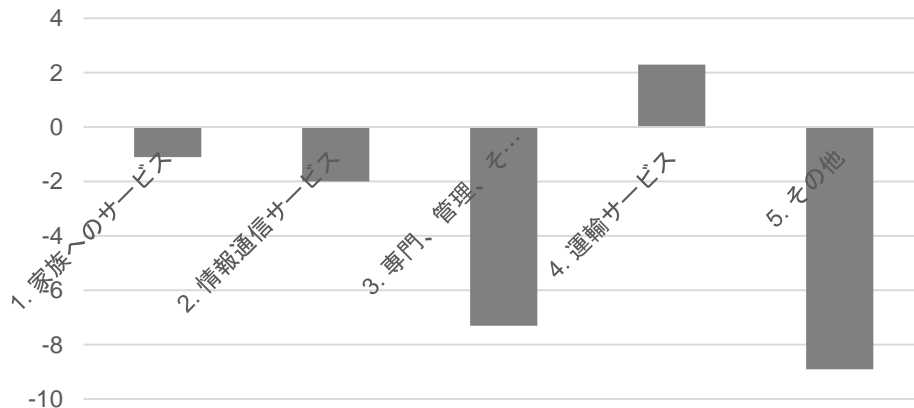
# ブラジル経済 政権不安定要素に関わらず、各産業回復予測

各産業別付加価値ベースの成長率予測 (2018年及び2019年), % y-o-y

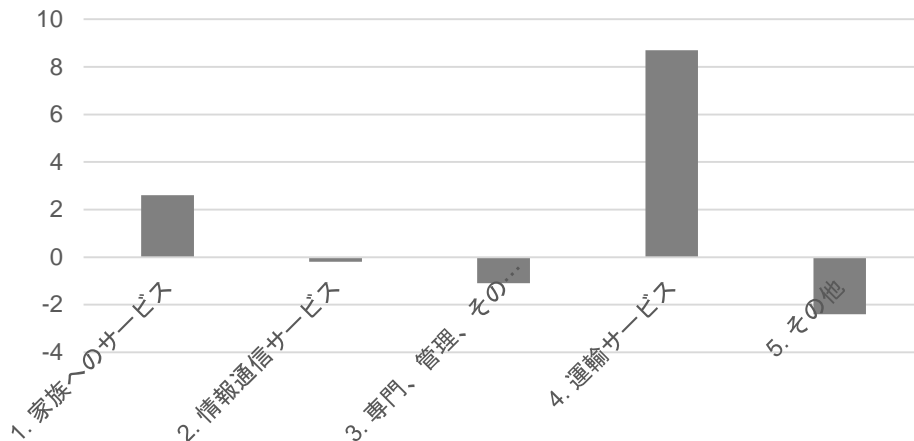


# 2017年サービス業の業績

## サービス業のボリューム



## サービス業の収益



- ▶ 2017年のブラジルでのサービス業のボリュームは去年と比べ2.8%マイナスとなった。収益は2.5%プラスとなった
- ▶ 2017年12月には同年11月に比べて1.3%のプラスとまっている。2018年のブラジル経済の状況によって業界の回復があるかが決まる可能性がある。

# コンサルティング会社の案件

- ▶ ブラジルでのM&Aや投資についての問い合わせが去年末から増加
- ▶ ITセキュリティについて
- ▶ 不正防止、不正調査やその対応
- ▶ 移転価格、間接税（特にICMSクレジット滞留）
- ▶ 労働改正、移民法についての問い合わせ
- ▶ 南米の組織編制や見直し
- ▶ 特にアルゼンチンの投資などの問い合わせの増加

# 『いま求められる新たな視点は』

- ▶ **ビジネスモデルを考える**
- ▶ ブラジルの市場にあった日本の商品
- ▶ 物流の変化(インターネットなど)
- ▶ 売れる商品
  
- ▶ **労働法改正のベネフィット**
- ▶ 企業、従業員にもベネフィットとなる規定
- ▶ 労働訴訟件数減
  
- ▶ **ブラジルへの投資**
- ▶ インフラ(民営化、教育、医療など)
- ▶ ファミリー企業のオポチュニティー

コーヒーブレイク

**COFFEE BREAK**



後半司会

大久保 敦 企画戦略委員長

APRESENTADOR

Presidente da Comissão  
de Planejamento e  
Estratégia

Atsushi Okubo

**化学品 部会**

**羽田 徹 部会長**

**Departamento de Produtos Químicos**

**Presidente: Toru Haneda**

# 「2017年の回顧と2018年の展望」

副題:いま求められる新たな視点は

2018年3月1日(木)

ブラジル日本商工会議所 化学品部会

Nisso Brasileira Representação Ltda. (日本曹達) 羽田 徹

# 目次

---

1. 2017年ブラジル化学業界
2. 2017年の回顧と2018年の展望
  - a. 輸送（自動車、二輪車など）
  - b. ヘルスケア（食品、化粧品、医療品など）
  - c. 農業（農薬、飼料、酵素など）
  - d. 印刷（インキ、製紙など）
  - e. 総括
3. 副題：いま求められる新たな視点は



# 1. 2017年ブラジル化学業界

## Abiquim(ブラジル化学工業会)

	2016年	2017年	前年比(%)
業界売上	3,749億リアル	3,793億リアル	1.2%増
	1,105億ドル	1,196億ドル	8.2%増
輸出	122億ドル	138億ドル	13.1%増
輸入	342億ドル	372億ドル	8.8%増
貿易収支	-220億ドル	-234億ドル	6.3%増

## 2. 2017年の回顧と2018年の展望

化学品部会所属企業・団体：70社  
→ アンケート協力：26社（工場保有：14社）

〈アンケート方法〉  
各市場における売上と利益の推移を聞き取り

### 〈化学品部会が関わる市場〉

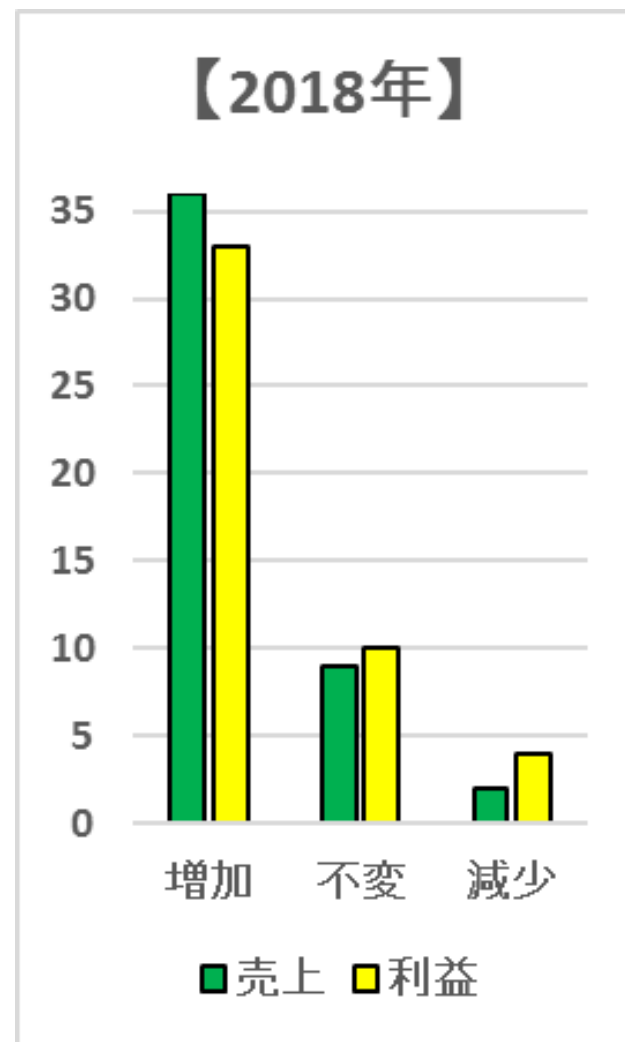
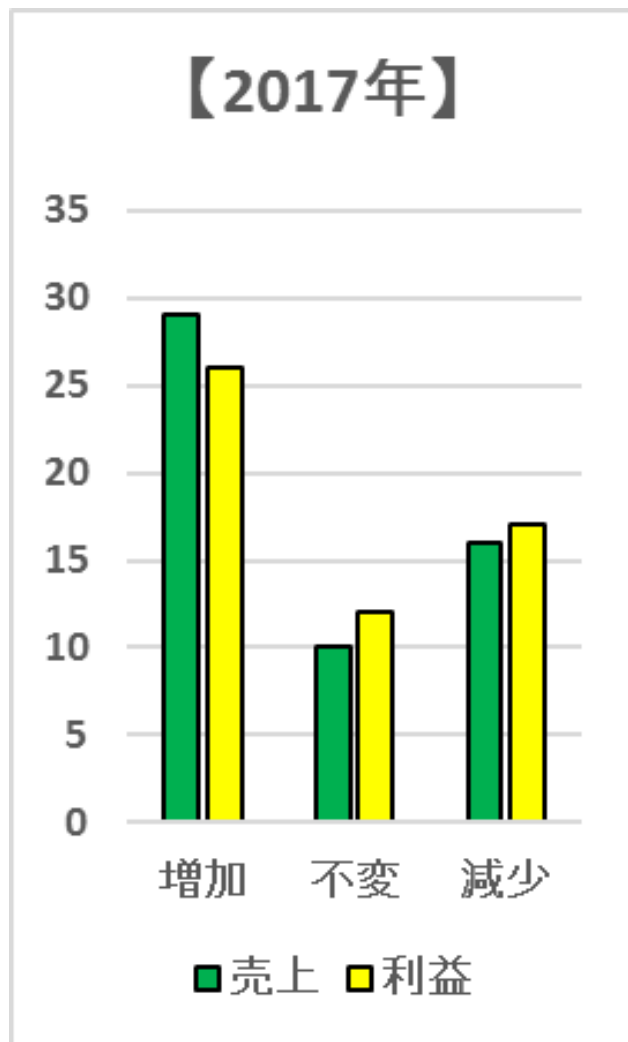
市場	アンケート数	割合
輸送（自動車・二輪車など）	20	36%
ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品など）	10	18%
農業（農薬・飼料・酵素など）	7	13%
印刷（インキ・製紙など）	6	11%
機器（電気電子・医療・工作など）	5	9%
コンシューマー（筆記具、スポーツ用品など）	3	5%
建築	3	5%
服飾	1	2%

計55件

## 2. 2017年の回顧と2018年の展望

### ■ 化学品部会

回答件数

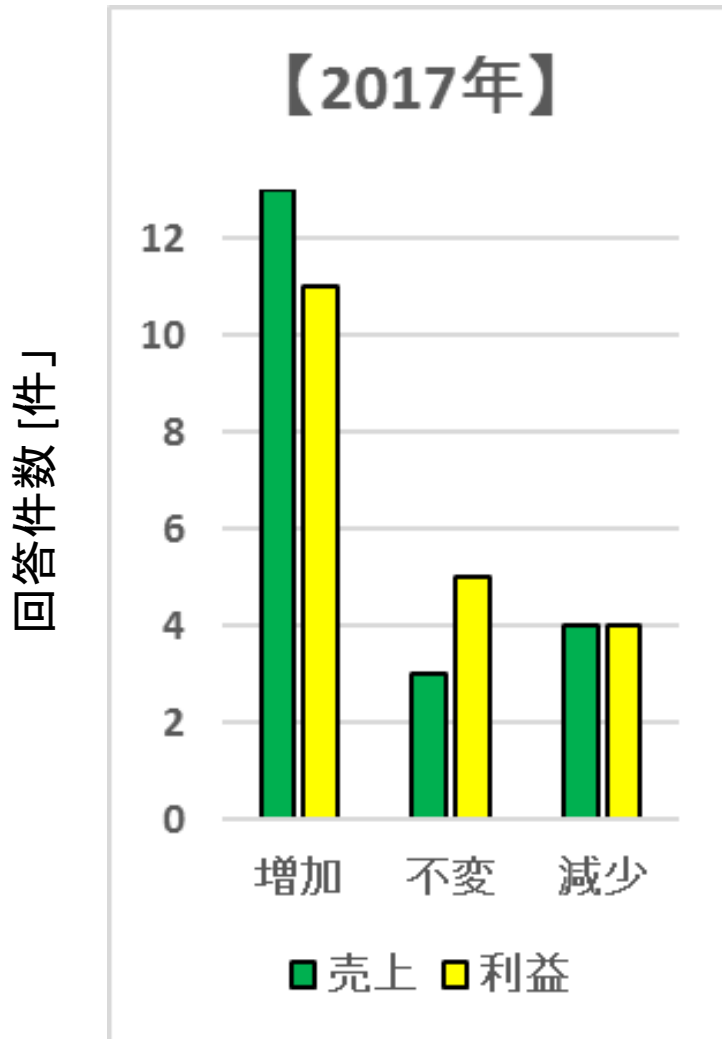


## 2-a. 2017年の回顧と2018年の展望

### ■ 輸送（自動車・二輪など）



用途：内外装プラスチック部品、エンジン用シール剤、樹脂添加剤、着色剤、燃料など



ポジティブ

ネガティブ

#### <市場>

- 自動車：生産・販売台数が増加
- 二輪：販売台数が減少

#### <各企業の売上増減の要因>

##### 自動車分野

- 価格対応
- 機能性原料の紹介
- 顧客の再獲得、新規開拓
- 現地生産化
- アルゼンチン輸出

##### 二輪分野

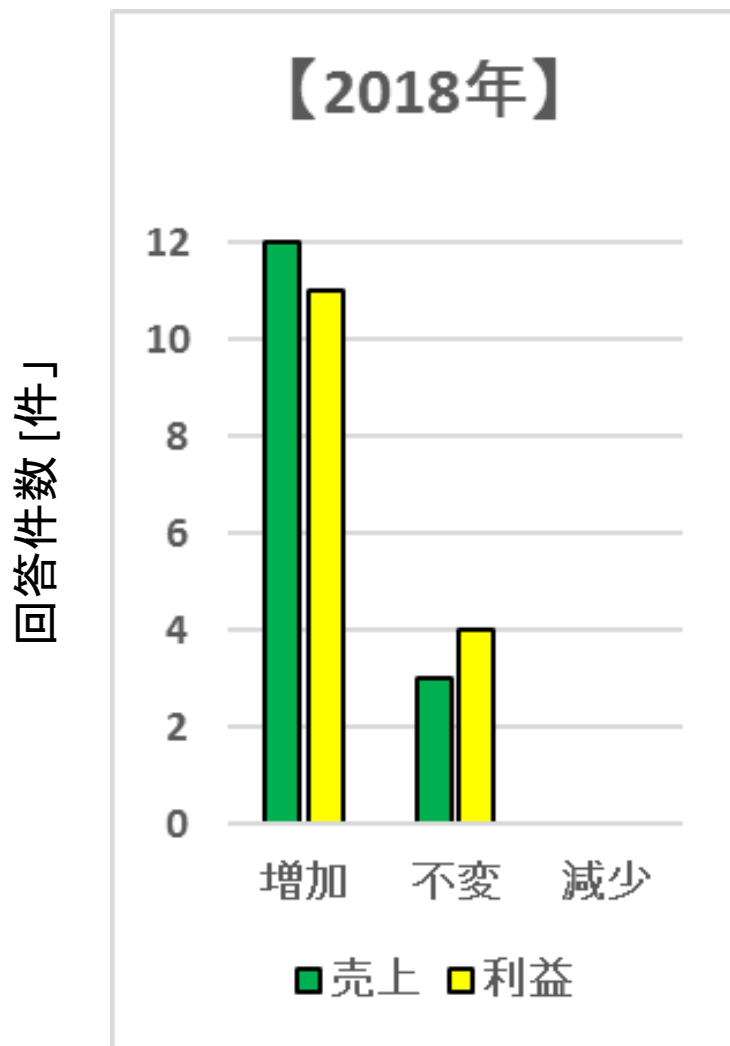
- 中国品・韓国品との競争激化
- 与信不安



## 2-a. 2017年の回顧と2018年の展望

### ■ 輸送（自動車・二輪など）

用途：内外装プラスチック部品、エンジン用シール剤、樹脂添加剤、着色剤、燃料など



ポジティブ

ネガティブ

#### <市場>

- 自動車：生産台数の増加、ラインの増設、新型エンジン生産予定
- 二輪：生産台数の増加？

#### <2018年対策>

- 機能性原料の拡販
- 新規開発アイテムの立ち上げ
- 販売条件に柔軟性を持たせる
- 工場稼働率アップ

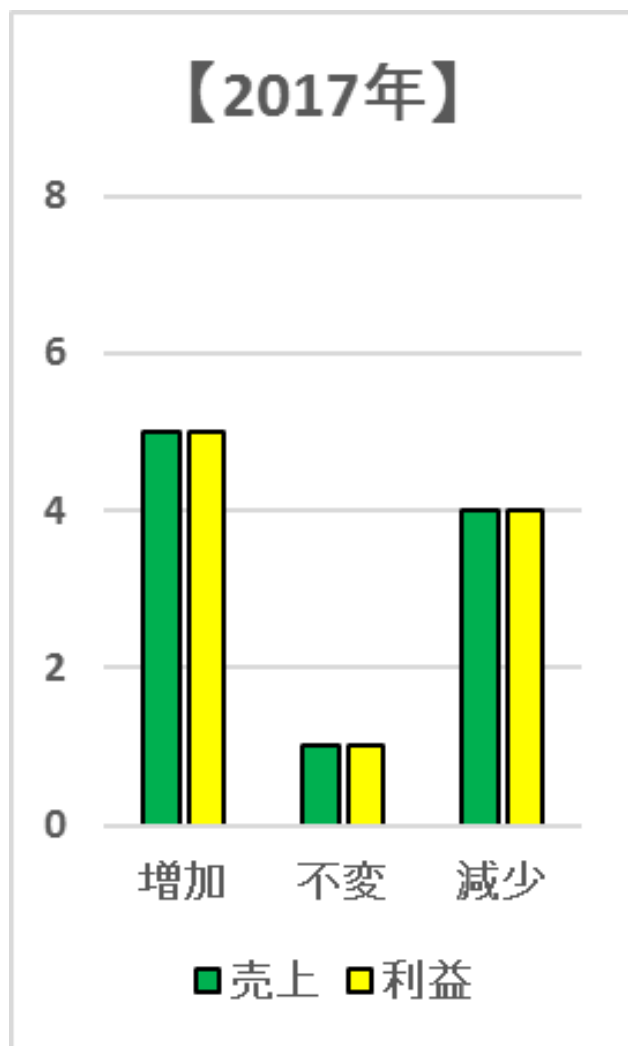
## 2-b. 2017年の回顧と2018年の展望

### ■ ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品など）



用途：食品添加剤、包装フィルム改良剤、包装着色剤、化粧品原料、一般医薬品など

回答件数 [件]



ポジティブ

ネガティブ

#### <市場>

- 食品：市場回復見られる
- 食品：競合との価格競争
- 化粧品：市場回復が見られず？
- 医薬品：市場回復せず。

#### <各企業の売上増減の要因>

- 新規開発アイテムを増加
- 顧客の輸出案件に協力
- 販売体制の再編
- 販売費を積極投入
- 価格競争激化
- 重要顧客と契約終了（周辺国展開に着手）

## 2-b. 2017年の回顧と2018年の展望

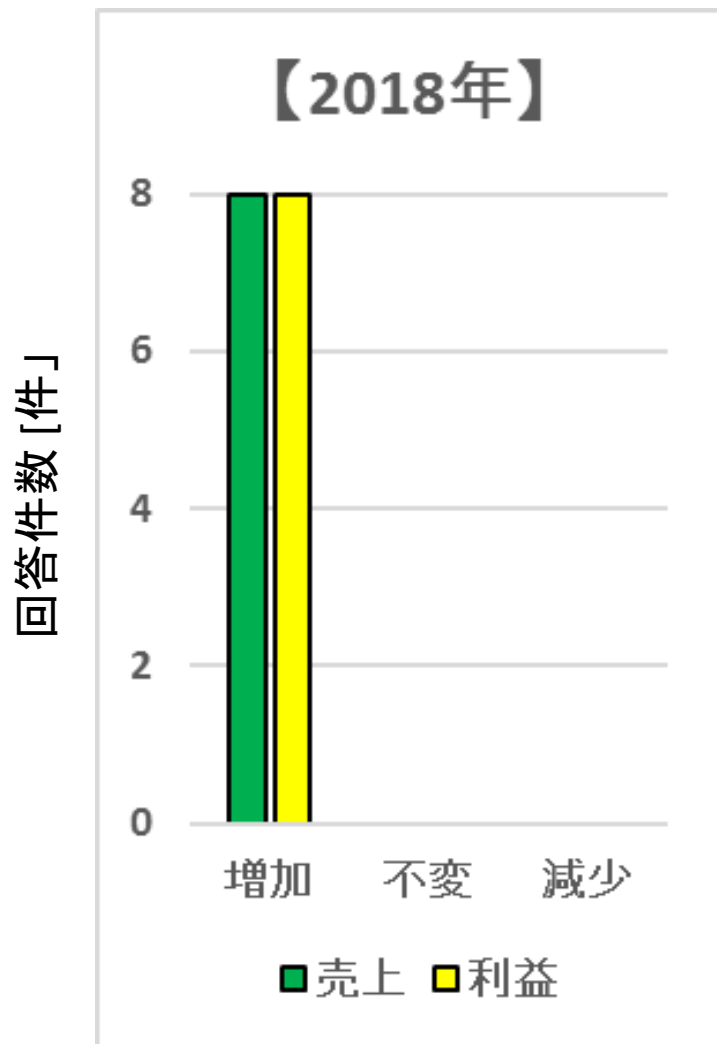
### ■ ヘルスケア（食品・化粧品・医薬品など）



用途：食品添加剤、包装フィルム改良剤、包装着色剤、化粧品原料、一般医薬品など

ポジティブ

ネガティブ



#### <市場>

- 食品：市場回復
- 化粧品：市場回復
- 医薬品：市場回復

#### <2018年対策>

- 販売費の継続投入
- セールス増員
- 新製品の上市
- 周辺国への展開

## 2-c. 2017年の回顧と2018年の展望

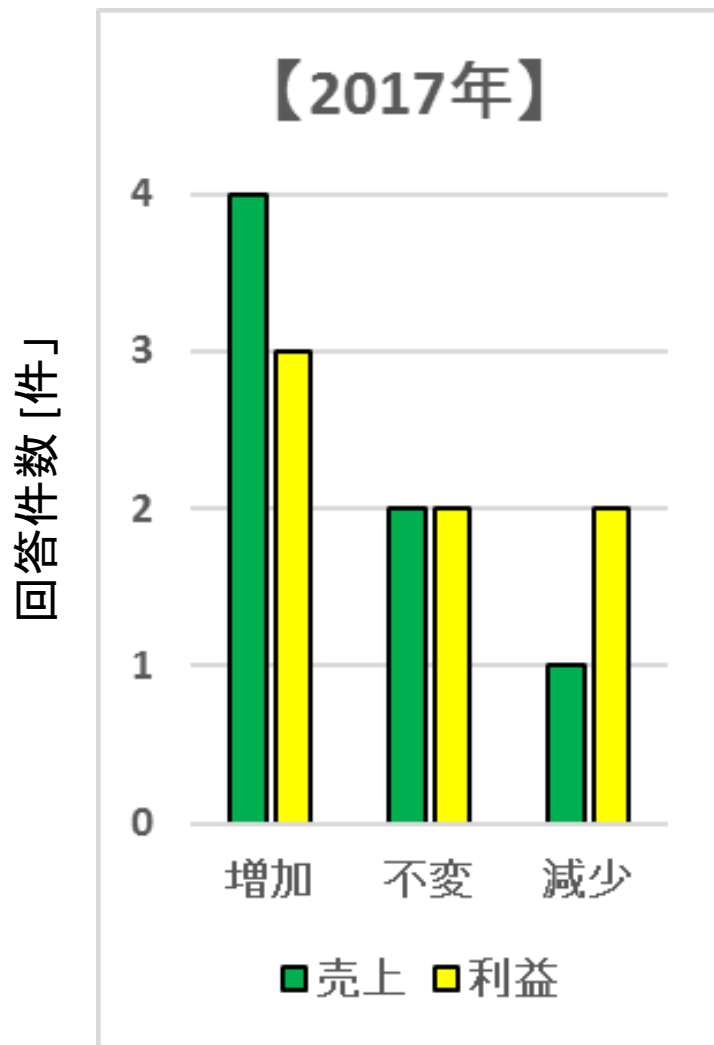
### ■ 農業（農薬・飼料・酵素）

用途：殺虫・殺菌・除草剤、飼料添加剤、診断薬原料など



ポジティブ

ネガティブ



#### <市場>

- 天候良好、豊作、農産物・食肉輸出良し
- 農薬：流通在庫過多、BtoB市場縮小

#### <各企業の売上増減の要因>

- 新製品の上市
- 周辺国へ展開
- 海外投資先のブラジル販売増
- ジェネリック攻勢
- 遺伝子組み換え作物の浸透（製品ミスマッチ）

## 2-c. 2017年の回顧と2018年の展望

### ■ 農業（農薬・飼料・酵素）

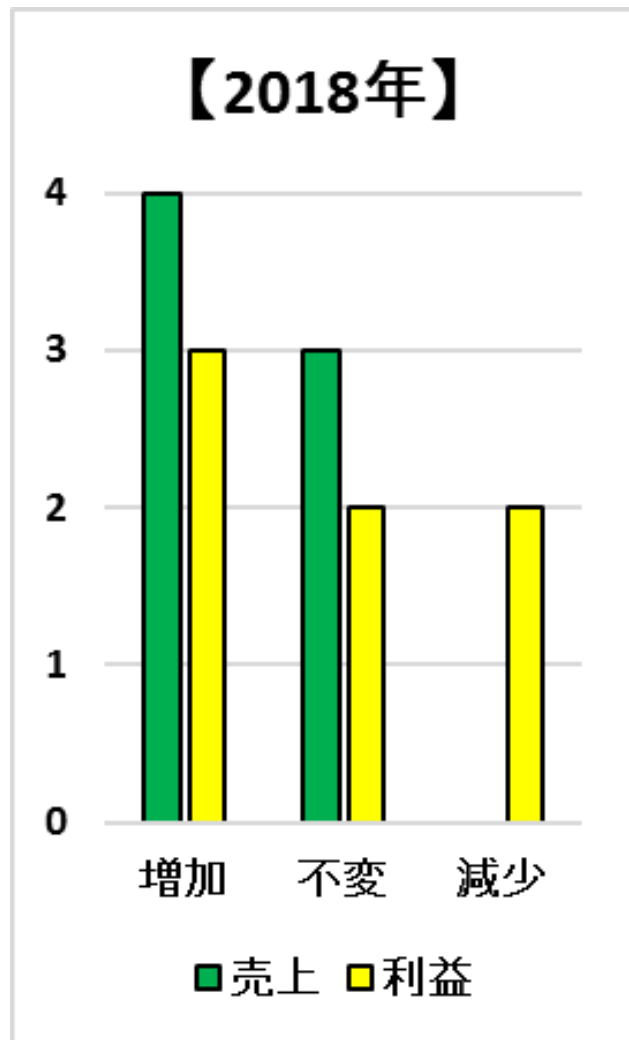
用途：殺虫・殺菌・除草剤、飼料添加剤、診断薬原料など



ポジティブ

ネガティブ

回答件数 [件]



#### <市場>

- 天候良好、大豆生産過去最高の見通し
- 農薬流通在庫の整理すすむ
- ジェネリック攻勢

#### <2018年対策>

- スタッフ増員
- 販売網の拡充
- 新製品の上市
- 周辺国への展開強化
- 価格対応でシェアキープ

## 2-d. 2017年の回顧と2018年の展望

### ■ 印刷（インキ・製紙など）

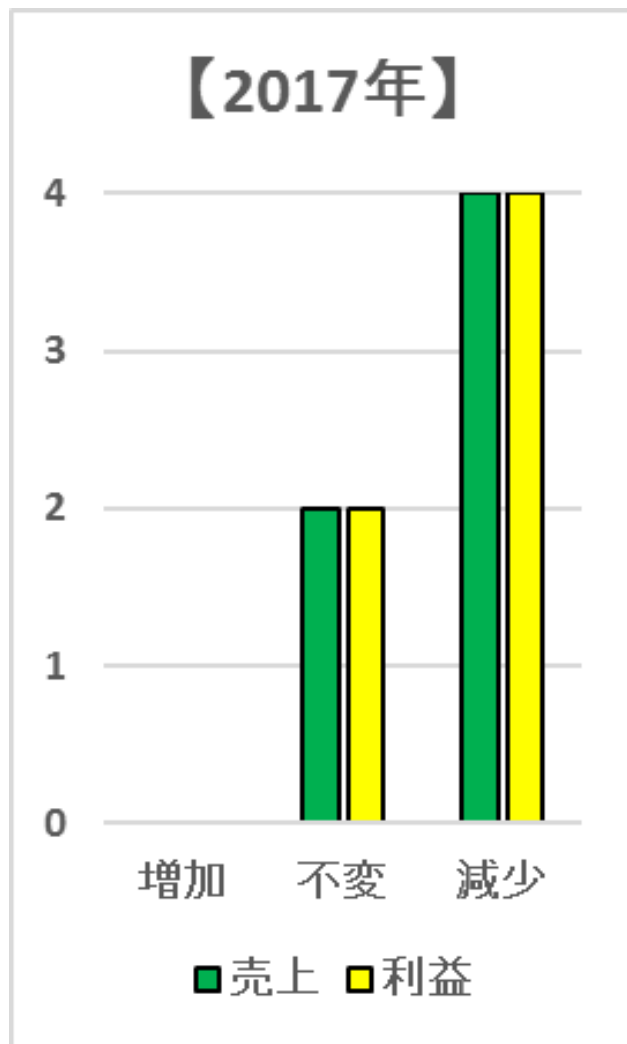
用途：出版・パッケージ用インキ、感熱紙原料、印画紙など



ポジティブ

ネガティブ

回答件数 [件]



#### <市場>

- 市場低迷、在庫過多
- 価格下落傾向

#### <各企業の売上増減の要因>

- 競争激化・ニーズ変化で販売減
- 輸出の増加

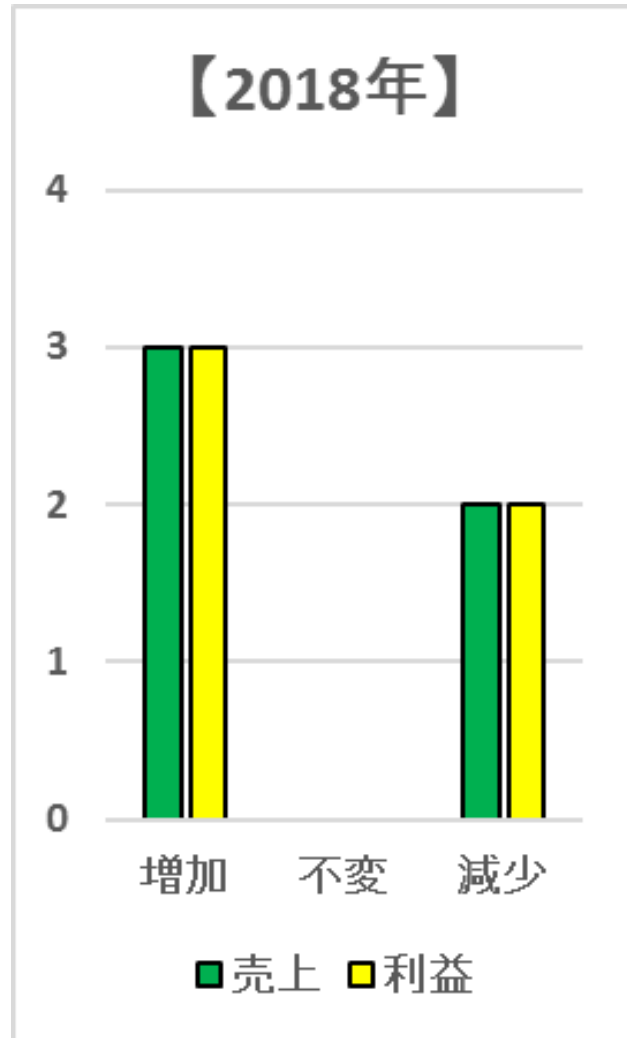
## 2-d. 2017年の回顧と2018年の展望

### ■印刷（インキ・製紙など）

用途：出版・パッケージ用インキ、感熱紙原料、印画紙など



回答件数 [件]



ポジティブ

ネガティブ

#### <市場>

- 印刷・インキ：市場の低迷が続く
- 輸出は伸長
- 一部分野で高機能化
- 感熱紙原料：需要増

#### <2018年対策>

- 製品ラインナップの見直し
- 高機能製品の投入
- 新規顧客の開拓
- 周辺諸国への展開強化
- 価格競争激化により減収減益

### 2017年回顧

売上増加 29/55件 (53%)

(一部市場を除いて)

「我慢の時期は終わった」

- 需要の回復は着実にみられた  
(一部市場を除いて)
- 一般大衆の購買意欲回復にまではまだ時間がかかりそう
- 機能原料や新規案件の立ち上げ、販売体制の見直しなど、成長への布石を打った

### 2018年展望

売上増加 36/47件 (77%)

「攻める時が来た」

- 一般の購買意欲も復調
- 機能原料や新製品を更に投入
- 価格対応や販売条件見直し
- 輸出強化



### 3. 副題： いま求められる新たな視点は

---

- 許認可プロセスの簡素化・迅速化
  - 輸入ごとの品質検査を簡略化
  - 税制改革(簡素化、関税軽減、国内生産品の税優遇)
  - 改正労働法
  - 違法品の取り締まり強化
- 
- 環境配慮型製品
  - 当局研究機関との共同開発
  - コスト削減のための設備投資

ご清聴ありがとうございました。

**電気電子 部会**

**千野 浩毅 部会長**

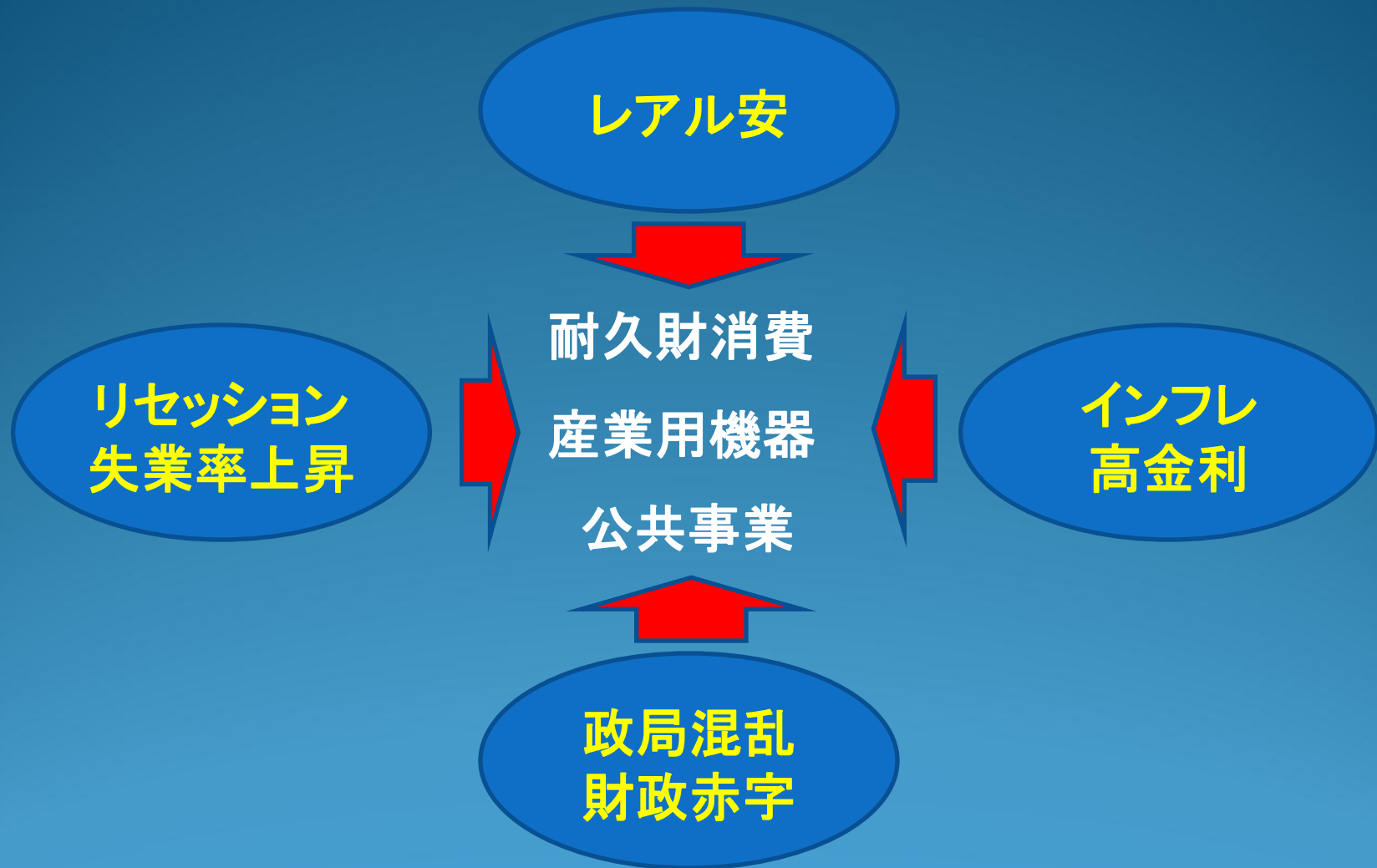
**Departamento Eletroeletrônico**

**Presidente: Hiroki Chino**

# 電気電子業界 2017年回顧と2018年展望

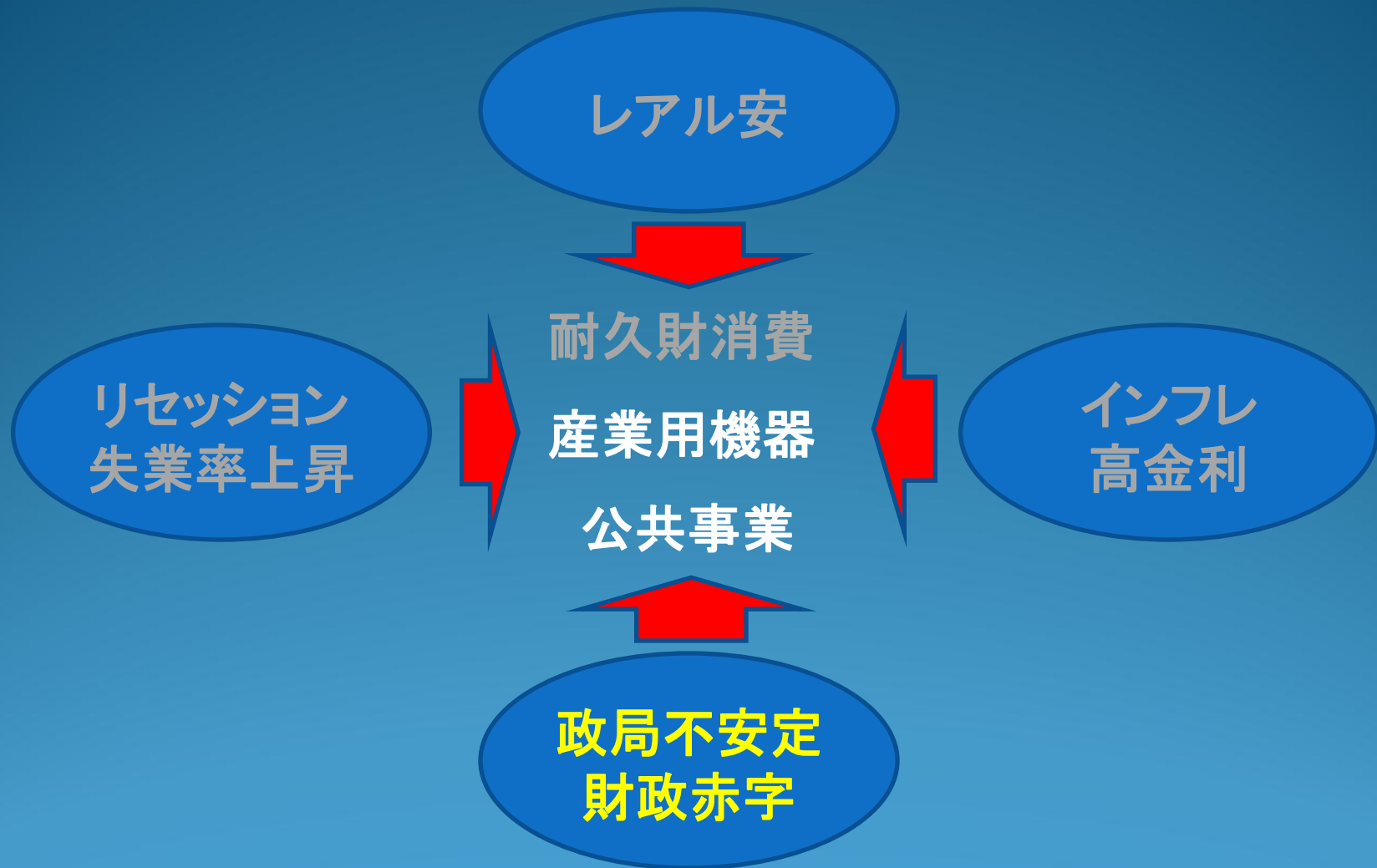
2018年3月1日  
電気電子部会

# 電気電子業界の事業環境（2015年～2016年）



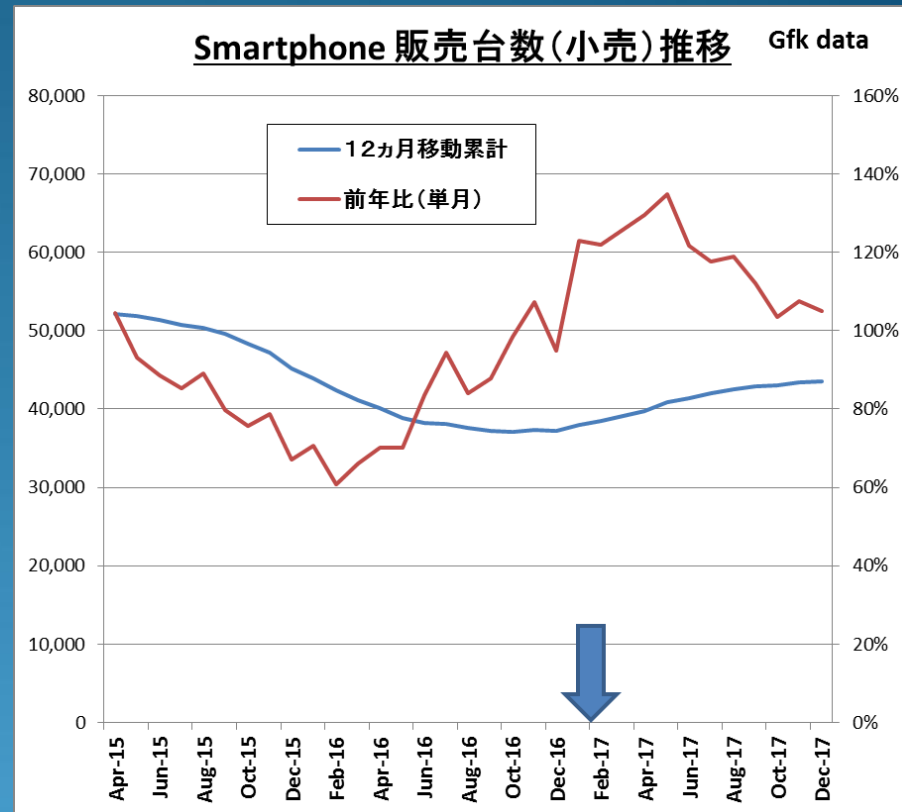
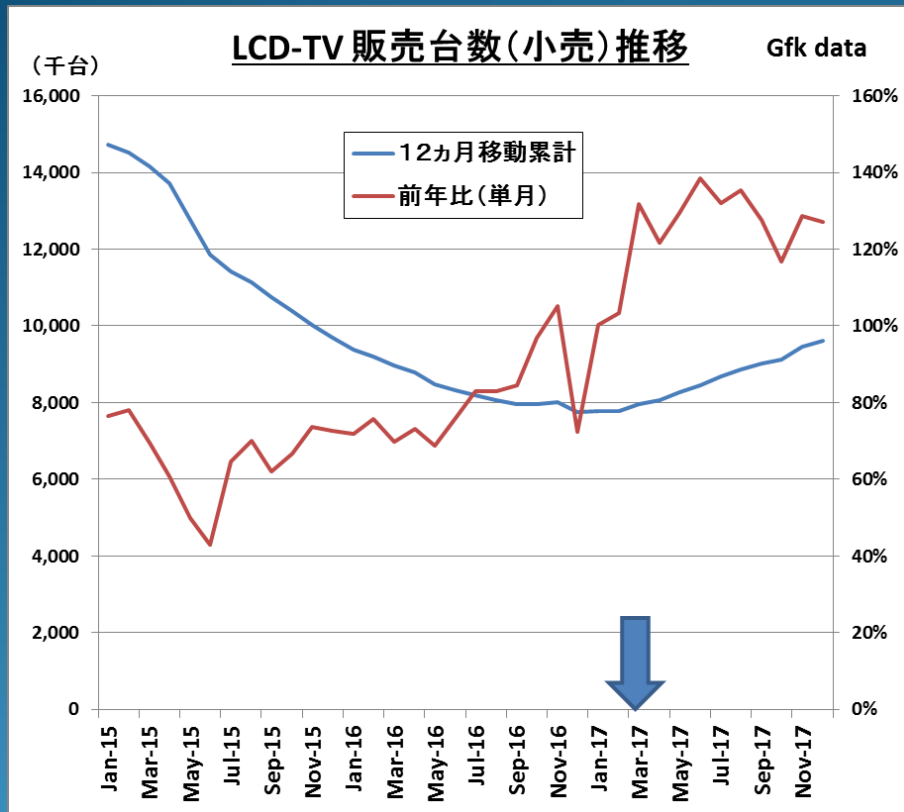
一般消費者向け耐久消費材、産業向け機器、公共事業の全分野にわたって  
事業環境は「どん底」 の状況にある

# 電気電子業界の事業環境（現在）



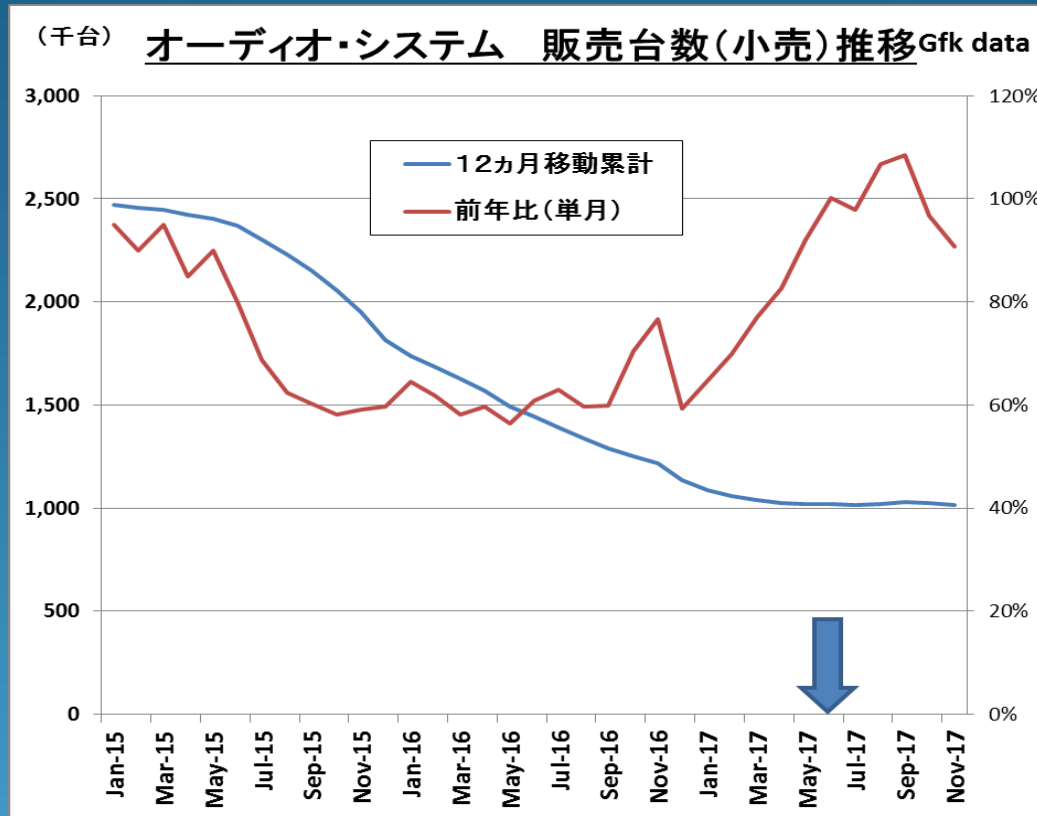
- ・ 「どん底」 ⇒ 「底打ち」 ⇒ 「回復」 の基調
- ・ 事業領域、商品カテゴリーによって回復のスピードは異なる

# 液晶TV・スマホ販売台数(小売)の推移



- 液晶TVは3月、スマホは2月からプラス成長に転じ、その後、プラスを継続

# オーディオ販売台数(小売)の推移

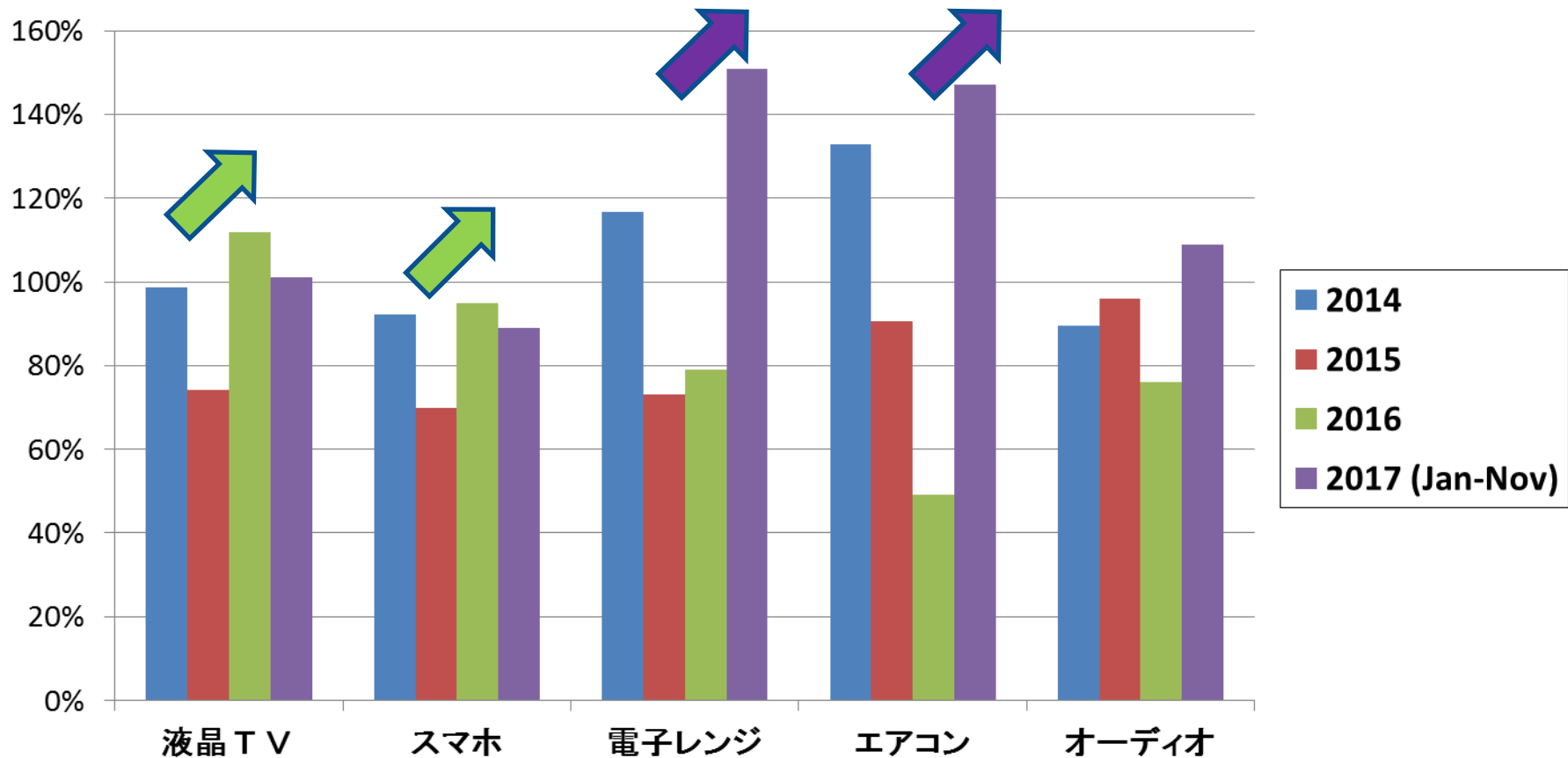


- 下落を続けていたオーディオも6月に底を打ち、その後は維持



# 主要家電製品 マナウス生産数量推移

マナウス地域における生産数量の推移(対前年比)



- 2014年から2015年にかけてオーディオを除く全カテゴリーで大幅なダウン
- 最初に「必需品」が回復（液晶TV、スマホ）
- 続いて「成長商品」が回復（電子レンジ、エアコン）
- 衰退カテゴリーも底打ち（オーディオ）

# 2017年回顧と2018年展望 会員アンケート結果





## 電気電子部会各社の販売動向（対前年）

「維持」を対前年比100～109%として

8月時点  
の  
2017年展  
望

	改善	維持	悪化	合計
17年展望	10	1	3	14
(%)	72%	7%	21%	100%

今回の  
アンケート  
結果

	改善	維持	悪化	合計
17年回顧	8	3	1	12
(%)	67% 	25%	8% 	100%
	改善	維持	悪化	合計
18年展望	9	3	0	12
(%)	75% 	25%	0% 	100%

# 2017年回顧 会員アンケート 主要コメント

(-)

- ・ 産業系投資および公共投資の停滞が続いている
- ・ ラバジャットの影響
- ・ 特需の減少(2016年はオリンピック特需があった)
- ・ 取引先の経営困難(資金難、信用縮小など)による影響

(+)

- ・ 一般耐久消費財需要の「底打ち」と回復
- ・ 為替の安定、金利低下のメリット
- ・ 自動車業界回復による車載機器の伸長
- ・ 自社努力の成果(商品力、コスト、販売戦略、新規Biz、輸出)
- ・ 投資の再開(増産対応、新規事業)

(+/-)

- ・ 競争の再開(⊕市場活性化 ⊖収益圧迫)
- ・ 経済回復後の成長シナリオが不明
- ・ 顧客企業の事業モデル変化(ハードからソフト、マルチベンダー化)
- ・ 取引小売店の在庫管理レベル向上(リーンなオペレーション)
- ・ Eコマースの伸長(流通構造の変化)

# 2018年展望 会員アンケート 主要コメント

(-)

- ・ 産業投資、公共投資回復の遅れ
- ・ グローバル・ボラティリティに関する懸念
- ・ 中国、フランス等の官民一体となった活動

(+)

- ・ 景気回復の継続、物価・為替安定への期待
- ・ 改正労働法のメリット
- ・ 自社努力の継続による事業拡大

(+/-)

- ・ 大統領選挙、年金改革の行方
- ・ ワールドカップ(⊕需要拡大 ⊖市場の乱れ)
- ・ 事業環境変化への対応(顧客・取引先の変化)

## <サマリー>

- 市場回復の速度と度合いは事業領域や商品カテゴリーによって差がある
- 特に産業用機器、公共投資関連は依然、厳しい状況が続いている
- 景気回復の流れの中で、
  - 事業規模再拡大への準備を進める
  - リセッション期から取り組んできた「市場の量的拡大に頼らない経営」（差異化、新規事業、体質強化）の継続・強化
  - 事業環境の変化（顧客・取引先）を見定めた事業展開が必要
  - 大統領選挙、年金改革の行方は大きな懸念

# シンポジウム副題に関して

## 『いま求められる新たな視点は』

- IT通信環境の進化と拡大は市場の質的な変化をもたらしつつある
  - 消費者のITリテラシー高度化(「賢い消費者」)
  - Eコマース拡大
  - 広告・プロモーション・アプローチ手法
  - 企業間の情報連携、コミュニケーション
- 技術革新のスピードが速い
  - 電子化
  - ソフト化
  - IoT、AI、ロボテクス

# 商工会議所、ブラジル政府、日本政府への要望

## ポスト高度成長のブラジルの魅力を創出する努力

政治・経済・為替・治安の健全化・安定化への努力

新規事業や輸出拡大へのインセンティブ(「その場しのぎ」でないもの)

税制の改善(増税阻止、簡素化、透明化、低減、ST・クレジット累積問題の解消、国際標準レベルの移転価格税制への変更)

ビジネス・インフラの整備(物流ネットワークなど)

ファイナンス、ファンディング、パートナーリングの支援・連携促進

日本・メルコスールEPA締結への動きと絡めて;

南米周辺国との輸出入拡大に向けた手続き・税制の改善、体系的な取り組み  
中国やフランスのような官民一体となった取り組み

ご静聴、ありがとうございました。



**食品 部会**

**黒崎 正吉 部会長**

**Departamento de Gêneros Alimentícios**

**Presidente: Masayoshi Kurosaki**

## **2017年の回顧と2018年の展望**

『いま求められる新たな視点は』

---

**2018年3月1日**  
(木)

食品部会

## 1. 食品部会会員企業

### 2. 市場及び会員企業状況

- (1) スーパーマーケット全体
- (2) 食品・飲料業界
- (3) 業種別動向及び会員企業状況
- (4) 市場の現状・今後及びこれから求められるキーワード

### 3. 副題- 『いま求められる新たな視点は』

- (1) スペシャリティーの強化
- (2) 将来に向けた事業インフラの強化

# 1. 食品部会会員企業 (42社)

# 食品部会

会員企業	業種	会員企業	業種
Ajinomoto do Brasil	調味料・食品	Marubeni Brasil	
Adeka Brasil		Mitsubishi Corporation do Brasil	サーモン等
Azbil do Brasil		Mitsui Alimentos	コーヒー
Azuma Kirin	酒類	Mitsui Chemicals do Brasil	
Banco Mizuho do Brasil		Miura Boiler do Brasil	
Banco Sumitomo Mitsui Brasileiro		MN Pró polis	
Banco Tokyo- Mitsubishi UFJ Brasil		Nagase do Brasil	食品添加剤
BBBR Serviços e Desenvolvimento		NH Foods do Brasil	食肉
BDO RCS Auditores Independentes		Niagro- Nichirei do Brasil	アセロラ加工
Be One Solutions Brazil		Nissin Foods do Brasil	即席めん
Buffet Colonial ( KS Yoshikawa- EPP)		Okaya do Brasil	
CIA Iguaçu	コーヒー	Sandia do Brasil	
DEC Enterprises		Sociedade Coml. Toyota Tsusho	
Harald Alimentos	チョコ、製菓材料	Supermercado Hirota	
Itochu Brasil		Takasago Fragrâncias e Aromas	食品香料
Jetro, São Paulo		Takii do Brasil	種苗
JFC Brasil		Ueno Profit Assessoria	
JICA ( Escritório Anexo Consul. Japão )		Yakult	乳飲料
Kanematsu América do Sul	コーヒー、食肉等	Yamato Comercial	
Kikkoman	しょうゆ	ZEN- NOH Grain Brasil Holdings	
Kisco do Brasil		Zensho do Brasil	外食

## 1. 食品部会会員企業

### 2. 市場及び会員企業状況

- (1) スーパーマーケット全体
- (2) 食品・飲料業界
- (3) 業種別動向及び会員企業状況
- (4) 市場の現状・今後及びこれから求められるキーワード

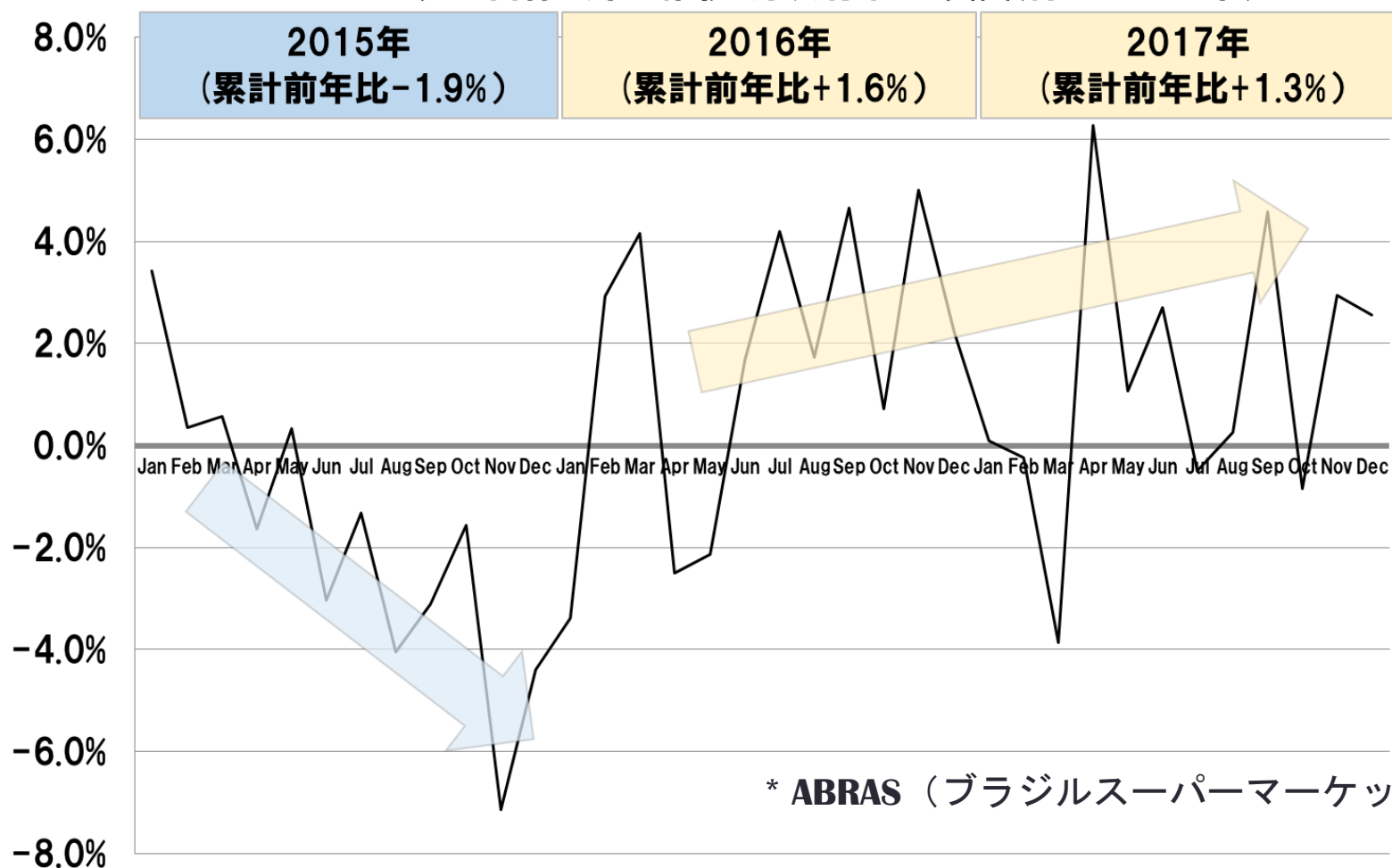
### 3. 副題- 『いま求められる新たな視点は』

- (1) スペシャリティーの強化
- (2) 将来に向けた事業インフラの強化

## 2. 市場及び会員企業状況 (1) スーパーマーケット全食品部会

スーパーマーケット売上高伸長率は、**2016年**から**2017年**にかけて、緩やかな回復傾向が継続している。

スーパーマーケット売上高伸長率の推移: 月次前年比・実質(除くインフレ率)



\* ABRAS (ブラジルスーパーマーケット協会)

## 2. 市場及び会員企業状況

### (2) 食品・飲料業界

### 食品部会

食品； 直近4半期にて、7割を占める主食の出費節約が要因で伸長率下落傾向。  
コーヒーやチョコレートの主力嗜好品は微増、ヨーグルトは大幅下落。  
飲料； 直近4半期にて、6割を占めるアルコール飲料は下げ止まり感あり（-1.5%）、  
非アルコール飲料は主力の炭酸、水、液体、粉末が減少（各-5%以上）。

食品・飲料売上高伸長率の推移；4半期・前年比・実質(除くインフレ率)



## 2. 市場及び会員企業状況 (3) 業種別動向及び会員企業状況 **食品部会**

会員企業の関係する業種においても、**2017年度**は厳しい市場環境が継続。

業種	2017年度 市場動向	2017年度 会員企業状況
調味料	全体は金額前年比 <b>99%</b> （粉末調味料＋メニュー調味料）。粉末は同 <b>102%</b> と堅調も、高単価のメニュー調味料は同 <b>75%</b> と苦戦。	消費者キャンペーン、露出を高める施策、 <b>SNS活用レシピ提案等</b> により、市場伸長率を大きく上回る <b>110%</b> となった。
酒類	景気低迷、顧客の低価格志向により、低価格カテゴリ製品へのシフト継続。	売上高は前年度並みで着地の見込み。
コーヒー	景気低迷、コーヒー消費量伸び鈍化。原料相場は軟化に転じ、各社シェア獲得の為、価格競争が激化。	相場への機敏な対応と共に、価格競争への耐性強化を目指し、付加価値商品の拡充を推進。
チョコレート	<b>2013年（ピーク）</b> 以降の数量減少傾向が <b>2017年</b> も継続。一方で <b>2018年</b> イースターに向けた出荷増の動きも見え始めた。	販売数量は前年に比べ減少も、 <b>2018年</b> は底打ちからの回復を見込み、新商品の投入による拡大を目指す。
即席めん	総需要は数量ベースで微減で推移。	販売数量は微増。結果としてシェアアップとなった。
食肉	ブラジル産鶏肉の日本向け輸出量は前年比 <b>113%</b> も、日本での需要を上回る数量となり、在庫増となった。	日本向け輸出量は前年比 <b>108%</b> 。日本輸出の他に、ローカル販売や自社グループの他の海外拠点との取引拡大を目指す。



## 2. 市場及び会員企業状況

### (4) 市場の現状・今後及びこれから求められるキーワード

## 食品部会

#### <市場の現状・今後>

##### 1) 現状

- ・ スーパーマーケット全体は、ここ2年間で緩やかな回復傾向であるが、食品・飲料は直近4半期で前年から約4%程度の減少となっている。
- ・ 主食の出費節約に加え、高単価製品（例.ヨーグルト）の出費を抑制する傾向。  
一方、アベイラブルな単価の製品（例.コーヒー、ビール）は下げ止まり、  
または伸長が見られた。

##### 2) 今後

#### <これから求められるキーワード>

- 1) アベイラブルな価格で提供可能な製品の更なる強化。
- 2) スペシャリティーの追求と提供。

## 1. 食品部会会員企業

## 2. 市場及び会員企業状況

- (1) スーパーマーケット全体
- (2) 食品・飲料業界
- (3) 業種別動向及び会員企業状況
- (4) 市場の現状・今後及びこれから求められるキーワード

## 3. 副題- 『いま求められる新たな視点は』

- (1) スペシャリティーの強化
- (2) 将来に向けた事業インフラの強化

### 3. 副題- 『いま求められる新たな視点は』

#### (1) スペシャリティーの強化。

<会員企業での事例>

1)酒類 清酒の消費は景気の低迷と顧客の低価格志向の影響を受ける。一方でお酒の楽しみ方は多様化。

新製品；低価格カテゴリー＋カクテルタイプの導入。



2)しょうゆ しょうゆ需要は増え続けるも、輸入品ゆえに現地メーカー一品との価格差あり。

価格ではなく、“価値”（天然醸造等）を認めてくれる層を見極めると共に、ソリューションを提供。  
→ ラーメン専門店、IZAKAYA等。



### 3. 副題- 『いま求められる新たな視点は』

### 食品部会

3) コーヒー レギュラーコーヒーは、原料相場の軟化と共に、各社がシェア獲得に向けて価格競争が激化。

相場の影響度を下げるべく、付加価値商品の開発・販売の強化。



4) 食品 添加剤 景気低迷の中、顧客への提案を通じた機能訴求を継続してきた。

有用な機能（例：甘味料の味質を、より砂糖に近い甘味に改善する）が顧客に支持されてきている。

#### (2) 将来に向けた事業インフラの強化。

##### <会員企業での事例>

#### 1)しょうゆ

ブラジルにもグループ会社の日本食材輸入販売店が設立された。しょうゆに加え周辺調味料やオリエンタル食品等輸入バリエーションを強化。

しょうゆ単品→日本食材全般を**TOTAL**で提案できる形で拡大を目指す。

#### 2)乳飲料

自社独自チャネル（宅配）の更なる強化、地方州販売の活性化による拡大を目指す。

#### 3)食 肉

ラ米生産拠点の拡大 → 日本輸出のみでなく、ローカル販売の強化、自社グループの他の海外拠点への輸出拡大に繋げていく。

#### 4)食品香料、

ブラジル内営業体制強化、販売地域の拡大（ブラジル → ラ米諸国へ）。

#### 食品添加

**運輸サービス 部会**

**矢澤 吉史 部会長**

**Departamento de Transportes e Serviços**

**Presidente: Yoshimoto Yazawa**

2018年上期業種別部会シンポジウム

# 2017年の回顧と2018年の展望

いま求められる新たな視点は

2018年3月1日  
運輸サービス部会



# 運輸サービス部会の対象業界



物流



航空貨物



海運



航空旅客



旅行・ホテル



通信IT

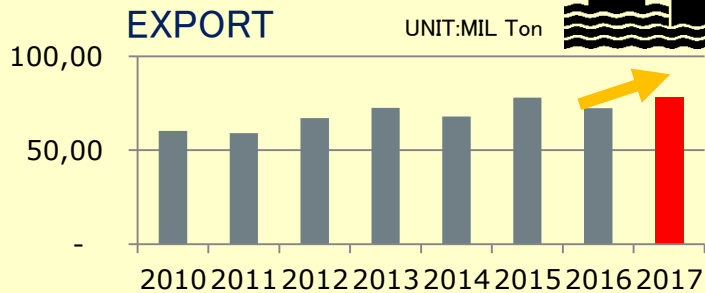
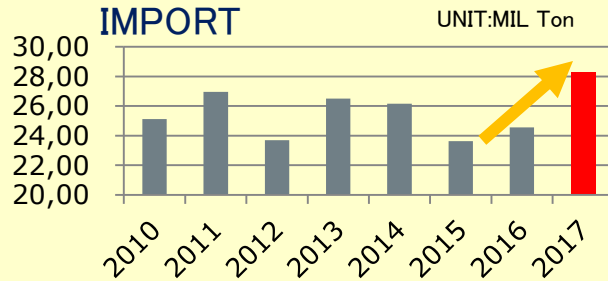




物流

## 2017年回顧

### ● サントス港の貨物扱い量が前年を上回る



## 2018年展望

- 税関ストライキの動向に注視が必要
- (海外引越) 駐在員数が増加に転じる



**木材規制の注意**  
法令に従わない場合

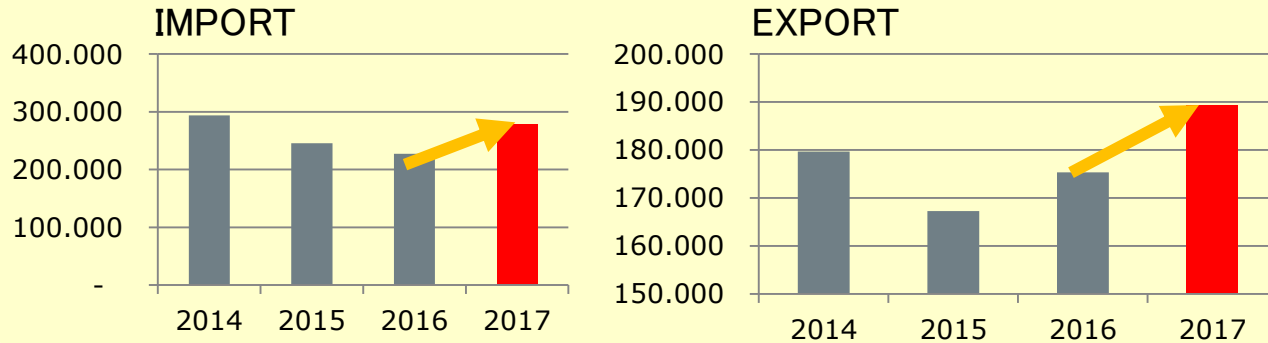
出典元: MINISTERIO DOS TRANSPORTES



## 航空貨物

## 2017年回顧

### ● 主要 2 空港での比較 (GRU・VCP) ※1-12月実績 (UNIT:トン)



## 2018年展望

- 輸出入とも物量増加にて推移予測
- 需要増によるスペース不足、運賃上昇への懸念

## 空港インフラの拡充進む



### 既に民営化されている空港

グアルーリョス  
 ビラコポス / コンフィンズ  
 ガレオン / ブラジリア  
 ビトリア / クリチバ  
 ゴイアニア / レシフェ

### 2018年1月より民営化

サルバドール  
 フォルタレーザ  
 ポルトアレグレ  
 フロリアノポリス

(数値出典元 : GRU AIRPORT CARGO, VCP AEROPORT , INFRAEO CARGO)



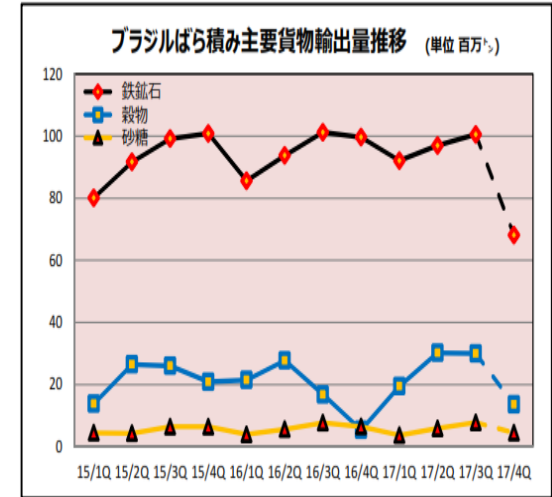
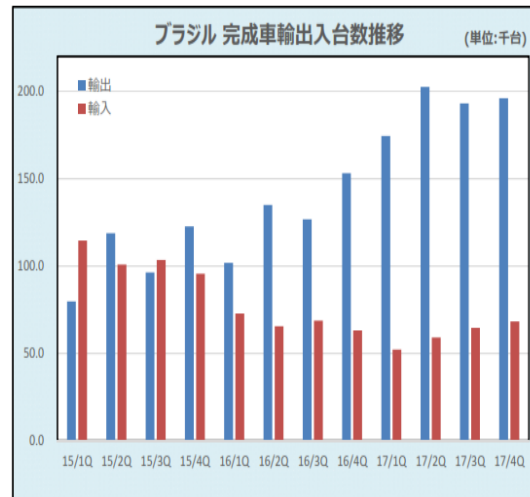
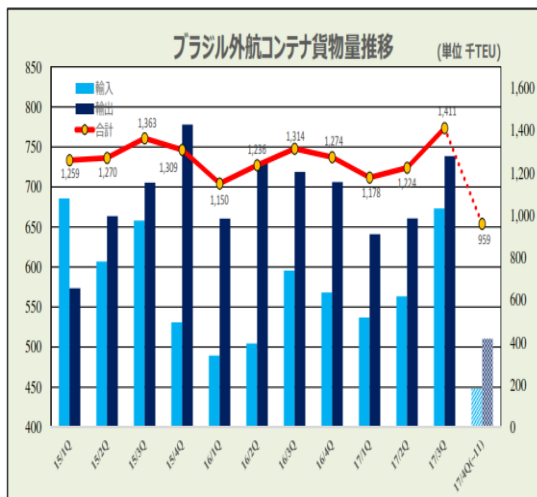
# 海運

## 2017年回顧

- ◆ コンテナ輸送は、需給バランス改善で市況は回復傾向。主要コンテナ船社は合従連衡・アライアンスの再編でサービスの拡充・生き残りを図る。  
**邦船3社(日本郵船、商船三井、川崎汽船)はコンテナ・ターミナル部門を統合、2018年4月より新会社ONE(Ocean Network Express)の下に新サービスを開始予定。**
- ◆ 完成車輸送は、国内需要低迷で輸出にドライブ。特に亜国向け輸出が急増、同国との輸出入量のアンバランス拡大。
- ◆ ドライバルク(ばら積み)輸送は、荷動き増加と新造船供給量の減少で需給バランスはやや改善。特に大型・中型船は中国・欧州向け資源・穀物トレード増が運賃修復に寄与。

## 2018年展望

- ◆ コンテナ輸送は、南米東岸航路の需給バランスに大きな変化は見込まれず、運賃は2017年並みに推移?
- ◆ 完成車輸送は、伯亜経済の回復を中心に、輸出入量とも引き続き緩やかな伸びを見込む。
- ◆ ドライバルク(ばら積み)輸送は、世界経済回復のペースは2017年比下落と見られるも、引き続き資源穀物輸送需要増に支えられ市況の緩やかな回復を見込む。





## 航空旅客

### 2017年回顧

- ▶ 国内線は、**有償旅客キロは対前年+3.0%、提供座席キロは同+1.2%**で、**利用率は+1.4pt上昇**して81.3%となり、年間を通して堅調な実績を維持した（2017年1月～11月計）。
- ▶ 国際線は、ブラジル系航空会社計で、**有償旅客キロは対前年+12.2%、提供座席キロは同+10.5%、利用率は+1.3pt上昇**して85.0%となり、旺盛な需要が続いた（2017年1～11月計）。
- ▶ 世界的に日本への観光が注目されている中、ブラジルからの訪日外客数は、対前年+18.2%で大きく伸びているものの、人数規模は未だ月3,500人程度である（2017年1月～10月計）。

### 2018年展望

データ元：ANAC（ブラジル民間航空庁）、JNTO（日本政府観光局）

- ▶ 国内線は、2017年に続き2018年も緩やかに回復すると思われるものの、大統領選挙の影響で旅客移動の鈍化が懸念される。
- ▶ 国際線は、2016年のオリパラ以降に運休や撤退が相次いだだが、2018年はLATAMによる新路線開設（GRU-BOS）、エミレーツ航空の増便（GRU-DXB）等、再び路線拡充の動きがある。
- ▶ ブラジルでは日系移民110周年記念イベント、アルゼンチンでは2018年にG20サミットやユースオリンピック大会等の政治・スポーツ分野での大イベントが開催されるため、ブラジルをはじめとした南米への航空需要の増加が期待される。



- ▶ **サンパウロ市内とグアリュウリョス空港間のアクセス鉄道は、2018年3月末もしくは4月初旬に開業する予定。**尚、LUZ駅－空港間の直通電車もあり、所要時間は約35分。
- ▶ **米ボーイング社によるエンブラエル社買収の報道があるが、ブラジル政府は容認しない姿勢を示している。**（参考）日本の航空会社によるエンブラエル機保有数：2018年2月末現在 日本航空グループ 29機、フジドリームエアラインズ 11機、計40機



## グアリュージョス空港とサンパウロ市内間の空港アクセス鉄道 (建設中)



- Engenheiro Goulart からグアリュージョス空港の間に敷設。
- CPTM 12号線のBrásから直通運転の予定（1日に数本はLuzから直通運転あり）
- 空港駅はターミナル1の近くにでき、各ターミナルへは巡回バスで移動（徒歩可）



## 参考: ブラジル国際線の月別輸送実績 (2017年版・1日当たり)

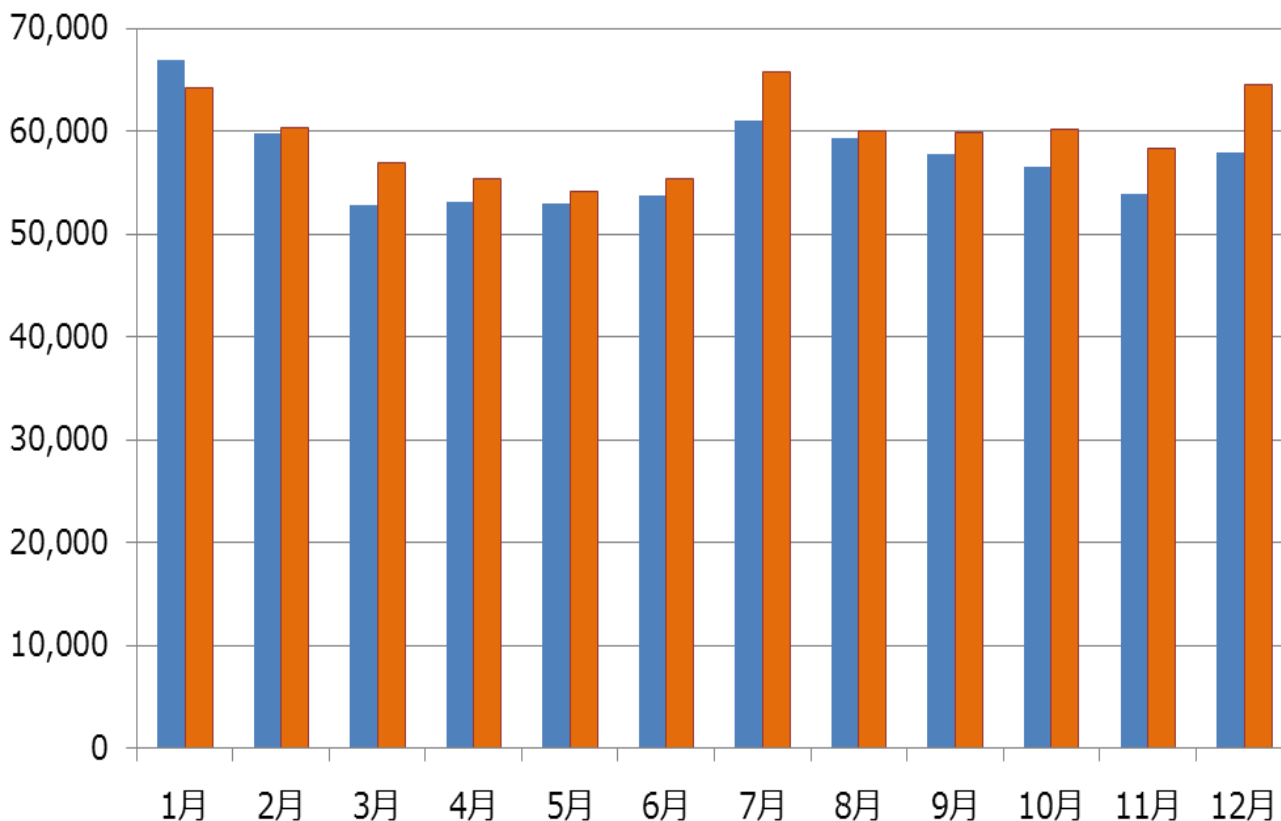
- 需要が最も多い月は12月。
- 1月は前年割れの実績となったが、2月以降は全ての月で前年実績を上回った。

月	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1月	1,989,581	64,180
2月	1,691,570	60,413
3月	1,763,295	56,880
4月	1,661,745	55,392
5月	1,678,971	54,160
6月	1,660,290	55,343
7月	2,040,943	65,837
8月	1,858,820	59,962
9月	1,796,978	59,899
10月	1,867,814	60,252
11月	1,751,717	58,391
12月	1,998,775	64,477
計	21,760,499	59,618

単位：人

\*青棒は前年実績人数

データ元：ANAC

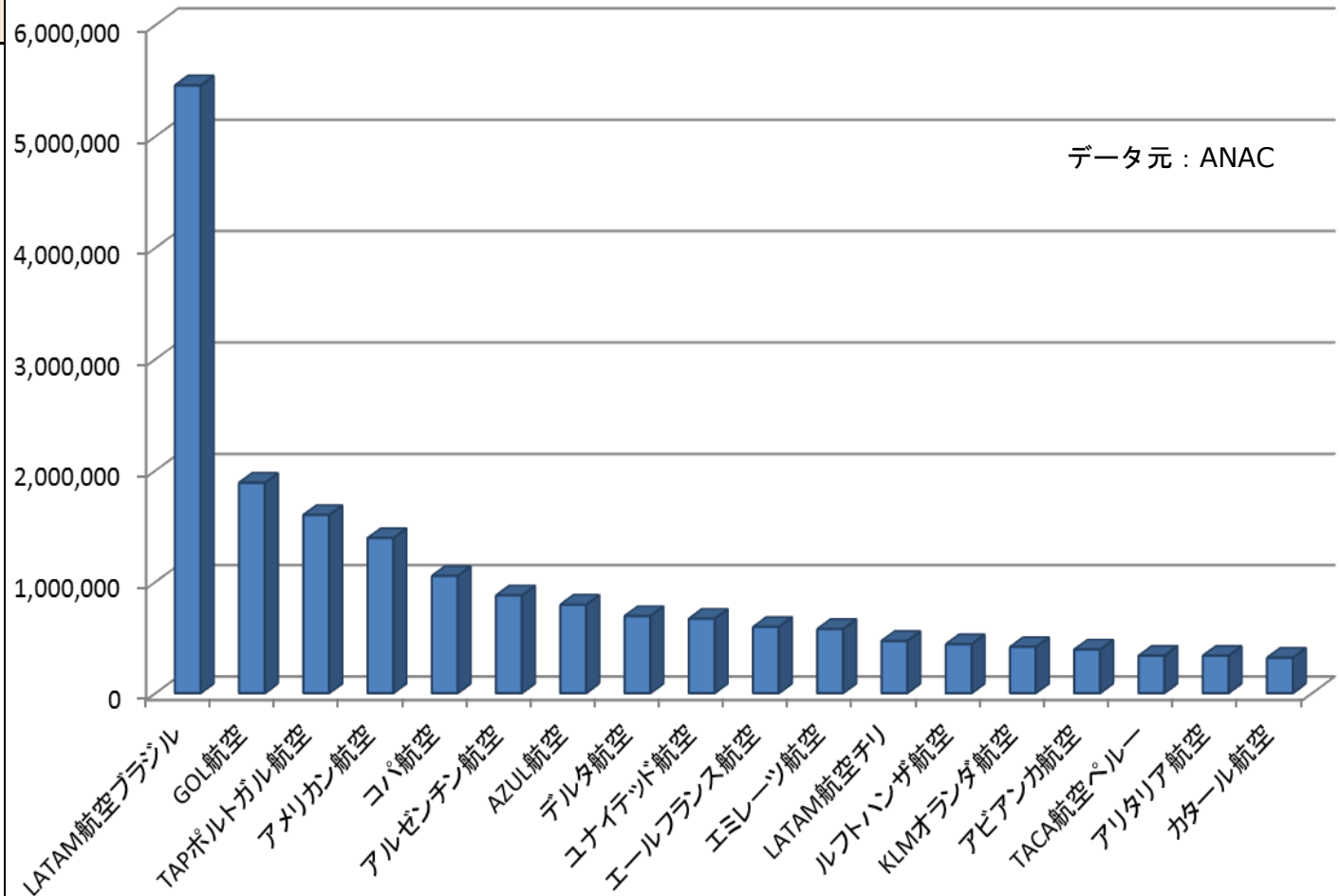




# 参考: ブラジル国際線の会社別輸送実績 (2017年版 30万人以上)

➤LATAM航空ブラジルが圧倒的に多い。GOL航空も年々実績を拡大

航空会社	有償旅客数 (人)
LATAM航空ブラジル	5,457,357
GOL航空	1,889,295
TAPポルトガル航空	1,599,461
アメリカン航空	1,392,439
コパ航空	1,052,262
アルゼンチン航空	878,168
AZUL航空	794,658
デルタ航空	692,329
ユナイテッド航空	668,257
エールフランス航空	594,805
エミレーツ航空	576,504
LATAM航空チリ	468,852
ルフトハンザ航空	439,602
KLMオランダ航空	414,909
アビアンカ航空	391,807
TACA航空ペルー	335,697
アリタリア航空	335,697
カタール航空	317,746

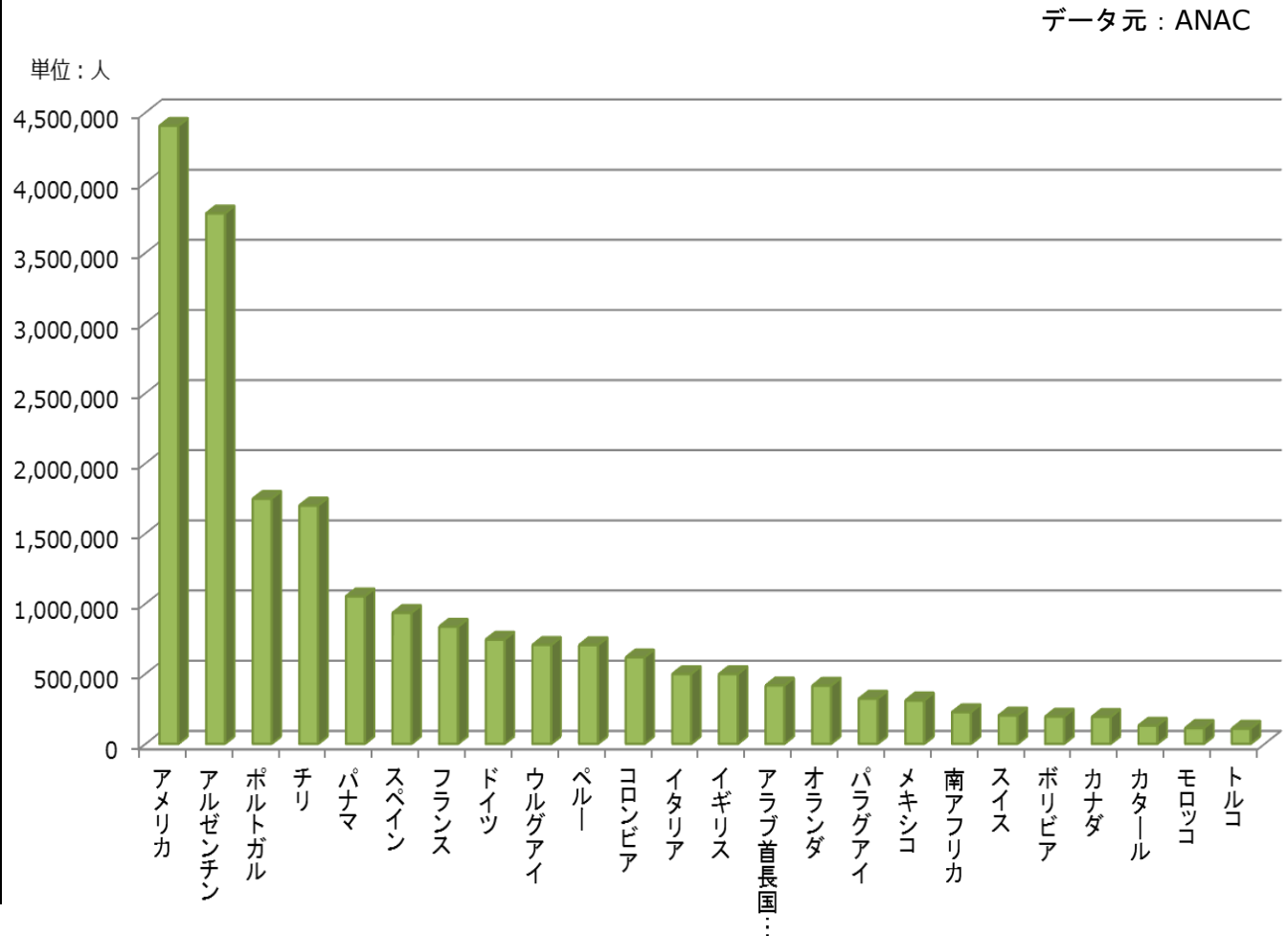




## 参考: 対ブラジル2国間の輸送実績 (2017年版 年間10万人以上)

- 米国との2国間の航空需要が圧倒的に多く、全体の20.2%を占めている。
- 移民政策等の歴史的背景から、欧州諸国との旅客流動は大きい。

順位	国名 (ブラジルとの2国間)	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)	シェア (%)
1	アメリカ	4,405,011	12,069	20.2
2	アルゼンチン	3,781,563	10,360	17.4
3	ポルトガル	1,746,910	4,786	8.0
4	チリ	1,699,200	4,655	7.8
5	パナマ	1,052,208	2,883	4.8
6	スペイン	934,246	2,560	4.3
7	フランス	835,431	2,289	3.8
8	ドイツ	743,853	2,038	3.4
9	ウルグアイ	705,488	1,933	3.2
10	ペルー	704,838	1,931	3.2
11	コロンビア	616,764	1,690	2.8
12	イタリア	498,244	1,365	2.3
13	イギリス	497,852	1,364	2.3
14	アラブ首長国連邦	416,338	1,141	1.9
15	オランダ	414,909	1,137	1.9
16	パラグアイ	322,350	883	1.5
17	メキシコ	310,089	850	1.4
18	南アフリカ	226,459	620	1.0
19	スイス	203,539	558	0.9
20	ボリビア	195,611	536	0.9
21	カナダ	193,096	529	0.9
22	カタール	130,543	358	0.6
23	モロッコ	113,682	311	0.5
24	トルコ	109,441	300	0.5



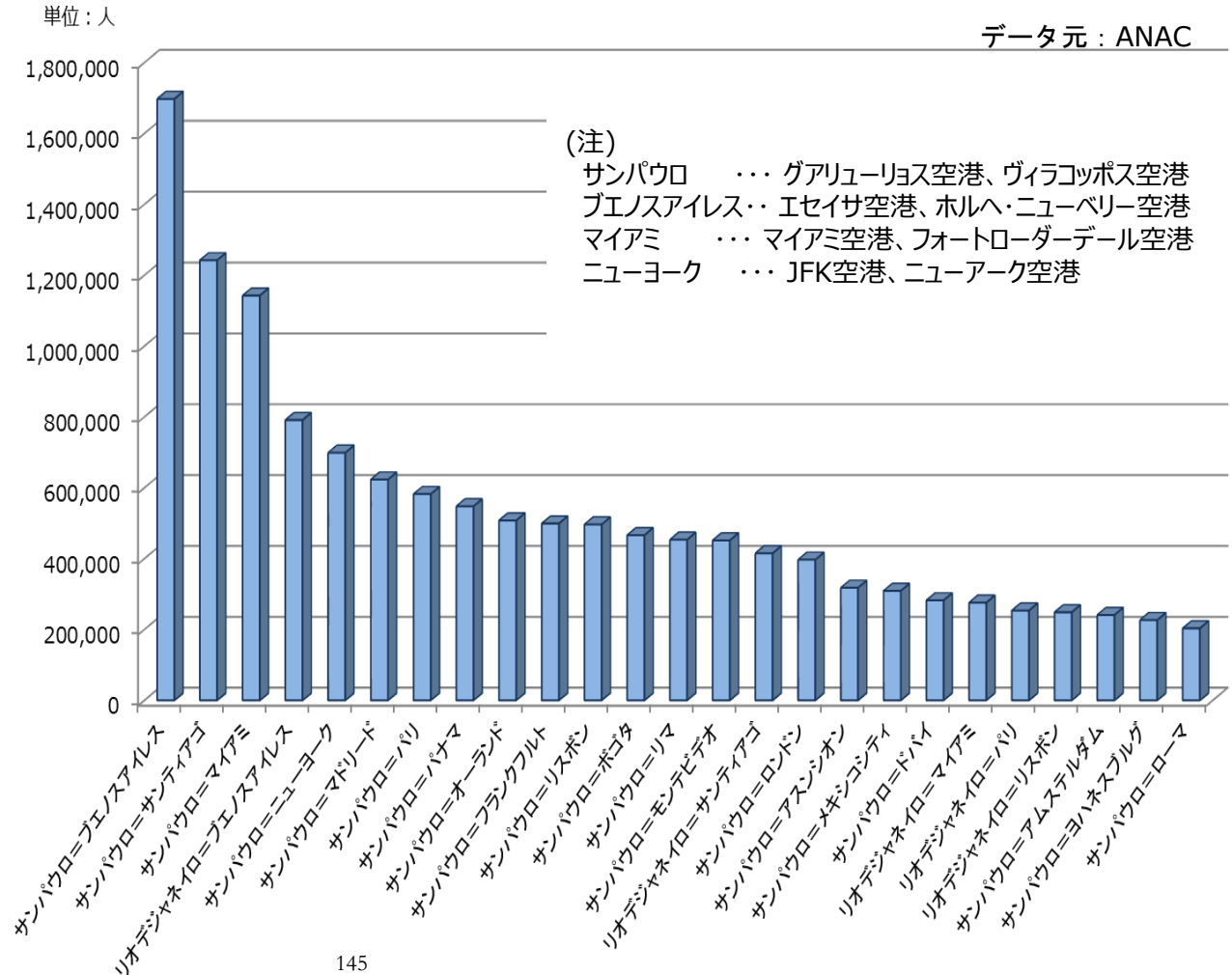




## 参考：国際都市間輸送実績（2017年版・年間20万人以上）

▶サンパウロ=ブエノスアイレス間は、1日当たり4,600人以上が利用しており、南米域内で最大の高需要路線である。

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ=ブエノスアイレス	1,697,332	4,650
2	サンパウロ=サンティアゴ	1,242,033	3,403
3	サンパウロ=マイアミ	1,142,302	3,130
4	リオデジャネイロ=ブエノスアイレス	791,077	2,167
5	サンパウロ=ニューヨーク	698,868	1,915
6	サンパウロ=マドリッド	623,135	1,707
7	サンパウロ=パリ	582,121	1,595
8	サンパウロ=パナマ	547,684	1,501
9	サンパウロ=オランダ	507,684	1,391
10	サンパウロ=フランクフルト	498,976	1,367
11	サンパウロ=リスボン	496,480	1,360
12	サンパウロ=ボゴタ	466,193	1,277
13	サンパウロ=リマ	453,407	1,242
14	サンパウロ=モンテビデオ	451,429	1,237
15	リオデジャネイロ=サンティアゴ	415,071	1,137
16	サンパウロ=ロンドン	396,841	1,087
17	サンパウロ=アスンシオン	317,663	870
18	サンパウロ=メキシコシティ	309,046	847
19	サンパウロ=ドバイ	282,016	773
20	リオデジャネイロ=マイアミ	275,653	755
21	リオデジャネイロ=パリ	253,310	694
22	リオデジャネイロ=リスボン	248,380	680
23	サンパウロ=アムステルダム	240,820	660
24	サンパウロ=ヨハネスブルグ	226,459	620
25	サンパウロ=ローマ	203,159	557



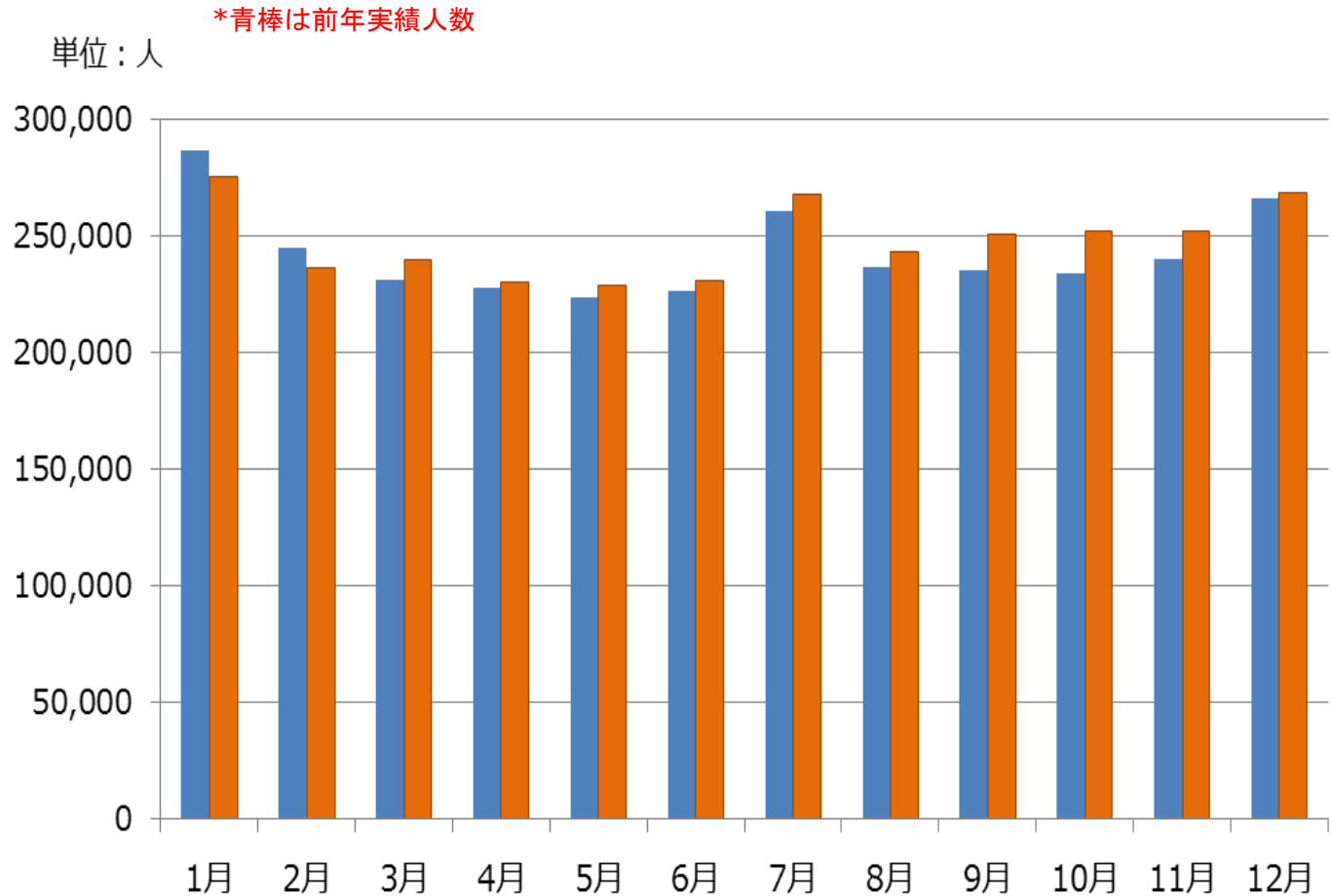


## 参考: ブラジル国内線の月別輸送実績 (2017年版・一日当たり)

- 需要が最も多い月は1月。
- 1-2月は前年割れの実績となったが、3月以降は全ての月で前年実績を上回った。

データ元 : ANAC

月	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1月	8,533,614	275,278
2月	6,617,542	236,341
3月	7,443,627	240,117
4月	6,901,154	230,038
5月	7,097,382	228,948
6月	6,922,299	230,743
7月	8,314,623	268,214
8月	7,550,242	243,556
9月	7,523,697	250,790
10月	7,828,448	252,531
11月	7,569,314	252,310
12月	8,332,475	268,790
計	90,634,417	248,313





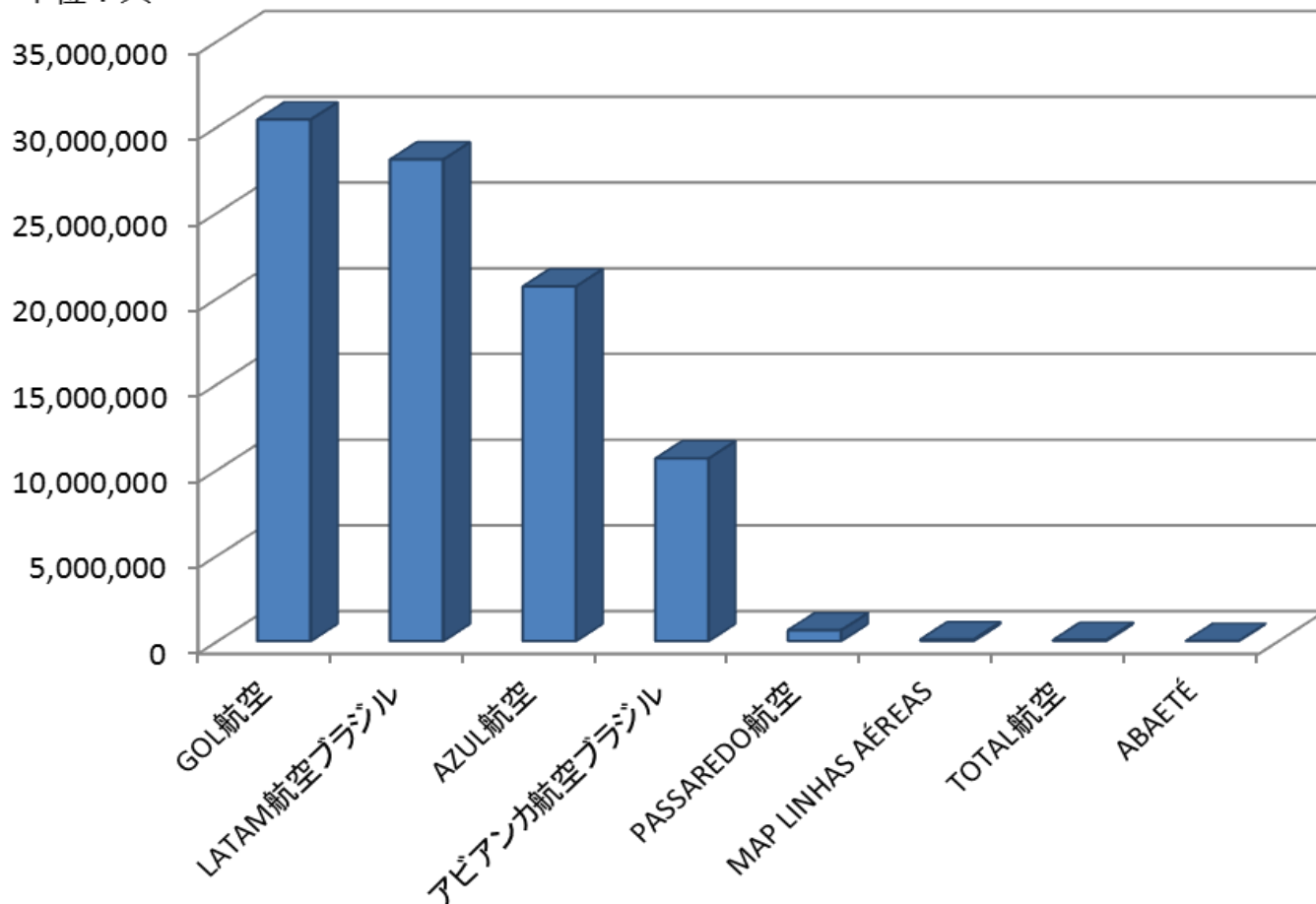
## 参考: ブラジル国内線の会社別輸送実績 (2017年版)

- GOL航空が最も多いが、LATAM航空ブラジルもほぼ拮抗している
- 上位4社以外は、主に地域航空会社と不定期航空会社。

航空会社	有償旅客数 (人)
GOL航空	30,418,577
LATAM航空ブラジル	28,090,818
AZUL航空	20,681,988
アビアンカ航空ブラジル	10,647,510
PASSAREDO航空	625,992
MAP LINHAS AÉREAS	102,796
TOTAL航空	66,332
ABAETÉ	404

単位：人

データ元：ANAC

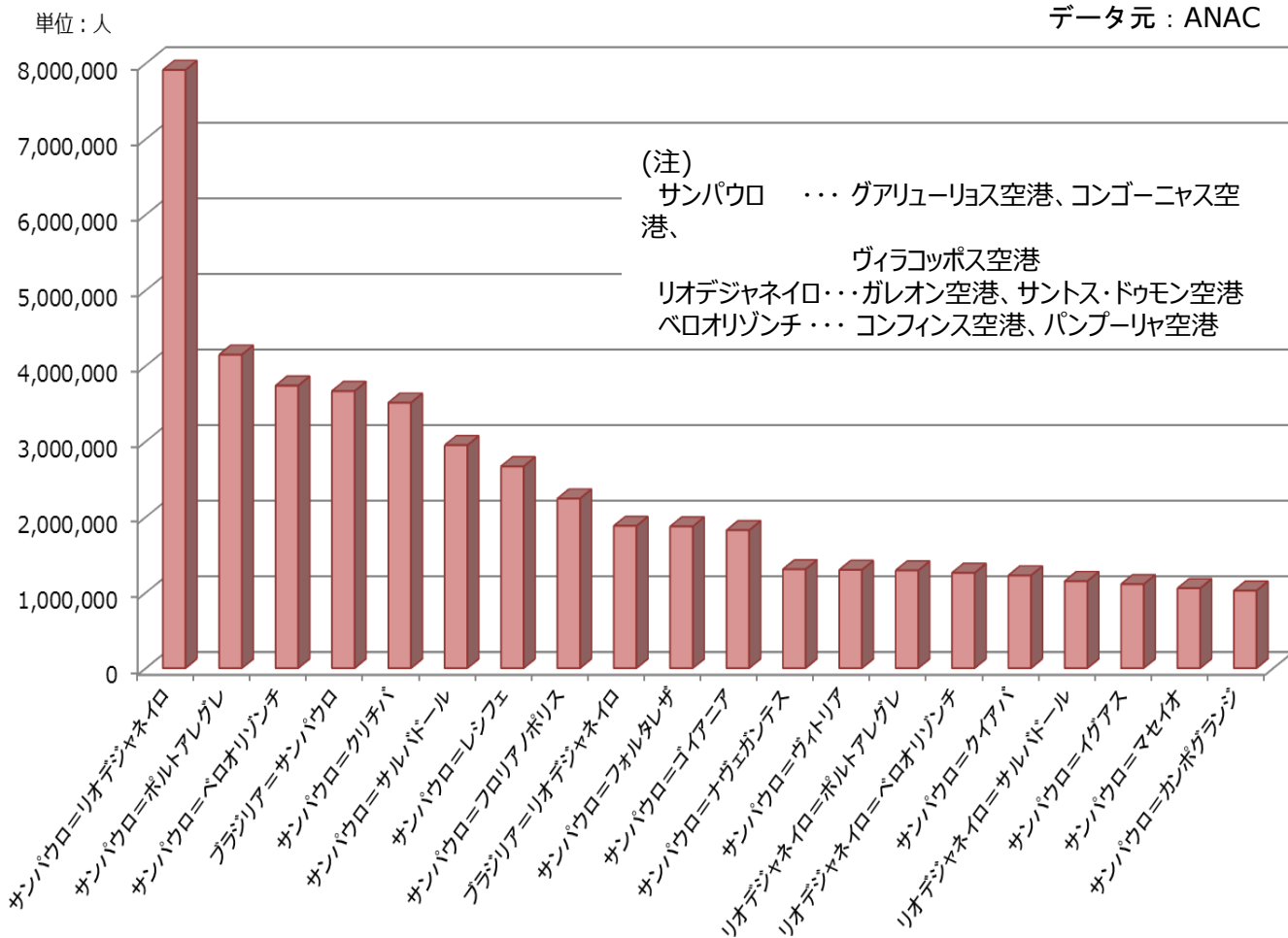




## 参考：国内都市間輸送実績（2017年版・年間100万人以上）

▶ SP=RJ間の旅客需要は旺盛。全国内線の8.7%を占め、1日当たりの旅客数は22千人弱  
 ▶ 上記2都市と、現首都ブラジリア、旧首都サルバドール、ベロオリゾンチ、フォルタレザを結ぶ路線の需要は比較的大きい。

順位	路線	有償旅客数 (人)	一日当たり (人)
1	サンパウロ=リオデジャネイロ	7,913,035	21,680
2	サンパウロ=ポルトアレグレ	4,145,976	11,359
3	サンパウロ=ベロオリゾンチ	3,736,700	10,238
4	ブラジリア=サンパウロ	3,664,912	10,041
5	サンパウロ=クリチバ	3,510,510	9,618
6	サンパウロ=サルバドール	2,948,265	8,077
7	サンパウロ=レシフェ	2,668,519	7,311
8	サンパウロ=フロリアノポリス	2,242,897	6,145
9	ブラジリア=リオデジャネイロ	1,880,526	5,152
10	サンパウロ=フォルタレザ	1,873,482	5,133
11	サンパウロ=ゴイアニア	1,822,927	4,994
12	サンパウロ=ナヴェガンテス	1,306,405	3,579
13	サンパウロ=ヴァイトリア	1,298,371	3,557
14	リオデジャネイロ=ポルトアレグレ	1,290,893	3,537
15	リオデジャネイロ=ベロオリゾンチ	1,259,717	3,451
16	サンパウロ=クイアバ	1,225,770	3,358
17	リオデジャネイロ=サルバドール	1,149,827	3,150
18	サンパウロ=イグアス	1,109,986	3,041
19	サンパウロ=マセイオ	1,055,178	2,891
20	サンパウロ=カンポグランジ	1,023,965	2,805





## 旅行 ホテル

# 2017年回顧

	2016年		2017年		前年比	
	売上高 (千)	発券枚数	売上高 (千)	発券枚数	売上高	発券枚数
国内線航空券	R\$ 4,052,426	7,065,583	R\$ 4,454,930	7,394,976	+ 9.9%	+ 4.7%
国際線航空券	R\$ 3,068,082	860,032	R\$ 3,742,105	1,082,002	+ 22.0%	+ 25.8%
ホテル	R\$ 1,955,380		R\$ 1,852,262		▲ 5.3%	

出所: ABRACORP

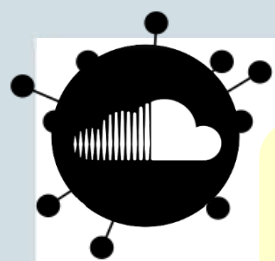
# 2018年展望

長い景気低迷も底を打った兆しが見え、旅行業界は2018年は2017年よりもさらに改善するとを期待したい

- 2018年は平昌で冬季オリンピック・パラリンピック、ロシアでワールドカップと大きな国際イベントがあるが、在伯日系旅行会社にとってはこれらイベントの恩恵を受けることはまったく期待できない。
- 2018年は日系移民110周年。110年記念イベントに参加するため日本政府及び県庁から多数の参加者の来伯が期待される
- 2018年は日本への出稼ぎが2017年をさらに上回り、増加することが見込まれる。
- 日系四世の受け入れについての意見公募が去る2月21日を以て締め切られ、年内に日系四世を対象にした査証発給の新たな基準が定められることが期待される。
- ブラジルの景気が回復基調にあっても日系進出企業の投資拡大はすぐには期待できない中、今年も狭い日系マーケットの中で十数社の旅行代理店が、あまり健全とは言えない条件で顧客争奪戦を繰り広げることで、経営状態はさらに悪化の道をたどることが懸念される。
- 更なる治安悪化、黄熱病の流行などにより、日本から伯国への観光客は引き続き激減することが懸念され



- **2018年1月12日よりブラジル政府は日本国籍者に対し電子査証 (e-VISA) の発給を開始した。**
- **2017年11月20日に新移民法の施行令第9199号が発布され、新移民法の運用がスタートした。**



## 2017年回顧

- 全体契約者数は、長引く景気低迷の影響に加え、キャリア間の接続料金引下げに伴う複数SIM保有者の減少より、前年度に続き2017年下期で約700万減少。人口に占める普及率は113%。
- **4G契約数に関しては、2017年下期で約4,219万増加。ブラジル市場の43,3%を占める。**17年下期について4Gの契約数が3Gの契約数を超えた。(表A)
- プリペイド加入者が62.8%に減少。

(表A) 携帯電話・モバイル契約者数

項目	2017年下期 [単位:万]	前年比
携帯電話契約数(全体)	23,648	▲3.1%
<b>4G (LTE)</b>	<b>10,230</b>	<b>+70%</b>
3G	8,368	▲42.3%
2G	3,240	▲47.0%
データカード等	1,810	+6%

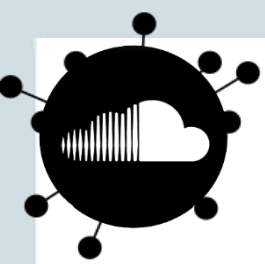
(表B) M2M用SIM契約数

事業者	2015	2016	2017 4Q
Vivo	4,242	5,013	6,321
Claro	4,371	4,476	5,080
TIM	1,261	1,522	1,696
その他	1,458	1,724	2,123
合計	11,333	12,735	15,219

【出典】 Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

## 2018年展望

- IoT(Internet of Things)に関してはVivoを筆頭にM2M用SIMの契約数が順調に増加。(表B)
- LPWA(Low Power Wide Area) の認可が前年度に予定されていたが、2018年上期に遅れる予定。狭帯域(小データ容量)・低電力化に対応したNB-IoT (Narrow Band IoT) も進み、導入コストが低減されるため、様々な分野でのIoTサービスの普及が見込まれる。
- キャリアビリングの普及が進み、モバイルアプリ課金やモバイル決済サービスの増加が期待される。



## 2017年回顧

- **インターネット普及率： 65.9%（1億3911万ユーザ）**

※合計ユーザ数としては南米1位だが、人口辺りの普及率は周辺国と比べて高くない状況。（表C）

- **ブロードバンドのシェア： NET31.08%、Vivo26.63%、OI22.17%**（2017年11月）

※ブロードバンドシェアは上位3社（Claro, Vivo, Oi）ともに減少しており、その他事業者が台頭してきている。（表D）

- **固定ブロードバンドアクセス数： 2867万アクセス**（2017年12月） ※前年から7.2%の上昇

- **平均通信速度： 6.8Mbps**（2017年3月） ※前年の1.5倍であり、南米諸国では3位。（表E）

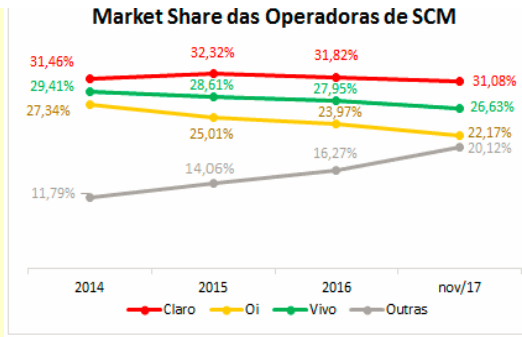
## 通信IT インターネット

（表C）南米各国のインターネット普及率

順位	国名	総人口辺り普及率	合計ユーザ数
1	エクアドル	81.00%	13,471,736
2	アルゼンチン	78.60%	34,785,206
3	チリ	77.00%	14,108,392
4	ウルグアイ	69.40%	2,400,000
5	<b>ブラジル</b>	<b>65.90%</b>	<b>139,111,185</b>
6	ベネズエラ	60.00%	19,155,423
7	コロンビア	58.10%	28,528,124
参考	日本	94.00%	126,045,211

【出典】 IWS HP <http://www.internetworldstats.com/>

（表D）ブロードバンドのマーケットシェア



【出典】 Teleco HP <http://www.teleco.com.br>

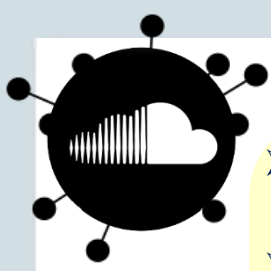
（表E）南米各国の平均通信速度

順位	国名	平均速度(Mbps)
1	ウルグアイ	9.5
2	チリ	9.2
3	<b>ブラジル</b>	<b>6.8</b>
4	アルゼンチン	6.3
5	ペルー	6.2
6	エクアドル	6.2
参考	アメリカ	18.7
参考	日本	20.2

【出典】 Akamai HP <https://www.akamai.com/>

## 2018年展望

- 個人のインターネット利用多角化に加え、ビジネスにおけるインターネット経由でのシステム利用が増加する等引き続き利用者の増加が見込まれる。
- エリア拡大や、ハイスピード回線の提供が継続的に進むことが想定される。
- 既存利用回線のアップグレードを望むユーザが増えていくことが見込まれる。しかし、大容量データ通信への需要増により、帯域の圧迫による回線安定性のさらなる低下が懸念される。



## 2017年回顧

- サンパウロ・ニューヨーク間をつなぐ海底ケーブルSeabras1が9月に運用準備完了。無線通信用人工衛星SDGCの打ち上げ成功など、インフラ面の拡充に繋がる取り組みがあった
- SaaS（ソフトウェアのクラウドサービス）の発展等、**企業の業務システムのクラウド化、IT業務のアウトソースが更に押し進んだ。**
- タクシー配車アプリの99が中国のDidi Chuxing（ディディチューシン）に買収される。再建中の通信業者Oiの買収にChina Telecom やChina Mobileが意欲を示すなど中国資本の拡大が見受けられた。
- **世界的なランサムウェアの被害を契機に、企業のサイバーセキュリティへの投資が増えた**

(表F) Web攻撃の攻撃先

Target Country	Count
USA	323,185,079
Brazil	28,600,515
Australia	19,115,151
United Kingdom	14,637,260
Germany	10,656,679
Japan	10,098,902

(表G) Web攻撃の攻撃元

Country	Attacks Sourced	Percentage
U.S.	180,627,565	38.70%
Russia	32,164,336	6.90%
Netherlands	31,359,207	6.70%
Ukraine	29,678,769	6.40%
Brazil	28,626,639	6.10%
China	22,046,824	4.70%

【出典】 Akamai HP <https://www.akamai.com/>

※ブラジルはWeb攻撃の攻撃先として世界2位、攻撃元として世界5位（2017年3Q報告）

## 2018年展望

- ブラジルとアルゼンチンを直結する新たな海底ケーブルの竣工など、国際通信インフラの投資の拡大
- クラウドやアウトソーシング（ITO）等、ITプロセスを外部移管する動きは継続して増加
- クラウドの活用増加に伴い、セキュリティやマネジメントサービスへの更なる需要増が見込まれる。
- ITサービス事業者向け高機能データセンタやサーバ、高速インターネットの需要増見込



# いま求められる新たな視点は



## B2B2Xモデル

経済だけでなく文化・スポーツ・芸術等  
様々な分野でのブラジルと日本の交流  
の活発化と相互理解の深化が必要

費用削減や業務効率化の守勢のIT投資だけ  
でなく、新サービスや新ビジネスモデルに  
向けた攻勢のIT投資も重要

ブラジルの悪い点をで  
きない言い訳にせず、  
良い点を見つけて事業  
を創発する努力も必要

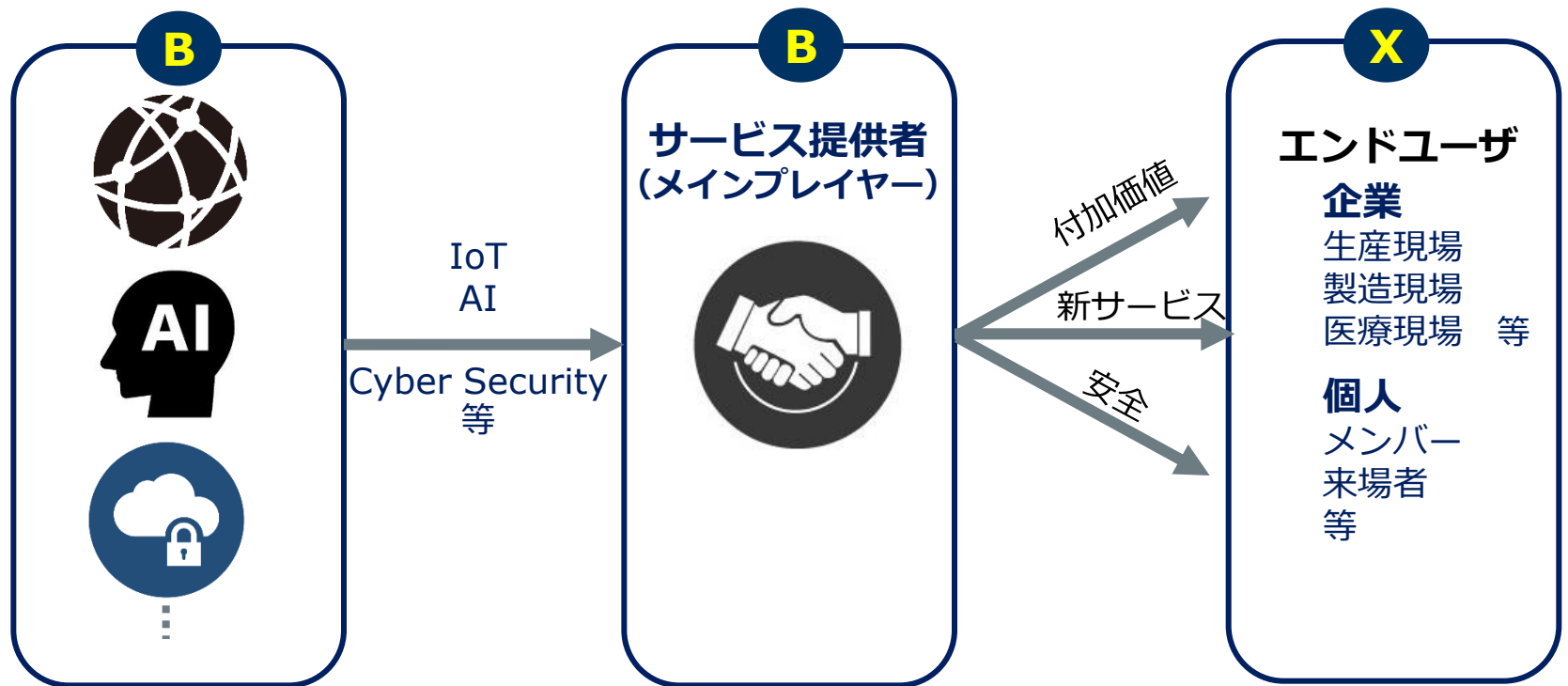
## 現状の打開と新たな価値の創造 市場への需要創造型アプローチ

日系物流関係会社連携で、ブラジル日  
系企業様の工場向け、又は工場から部  
品・製品の一貫輸送等、陸上海上含め  
たパッケージで輸送効率をより高め且つ  
コスト競争力が出るサービスの提供

南米域内（特にアルゼンチン、ウルグ  
アイ）輸送への着目。両国での通関業  
務への取り組みを増やす

# B2B2Xモデル

社会での課題解決やライフスタイルの変革に向けてIoTやAIを活用した取り組み



製造・農業・交通をはじめ幅広い産業分野において、さまざまな企業とのコラボレーションを通じてエンドユーザ（X）に対して新しい付加価値を創生し提供する



ご清聴ありがとうございました

Obbrigado!

**建設不動産 部会**

**奥地 正敏 部会長**

**Departamento de Construção e Imobiliária**

**Presidente: Masatoshi Okuchi**

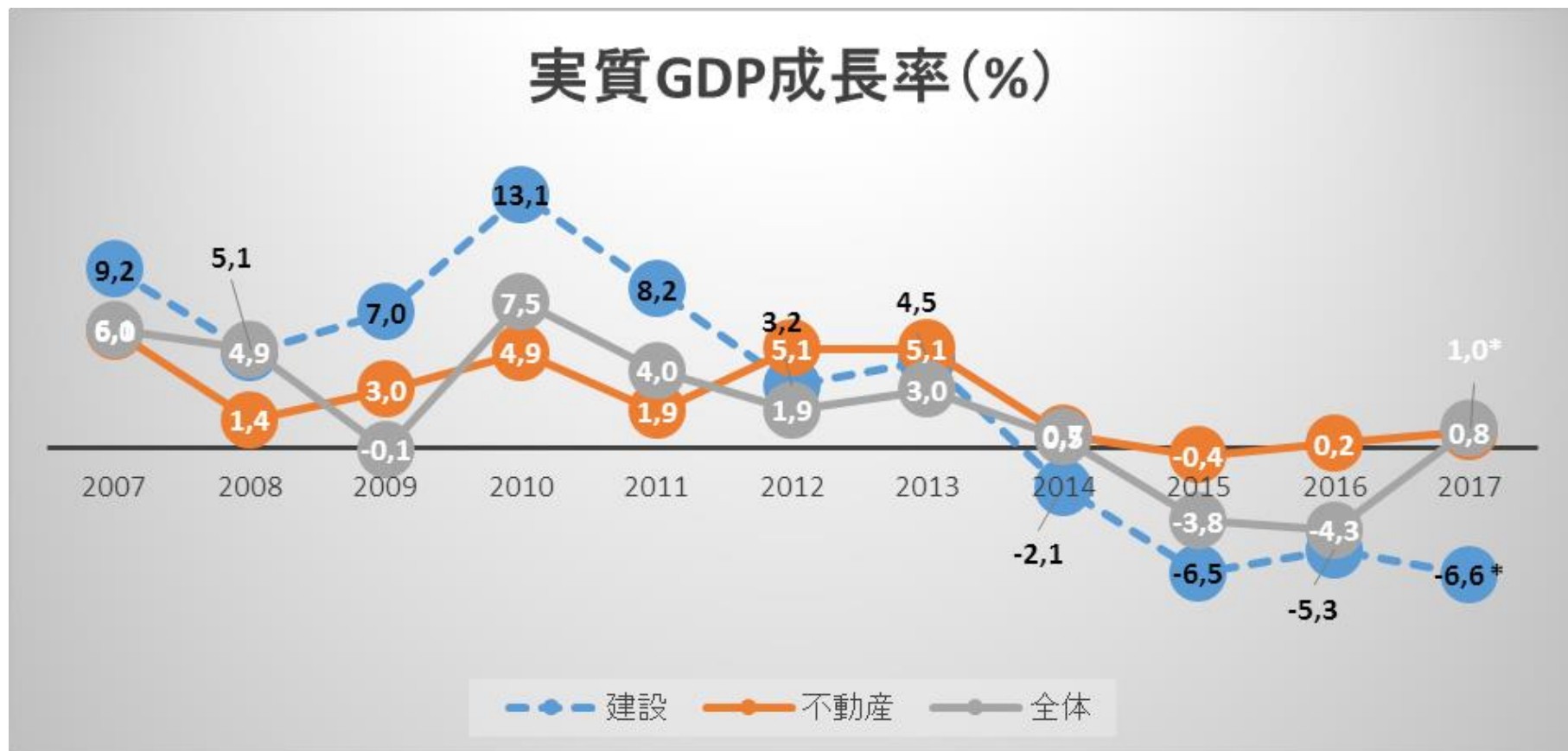
# 建設不動産部会

2017年の回顧と2018年の展望

～いま求められる新たな視点は～

1. 市場の概況
2. 部会内の動向
3. 各社の取り組み

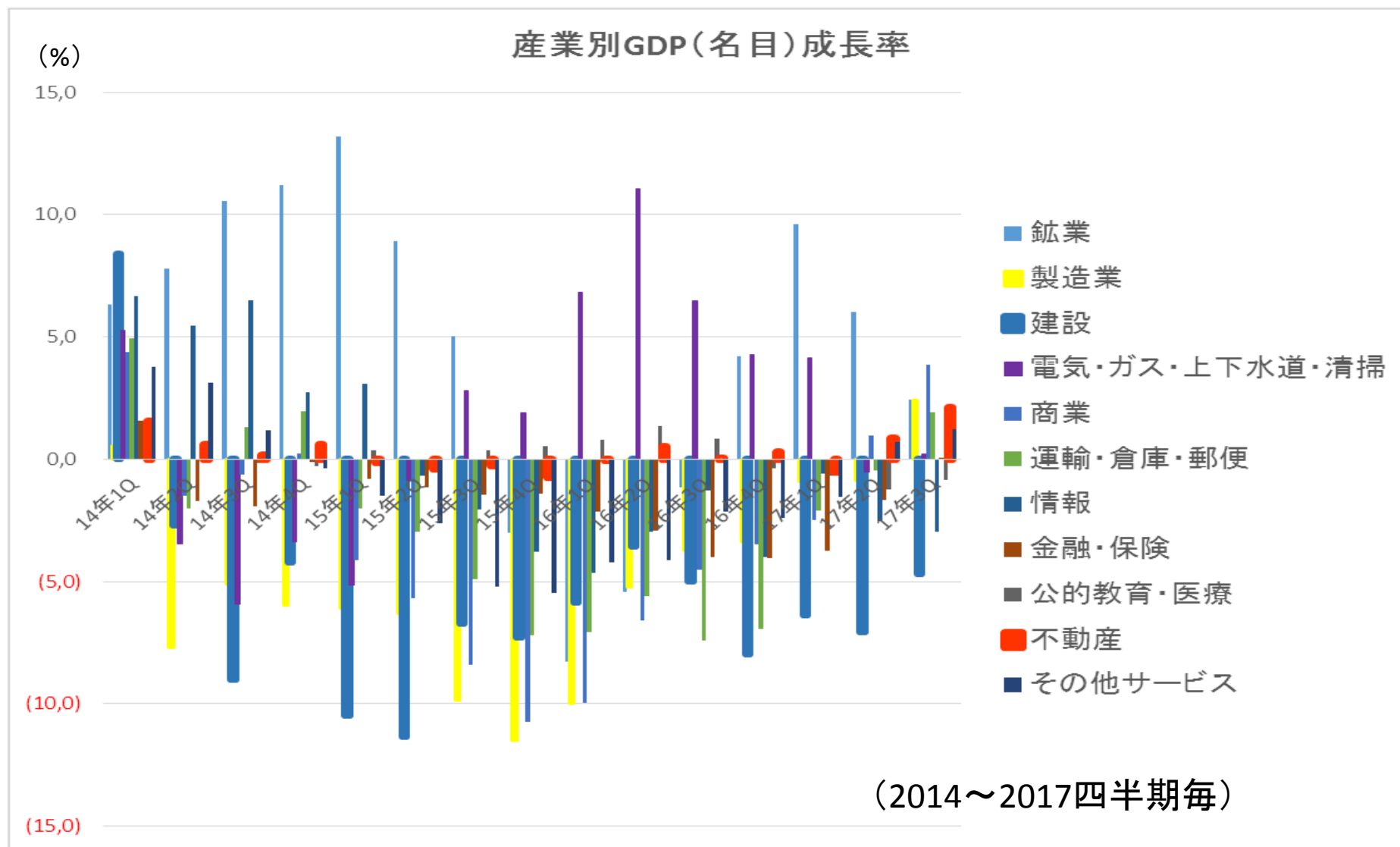
# 1. 市場の概況（建設・不動産）



出典: IBGE (\*予測)



# 1. 市場の概況（建設・不動産）



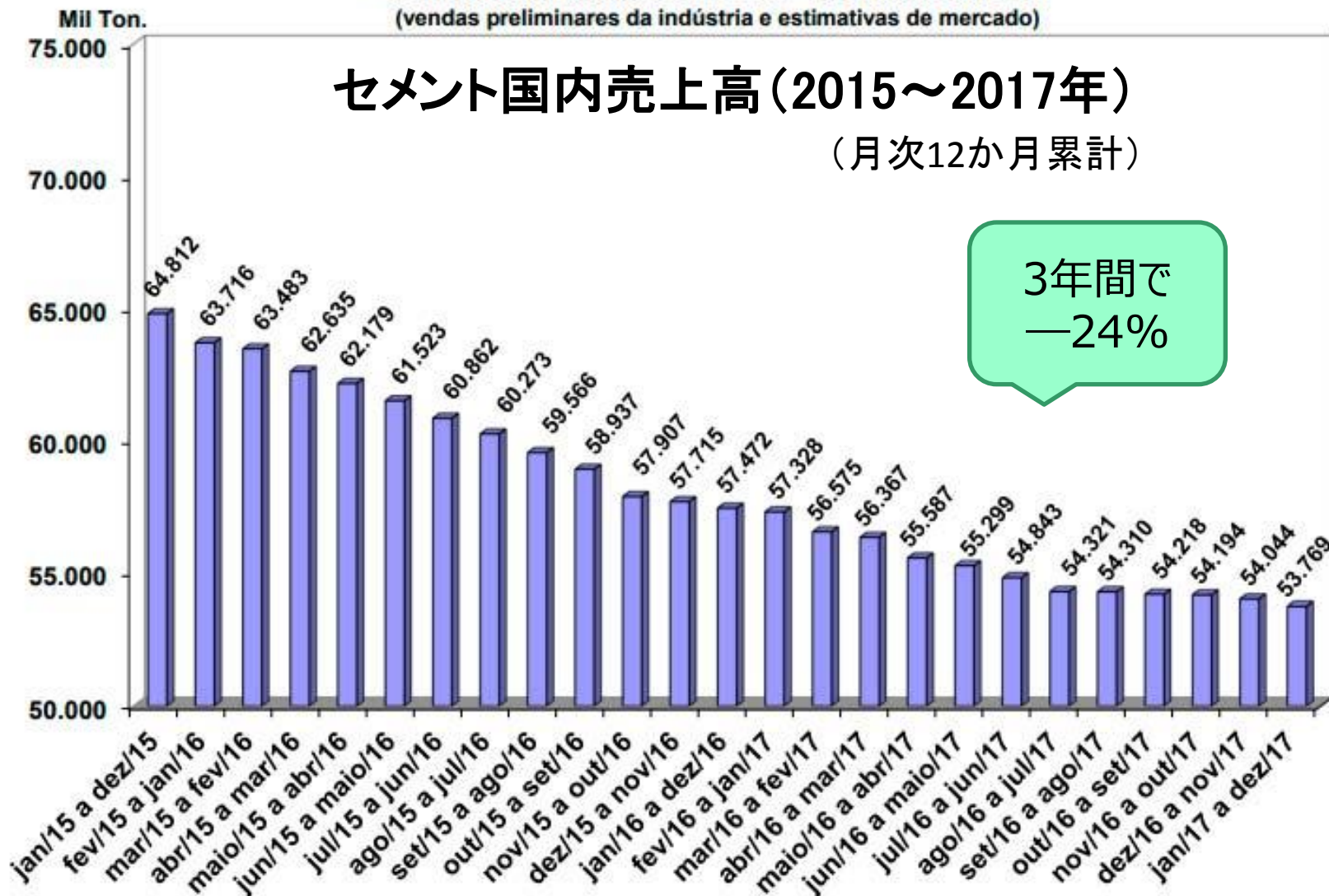
# 1. 市場の概況（建設）

Venda Acumulada 12 meses - Mercado Interno  
(vendas preliminares da indústria e estimativas de mercado)

## セメント国内売上高（2015～2017年）

（月次12か月累計）

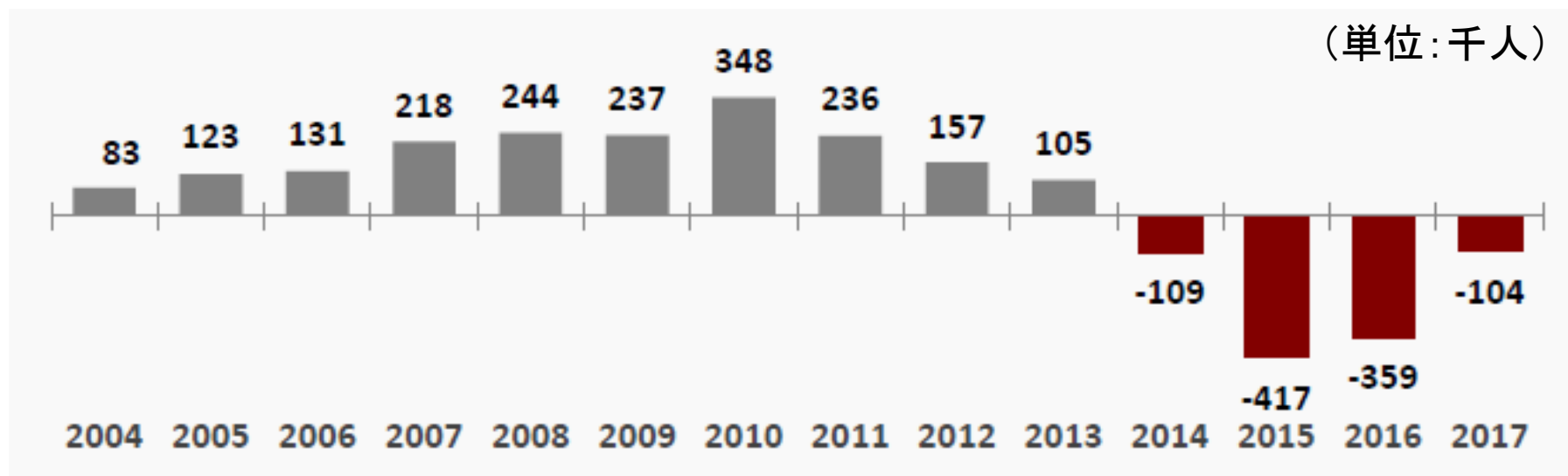
3年間で  
—24%



（出典：SNIC=全国セメント産業組合）

# 1. 市場の概況（建設）

## 建設就業者増減（前年比）



(出典:IBGE)

## 1. 市場の概況（建設）

### 回復を遅らせる要因

経済リセッション

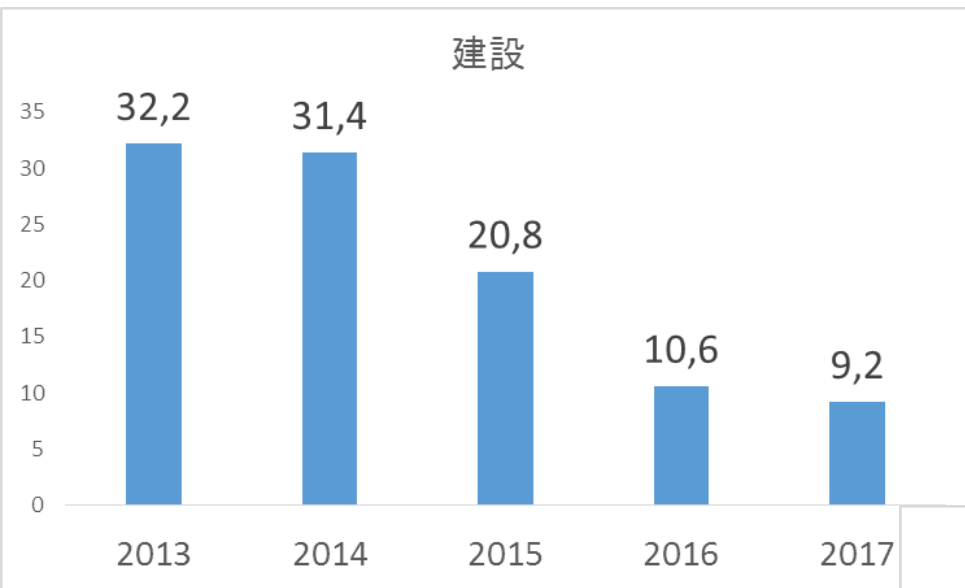
公共工事の減少

ラヴァ・ジャットの影響

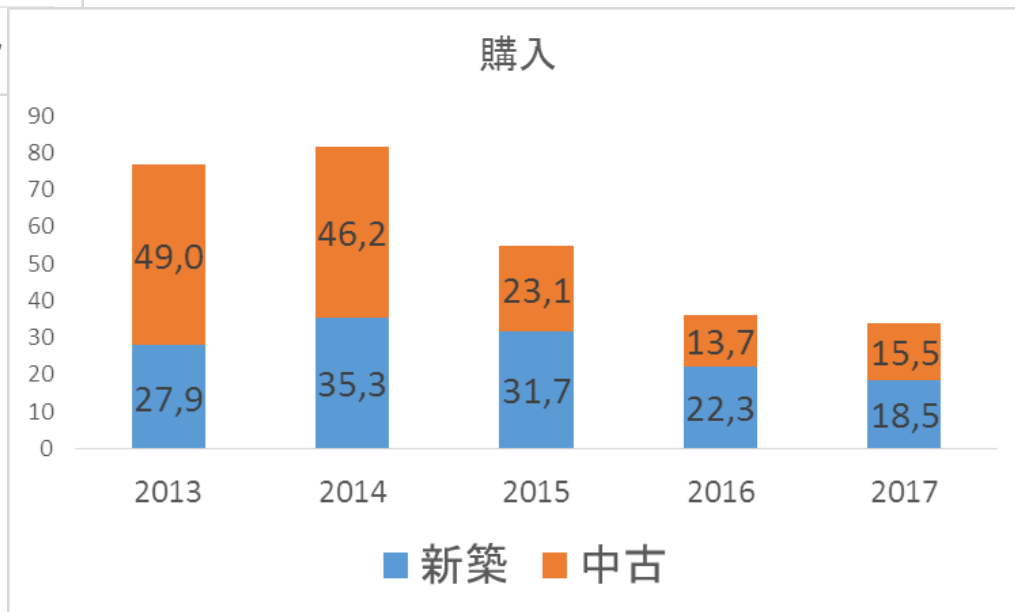
不動産市場の低迷

# 1. 市場の概況（不動産）

## SBPE融資



(単位: R\$10億)



(出典: SECOVI-SP)

# 1. 市場の概況（不動産）

## Pesquisa do mercado imobiliário - Cidade de São Paulo

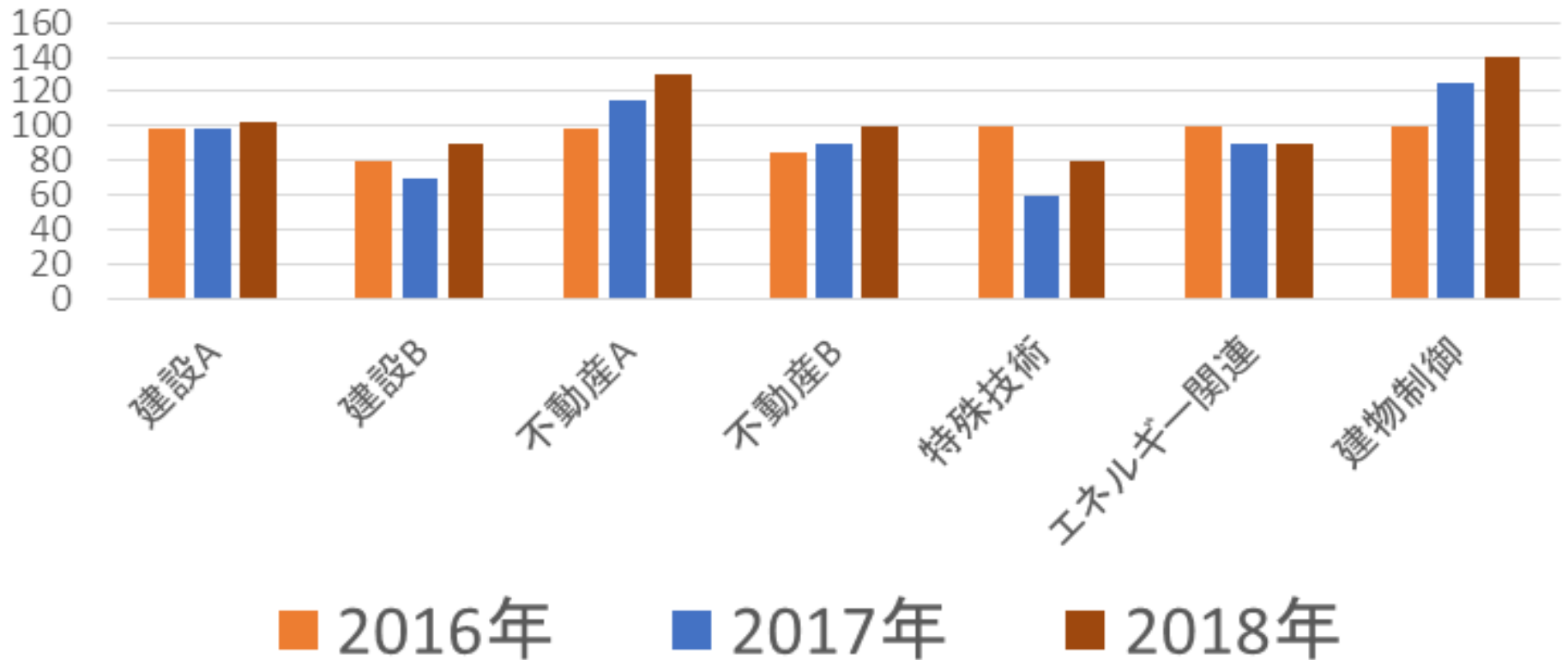
### Acumulado no ano

Cidade de São Paulo	2015	2016	Variação % (2015-2016)	2017	Variação % (2016 -2017)
Unidades Lançadas <b>リリース</b>	22.960	19.359	-15,7%	28.657	48,0%
Unidades Vendidas <b>販売</b>	20.148	16.170	-19,7%	23.629	46,1%
VGV em milhões – Atualizado pelo INCC –DI dezembro 2017	R\$ 10.909,1	R\$ 8.944,0	-18,0%	R\$ 11.438,4	27,9%

（出典：SECOVI-SP）

## 2. 部会内の動向

### 各社の業績



## 2. 部会内の動向

2017年

2018年

建設

設備投資抑制で工事の量減 + 小規模化  
厳しい受注競争による利益率の低さ



価格競争力向上  
営業拡大に注力

不動産

工場用地購入、レンタルともに需要ほぼなし  
ショッピングセンター開発業は後半復活  
賃貸マンション受任件数は低調



ローコストオペ化  
営業拡大に注力

特殊  
技術

公共工事中止、中断により売上大幅減  
検討案件は増加



公共工事の  
再開に望み

ソリュー  
ション

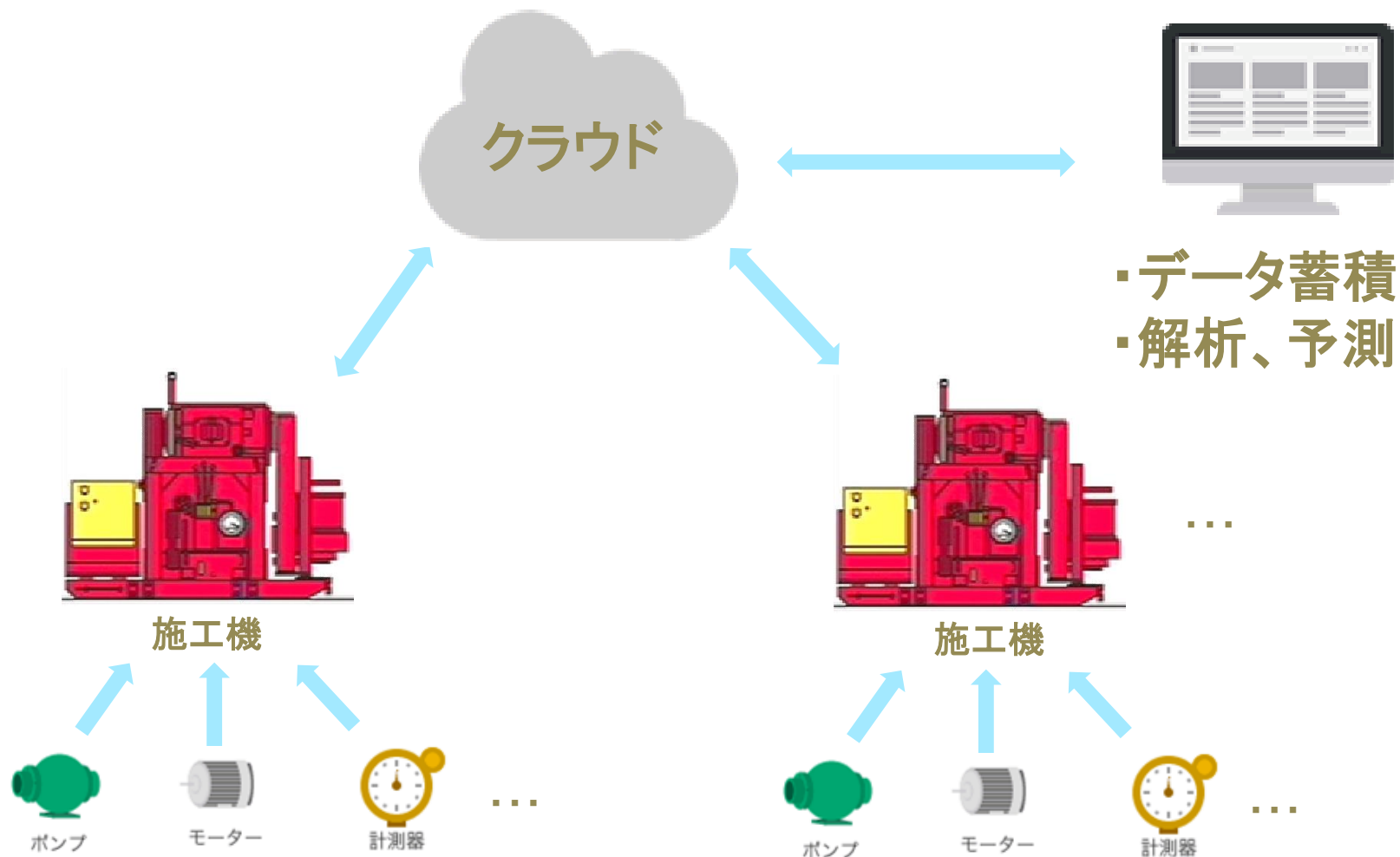
受注傾向は既存設備の改修・契約更新  
工場オートメーション好調



堅実な受注  
目指す



## 『施工管理システム』 施工状況の「見える化」

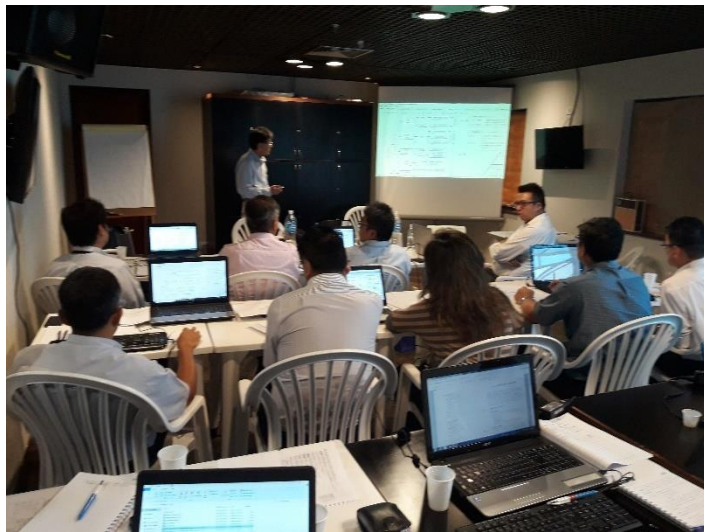


# 日本の技術導入例（HOSS建設）

- 清水建設の安全衛生講師による安全技術の導入。
- 安全衛生の管理者としての知識と行動力を習得させ、法令順守（ルール厳守）、災害防止の推進者として育成。
- 安全を通して、品質、コスト、工期、環境についても競争力を向上させる技術の習得。

エンジニアへの安全衛生講習(1週間) 現場での安全技術指導

日本の安全保護具



(参考)建設現場の熱中症対策として、通気性を向上させたヘルメットと作業服

# 建設会社としての発電事業(ブラジル戸田建設)

ブラジルの可能性: 風力発電 / 太陽光発電 / バイオマス発電 / 小水力発電



## 【風力発電コスト】

	資本費 (\$m/MW)	設備 利用率	運転維持費 (\$/kW/年)	発電コスト (\$/MWh)
ブラジル	<b>1,64</b>	<b>48%</b>	30	<b>52</b>
日本	2,57	22%	48	155
ドイツ	1,90	24%	25	80
スペイン	1,52	25%	24	88
デンマーク	1,90	26%	20	86
アメリカ	1,91	37%	26	67
オーストラリア	1,85	38%	25	71
インド	1,10	23%	16	80

## 浮体式洋上風力発電(戸田建設)



**繊維 部会**

**豊田 明生 部会長**

**Departamento de Fiação e Tecelagem**

**Presidente: Akio Toyoda**

2018年3月1日

# 2017年の回顧と2018年の展望

いま求められる新たな視点は



**繊維部会**  
ユニチカブラジル  
豊田明生

# 原料(綿花)

2018/3 繊維部会

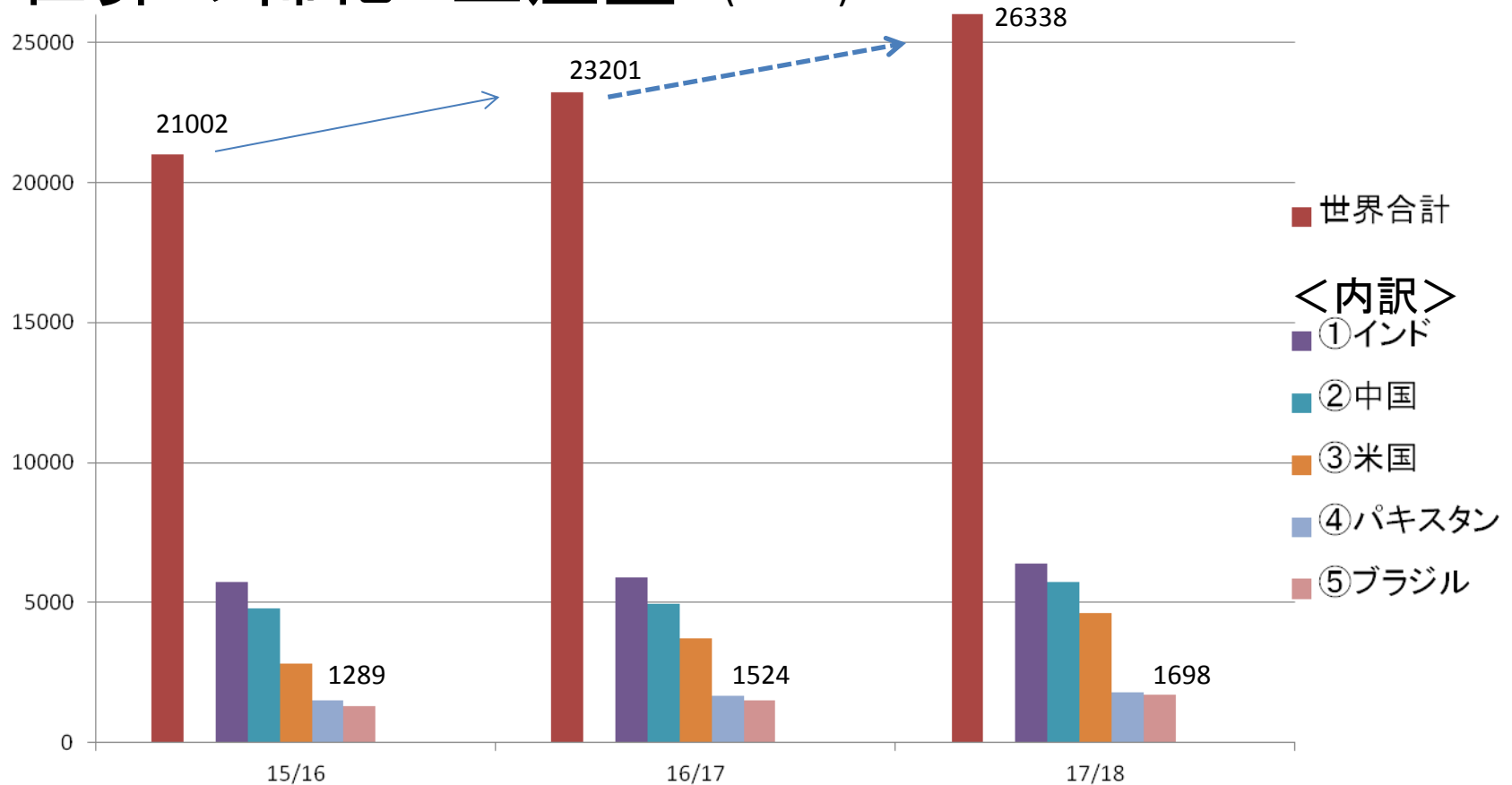


ブラジル マットグロソ州

# 2018/3 繊維部会



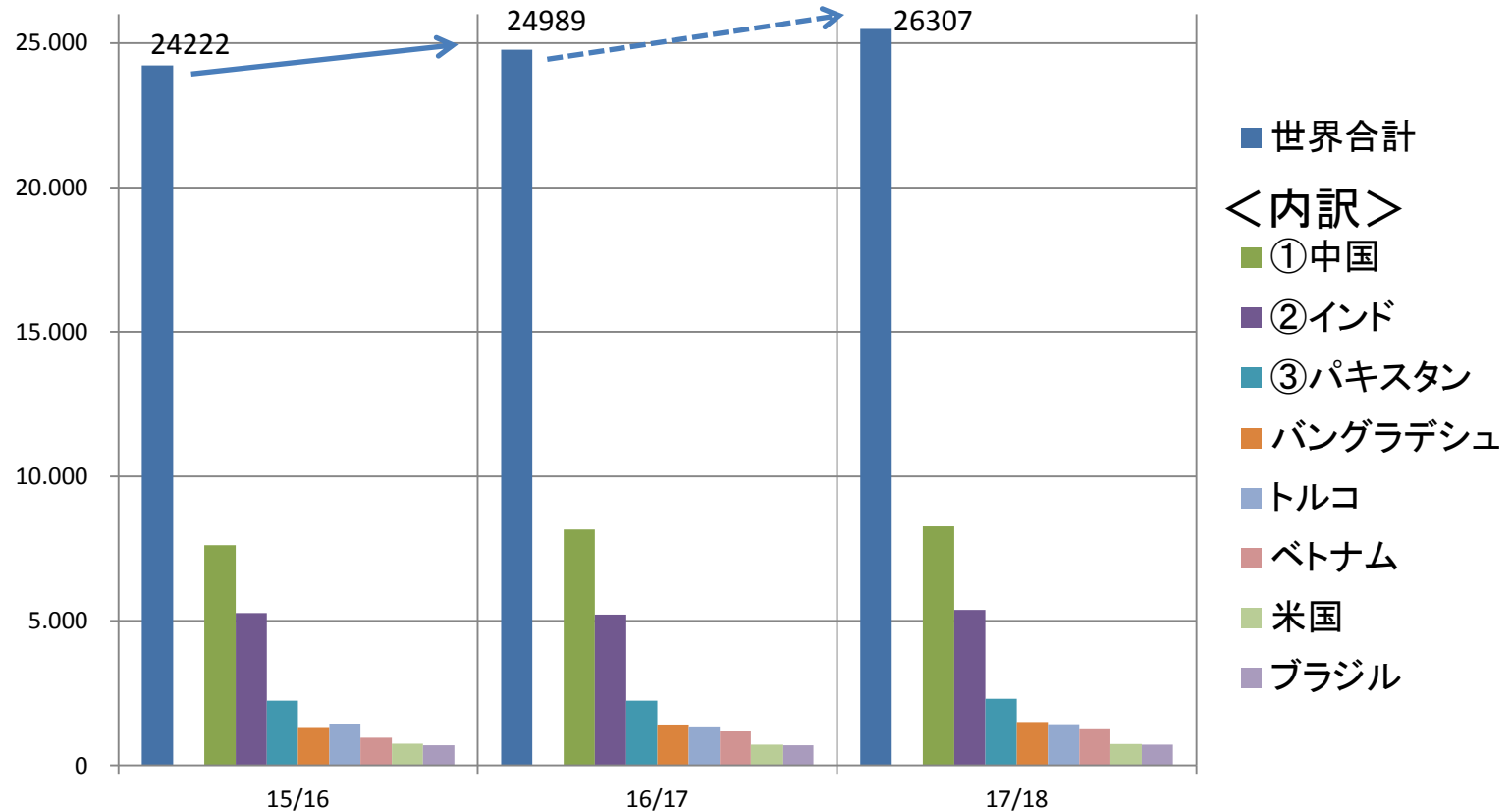
# 世界の綿花 生産量 (1000t)



綿花生産①インド②中国③米国④パキスタン⑤ブラジル  
順位は不動。全て安定的に増加中。



## 世界の綿花消費量≒糸生産量 (1000t)

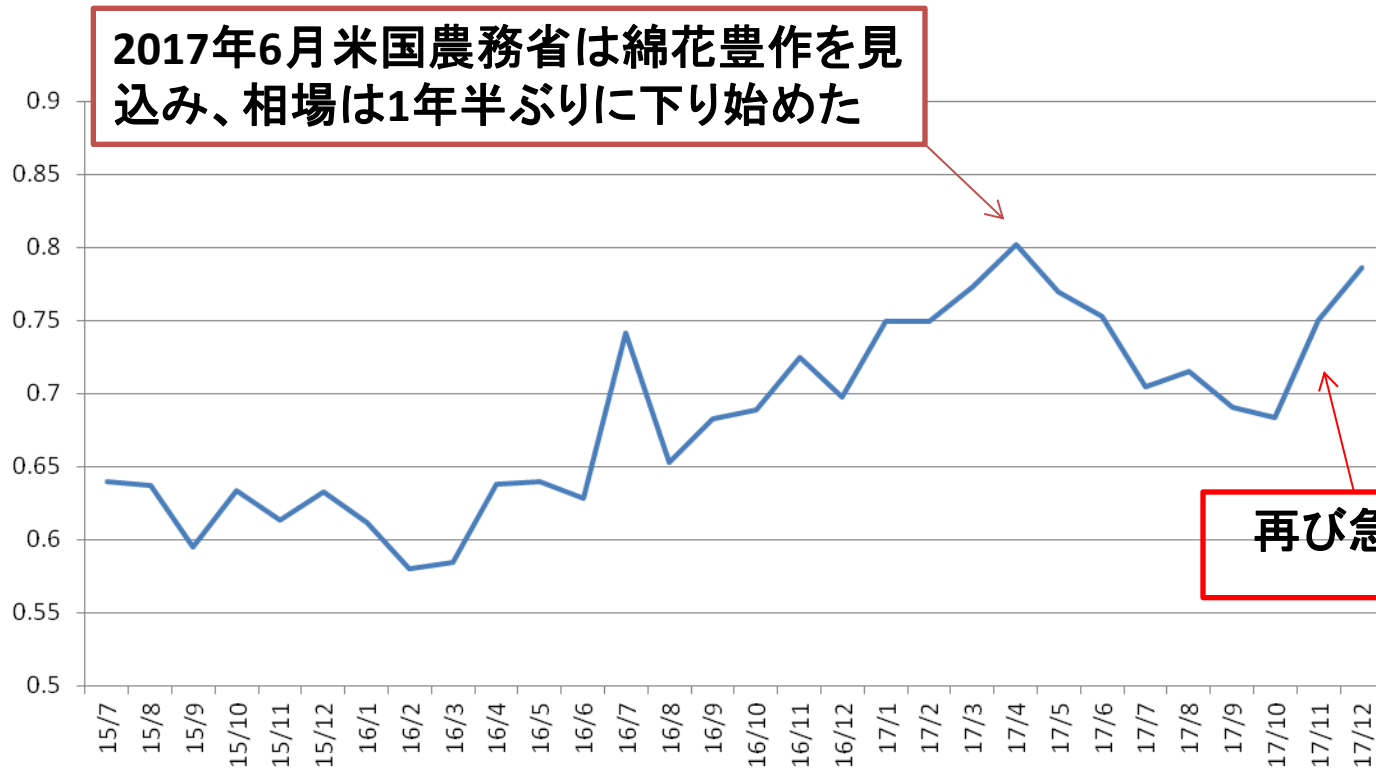


①中国②インド③パキスタン。

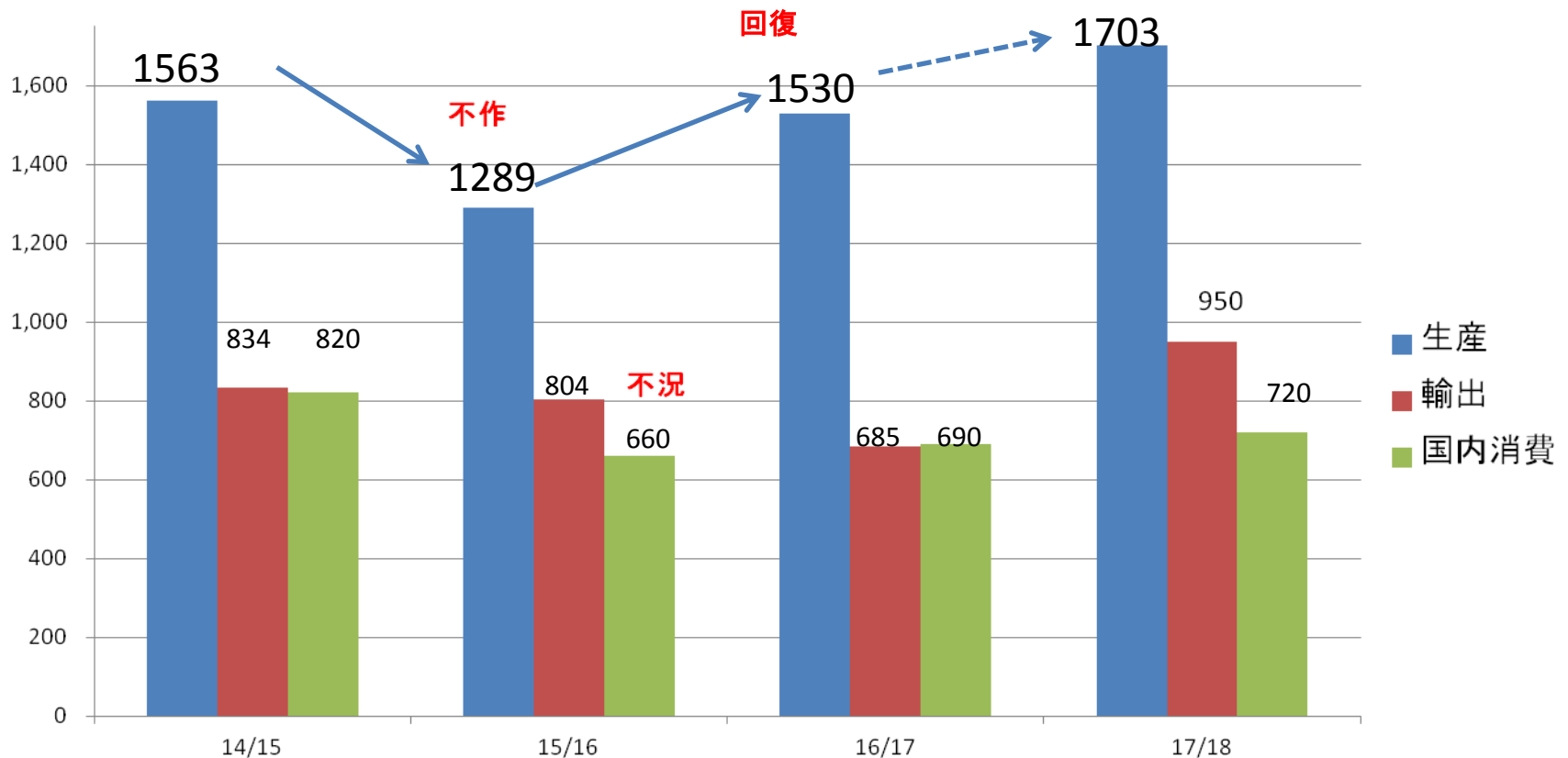
綿花生産のないバングラデッシュ、ベトナムが近年急増。(繊維加工基地化)

# 2018/3 繊維部会

＜NY定期相場＞17下に下降も18年始に再上昇(US\$/Lb)

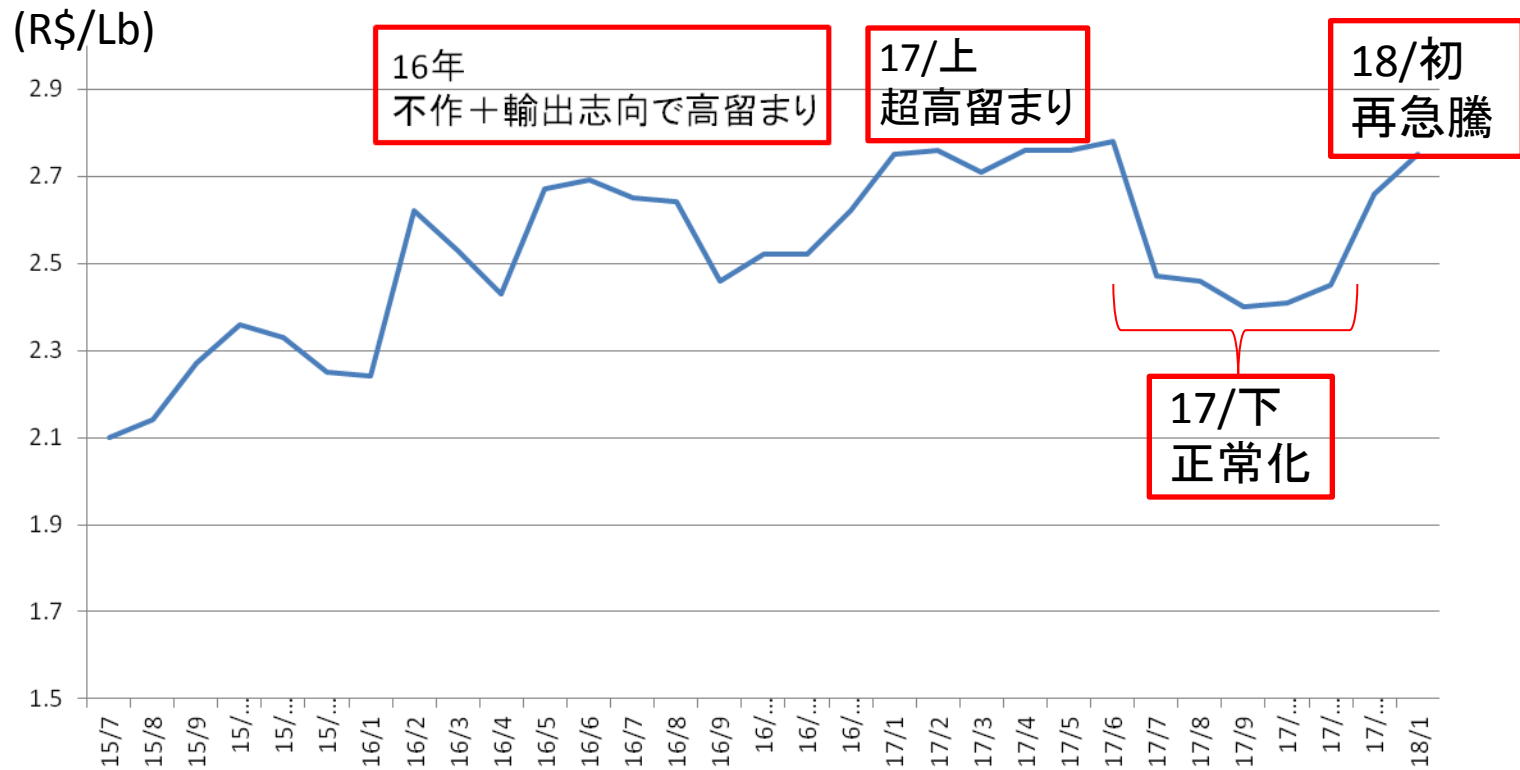


## ＜ブラジル国内＞綿花の生産・輸出・国内消費(1000t)



2016天候不順で不作生産減少、不況で消費も低迷。  
2017から生産回復も国内消費は微増に留まる。2018輸出は増加見込。

# ブラジル国内原綿価格相場推移

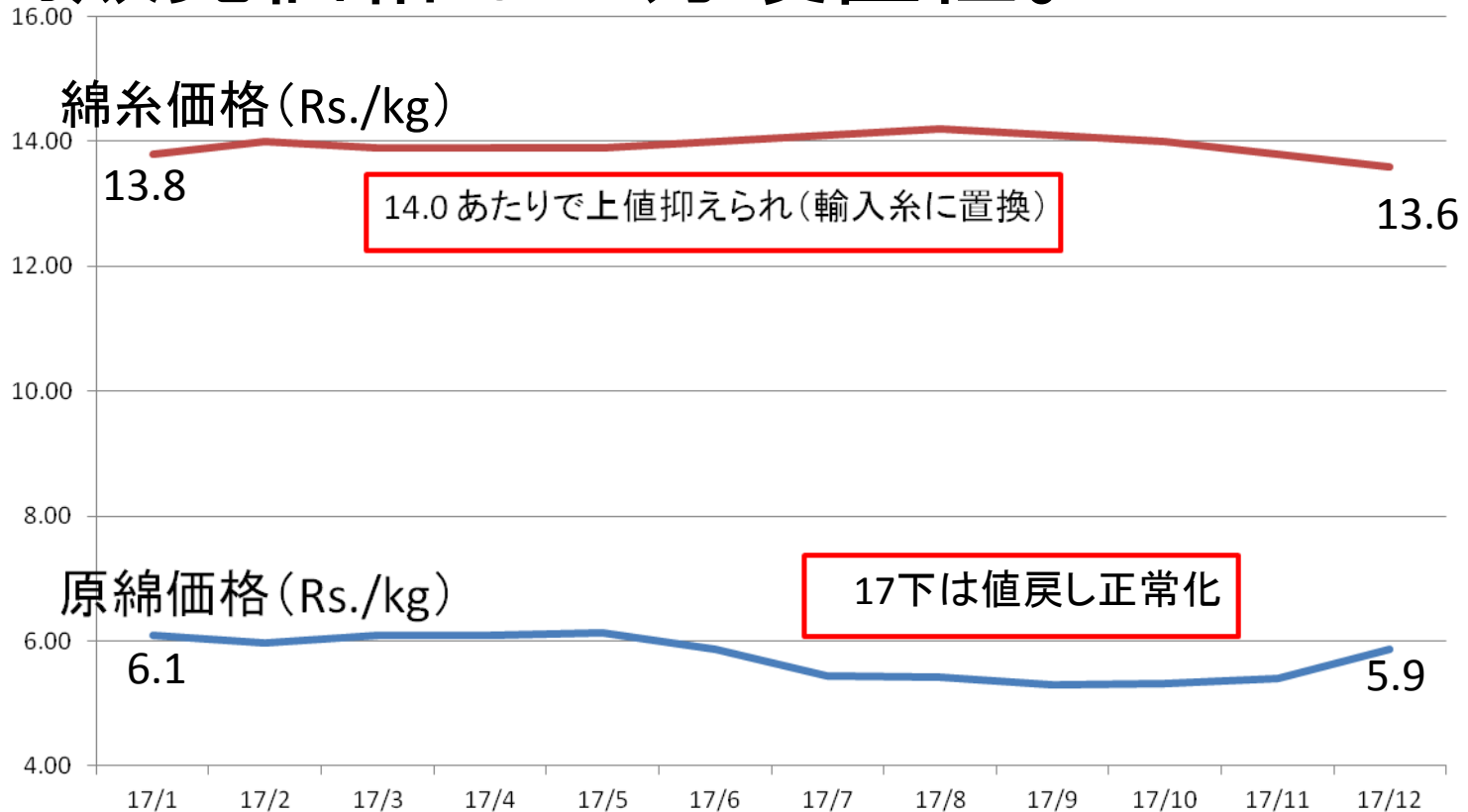


16年不作及び輸出志向で国内供給不足・高留まり～17/6月。  
 17/7月から1年半ぶりに適正化なるも18/始再急騰。

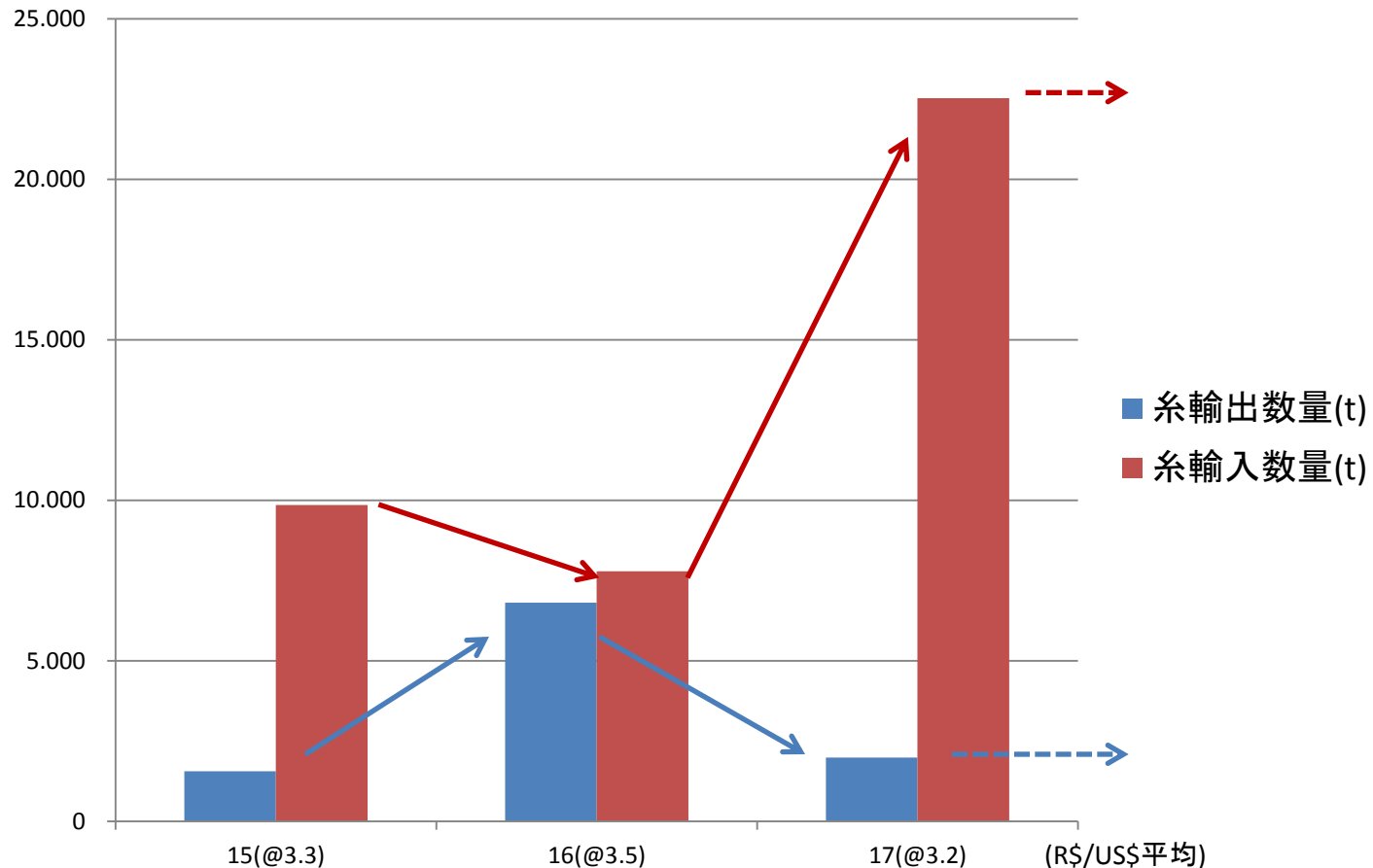
製品(綿糸)



# 国内販売価格は上方硬直性。



# 綿糸輸入は17に前年比3倍に急増。



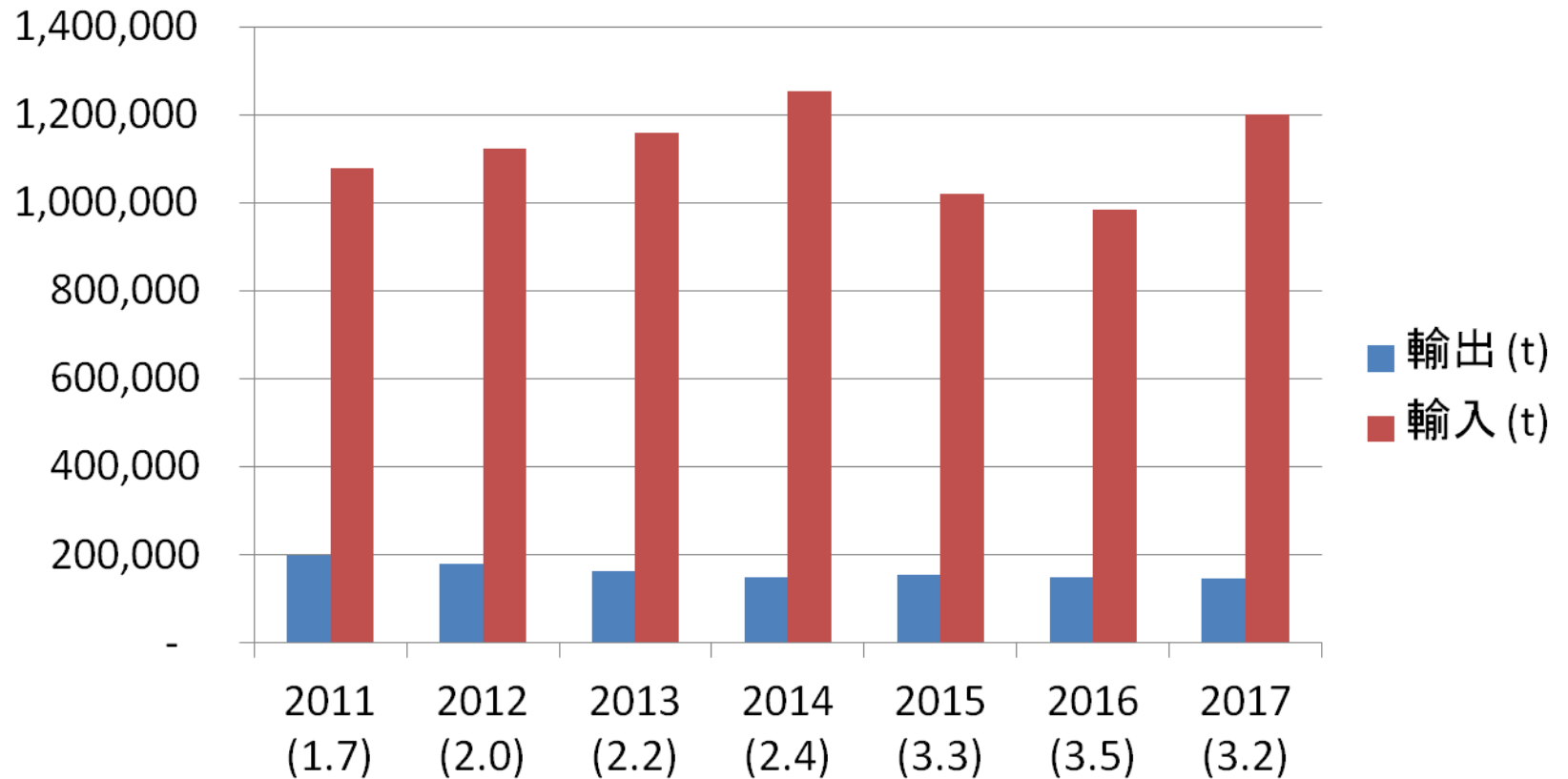
16年はレアル安で、輸出増、輸入減。17年はレアル高で反動。

製品(生地・衣料品・用品)



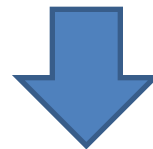


# 繊維製品輸入は不況前水準に回復



## ブラジル繊維産業

- ① 原料(綿花)を国内で調達でき、
- ② 産業全段階を国内に備え、  
(繊維産業150万人は資源転換業態中では食品・飲料に次ぐ規模)
- ③ 2億人消費市場を持つ



### 恵まれた経済構造

よって1955～日系紡績の進出(60年余の歴史あり)

原料を輸出し＋最終製品を輸入するトレンドが進む。

< 繊維産業の構造的特徴 >

→ ブラジルコスト負担の大きい「労働集約型」

共通職種3K労働多く、訴訟費用大きい

労働法・社会保険は改善方向だが遅い。時間かかる

< 業界、市場の動き >

→ 負担大きい自家生産より最終製品での輸入

< 労働者の思惑 >

→ 地道に働くより安易な所得。保護政策の悪用。

(労働訴訟、社会保険、補助金への依存)

- 市場回復による販売増を期待
- 早期の制度改革を願う
- 可能な自助努力を続ける

# いま求められる新たな視点は

- ・高機能製品での市場開拓
- ・差別化志向顧客と連携し品質改善、付加価値品を開発
- ・輸入対抗として、国産原綿地産地消をアピール国産品購買キャンペーン
- ・環境配慮型綿素材キャンペーン(Better Cotton Initiative)への参画
- ・信頼できる現地パートナーの探索
- ・日系の強みである、顧客フォロー、正確なデリバリー、品質安定
- ・ブラジル法制に対応する体制構築
- ・継続的コスト削減

# 2018/3 繊維部会



ユニチカ2代目マスコットガール手塚さとみ 1975

# MUITO OBRIGADO

**講評**

**在サンパウロ日本国総領事  
野口 泰**

**Avaliação do  
Cônsul Geral do Japão em São Paulo**

**Yasushi Noguchi**

# 閉会の辞

小池 淳介 総務委員長

**ENCERRAMENTO**

**Presidente da Comissão  
de Coordenação Geral**

**Junsuke Koike**